

第9回 関西元気な地域づくり発表会 報告書

平成26年3月1日(土)14:00～17:30



平成25年3月
主催:「関西元気宣言」発信運動本部

目次

開催概要	P.004
【第1部】	
基調講演「ヒトノミクスから考える地域の未来」	P.008
【第2部】	
第1分科会【観光交流部門】	P.025
木津川市の現代アートを活かしたまちづくり	P.026
産学官連携による新今宮地区での観光まちづくり	P.032
京丹波町の産品と人を活かした仕事づくり	P.037
つるみふれあいショッププロジェクト	P.041
～ソフトをよりソフトに～楽しみながら地域社会への参加を	P.056
自由討論・意見交流会	P.063
第2分科会【地域資源活用部門】	P.068
京都駅周辺地域のまちづくり活動	P.069
水軒堤防の再生と市民の公園の実現	P.077
新今宮観光インフォメーションセンターを核とした新たな社会的実践の展開	P.091
山添村の耕作放棄地の資源を活かしたむらづくり	P.097
小さな自治体・東堅町のまちづくり 伝統文化の継承と発展「猿楽能と町衆」	P.107
自由討論・意見交流会	P.115
第3分科会【コミュニティ・防災減災部門】	P.118
郊外住宅地のボランティアまちづくりーみんなの笑顔をもとめてー	P.119
「箱の浦まちづくり協議会」の活動報告	P.133
小さな自治体・東堅町のまちづくり	
地域社会のゴミ処理 現在社会の避けて通れぬ課題の1つ	P.140
看護の力を発揮したまちづくり	
～「子ども未来フォーラム大阪～広げようパパの育児休業～」開催を事例に～	P.147
「双葉町応援隊ーKIZUNAー」被災地と心をつなぐ	P.153
みんなで作ろう！防災かまどベンチ	P.159
自由討論・意見交流会	P.166
【第3部】	
全体交流会	P.170
自治体からの施策紹介パネル	P.176
添付資料	P.189

開 催 概 要

主催:「関西元気宣言」発信運動本部
後援:(一社)近畿建設協会

- ・日時:平成26年3月1日(土) 14:00~17:30
- ・会場:大阪合同庁舎1号館 第1別館 大会議室他

■第1部 14:00~14:50

基調講演 <2階 大会議室>

演題:ヒトノミクスから考える地域の未来

講師:NPO法人グリーンバレー理事長 大南 信也氏

2013年 ふるさとづくり有識者会議委員(内閣官房)
2013年 過疎地域自立活性化優良事例表彰 総務大臣表彰
2013年 文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)
2009年「地域環境美化功労者」環境大臣表彰
2009年 国際交流基金地球市民賞
2000年「ふるさとづくりコンクール」内閣総理大臣賞
2000年「世界に開かれたまち」自治大臣表彰

■第2部 15:00~16:30

文化会(テーマに分かれ地位づくり活動団体から発表)<3階 各会場>

※ 各会場への入退室は自由です。3つの会場で計16の団体が発表します。

第1分科会【観光交流部門】

座長 : 森重 昌之氏
(阪南大学 准教授)

3階
第4会議室

第2分科会【地域資源活用部門】

座長 : 横山 あおい氏
(NPO法人「人と自然とまりづくりと」理事長)

3階
第3会議室

第3分科会【コミュニティ・防災減災部門】

座長 : 田端 和彦氏
(兵庫大学 教授/附属総合科学研究所長)

3階
第2会議室

■第3部 16:40~17:30

全体交流会 <2階 大会議室>

コーディネーター : 田端 和彦氏
(兵庫大学 教授/附属総合科学研究所長)

プロフィール

大南 信也 氏(NPO法人グリーンバレー理事長)

NPO法人グリーンバレー理事長。徳島県神山町生まれ。米国スタンフォード大学院修了。90年代の初頭より神山町国際交流協会を通じて「住民主導のまちづくり」を展開。

98年米国生まれの道路清掃プログラム「アドプト・ア・ハイウェイ」を全国に先駆けて実施するとともに、「神山アーティスト・イン・レジデンス」などのアート事業を相次いで始動。

11年度神山町史上初となる社会動態人口増を達成。過疎化の現状を受け入れ人口構成の健全化を目指す「創造的過疎」を持論に各種まちづくり事業を展開中(TV「ガイアの夜明け」でも特集)。

13年より「ふるさとづくり有識者会議委員(内閣官房)」に就任。



森重 昌之 氏(阪南大学 国際観光学部准教授)

阪南大学国際観光学部准教授。大阪府生まれ。

北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院博士後期課程修了。

民間企業を経て、2011年より阪南大学国際観光学部国際観光学科専任講師、12年より現職。研究テーマは、観光まちづくり、観光を通じた地域社会の再生。NPO法人観光創造アカデミー第3回前田弘記念観光学賞受賞。朝来市商工会：着地型観光連携事業委員会委員、京都市西京区：大原野「地域ブランド」戦略検討部会アドバイザー等に就任。共編著に『地域資源を守っていかすエコツーリズム』、『観光の地域ブランディング』など。



横山 あおい 氏(NPO法人「人と自然とまちづくりと」理事長)

NPO法人「人と自然とまちづくりと」理事長、琵琶湖・淀川流域圏連携交流会事務局長、(有)エイライン代表取締役。

大阪府生まれ。技術士(総合技術監理、都市及び地方計画／道路)。人と自然が、人と人が心豊かに共存できるまちづくりを軸に、環境の創造・再生を行う活動と共に、まちづくりや環境団体の活動促進やネットワーク・交流の企画、コーディネート、行政との橋渡しなどを行っている。また、地域が元気になる為に地域の食材をプロデュースし、地域の情報と共に首都圏を中心とした食材の販路拡大の実践も手がけている。



田端 和彦 氏(兵庫大学 生涯福祉学部教授、附属総合科学研究所長(兼))

兵庫大学生涯福祉学部教授、附属総合科学研究所長。三重県生まれ。

広島大学大学院生物圏科学研究科博士課程後期修了。93年に広島大学助手、95年、兵庫大学講師、同大学経済情報学部経済情報学科准教授を経て、08年に生涯福祉学部発足により、現職。専門は地域経済学、地域政策論、地域福祉学。07年まで兵庫県の外郭団体である(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構地域政策研究所で、主任研究員を務め、地域再生や競争力向上、コミュニティビジネス等に関する研究にあたった。

著書に『参画と協働－理論と実践』他、また論文に「地域の産業創発の国際比較」、「地域の競争力向上とガバナンスのあり方」など。



分科会発表者一覧

第1分科会:観光交流部門

発表タイトル	団体名	府県市町
木津川市の 現代アートを活かしたまちづくり	木津川アートプロジェクト	京都府木津川市
産学官連携による 新今宮地区での観光まちづくり	新今宮地区観光まちづくり 推進協議会	大阪府松原市
京丹波町の 産品と人を活かした仕事づくり	(株)京のちから	京都府京都市
つるみ ふれあいショッププロジェクト	大阪市立鶴見商業高等学校	大阪府大阪市
～ソフトをよりソフトに～ 楽しみながら地域社会への参加を	A-yan!! 関西をアートで盛り上げるNPO	大阪府東大阪市

第2分科会:地域資源活用部門

京都駅周辺地域のまちづくり活動	龍谷大学門前町サークル、植柳 まちづくりプロジェクトチーム	京都府京都市
水軒堤防の再生と市民の公園の実現	水軒の浜に松を植える会	和歌山県 和歌山市
新今宮観光インフォメーションセンター を核とした新たな社会実験の展開	阪南大学国際観光学部 松村嘉久研究所	大阪府松原市
山添村の耕作放棄地の 資源を活かしたむらづくり	里楽	奈良県山添村
小さな自治体・東堅町のまちづくり 伝統文化の継承と発展「猿能楽と町衆」	東堅町自治会文化委員会・ 伝統文化部会	京都府亀岡市

第3分科会:コミュニティ・防災減災部門

郊外住宅地のボランティアまちづくり ーみんなの笑顔を求めてー	星田山手ボランティア・ 街づくり推進会	大阪府交野市
「箱の浦まちづくり協議会」の 活動報告	箱の浦自治会まちづくり協議会	大阪府阪南市
小さな自治体・東堅町のまちづくり 地域社会のゴミ処理 現代社会の避けて 通れぬ課題の1つ	東堅町自治会文化委員会・ まちづくり部会	京都府亀岡市
看護の力を発揮したまちづくり ～「子ども未来フォーラム大阪～広げ ようパパの育児休業～」開催を事例に～	パパの育児休業支援センター	大阪府大阪市
「双葉町応援隊 ーKIZUNAー」 被災地と心を一つに	京丹波町スポーツ少年団	京都府京丹波町
みんなで作ろう！防災かまどベンチ	防災かまどベンチ実行委員会	奈良県平群町

第1部
基調講演

ヒトノミクスから考える地域の未来

基調講演

ヒトノミクスから考える地域の未来

NPO法人グリーンバレー理事長 大南 信也氏

NPO法人グリーンバレー理事長。徳島県神山町生まれ。米国スタンフォード大学院修了。

90年代の初頭より神山町国際交流協会を通じて「住民主導のまちづくり」を展開。

98年米国生まれの道路清掃プログラム「アドプト・ア・ハイウェイ」を全国に先駆けて実施するとともに、「神山アーティスト・イン・レジデンス」などのアート事業を相次いで始動。

11年度神山町史上初となる社会動態人口増を達成。過疎化の現状を受け入れ人口構成の健全化を目指す「創造的過疎」を持論に各種まちづくり事業を展開中(TV「ガイアの夜明け」でも特集)。

13年より「ふるさとづくり有識者会議委員(内閣官房)」に就任。



2013年 ふるさとづくり有識者会議委員(内閣官房)

2013年 過疎地域自立活性化優良事例表彰 総務大臣表彰

2013年 文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)

2009年「地域環境美化功労者」環境大臣表彰

2009年 国際交流基金地球市民賞

2000年「ふるさとづくりコンクール」内閣総理大臣賞

2000年「世界に開かれたまち」自治大臣表彰



はじめに(PPT①)

- ・徳島県神山は「川の中でインターネットを使って東京の本社と会議してるまち」と、最近ではサテライトオフィスの動きで有名になってきた。
- ・今、日本の田舎で「地域における世代間の循環」と「移住者の循環」の2つの循環を取り戻す必要がある。
- ・「地域における世代間の循環」は、神山で生まれた子どもたちが、神山に帰ってこられるような仕組みづくりをすること。子どもたちをサテライトオフィスに連れていき、真剣に働いている姿を見せる。神山にも仕事があることを伝えている。
- ・「移住者の循環」は、過疎が進行すると世代間循環だけでは地域が持続しないので、都市部で活躍しきれていない若者たちに入ってきてもらう必要がある。そのために、彼らの仕事の問題を打破するため「ワークインレジデンス」(仕事を持った人に移住してもらうこと)を実施した。
- ・アリスの里帰りという小さな活動が町の人口が飛躍的に増加した。

ヒトノミクス

- ・今神山で起こっていることは、多額の予算をつぎ込んだのではなく、色々な人が入ってきたから。想い・アイデアが重なりあって色々なことが起きている。(PPT②)
- ・神山町は人口6,100人。1955年昭和の大合併により誕生したときは21,000人と、人口は減少するばかりだった。2007年に「神山町移住交流支援センター」が設置され(運営はNPO法人グリーンバレーに委託)、その後2011年度に初めて転出者が転入者を下回った。(PPT③)
- ・2010年10月以降、ITベンチャー企業10社によるサテライトオフィスの設置、小さな会社の本社移転、新会社誕生、今年前半にも3社がやってくる予定。2013年秋頃からYahoo!Japanも1泊2日の合宿を実施。同社は働き方や働く場所を根本的に見直して新たな「世の中をびっくりさせるサービス」を生み出したいという想いがある。

- ・ドローイングアンドマニュアルの菱川氏(NHK大河ドラマ「八重の桜」の冒頭桜のシーンを作成)も移住、優れたクリエイターが、新たなクリエイターを呼ぶ循環ができた。(PPT④)

活動の原点

- ・1997年に徳島県が神山を中心に「徳島国際文化村」を作るという報道に接して自分たちが描く文化村の未来像を「環境」と「芸術」の2本柱として提案した。県や町が作った施設であっても、必ず住民自身が管理運営する時代が来るだろうと思った。(PPT⑥)
- ・1980年アメリカ旅行中に道路標識で「アドプトプログラム」を知った。看板に企業名・スポンサー名が書かれ、民間で清掃活動をしていた。日本では行政が行う高速道路の清掃なども、将来的に民間で行うようになって思っていた。神山で国際文化村をつくるにあたり、初めて実施することで、日本のモデルを作ろうと考えた。企業名を看板に入れるのは道路交通法違反になると進まなかったが、1998年6月に半ば勝手に看板を設置し、住民が掃除を始めた。いまや県にも認められ、全国に広がっている。

「神山アーティストインレジデンス」

(PPT⑦)

- ・1999年から開始した。日本人2名、外国人1名を神山に招待し、2ヶ月間で作品制作を行ってもらい、住民は制作を支援する。まちづくり型アートイベントのほとんどが見学の観光客を呼び込もうとしているが、そのためには有名なアーティストを呼ぶ必要がある。しかし神山には「資金が潤沢にない」「アートの専門家がない」。(PPT⑧)
- ・アートを評価するシステムを持っていないと、アートを高めることができないので、制作に訪れる芸術家をターゲットにした。他の場所ではできない体験を神山でももらい、満足度を極度に上げて「場」の価値を高めることに注力をした。ねらいは、欧米のアーティストが「日本に制作にいくならば神山にしよう」と思うところを作ること。

ウェブサイト「イン神山」

- ・ウェブサイトを開設して7～8年、次第にビジネスに発展させていきたいと模索し総務省モデル事業として2007～2008年に、情報発信ツールとしてウェブサイト「イン神山」を開設し、アート関係の記事を作りこんだ。

2008年6月4日にサイトを公開。神山古民家情報「神山で暮らす」が、他コンテンツの5～10倍読まれた。(PPT⑨)

アートプログラム実施後、制作滞在したアーティストたちが毎年ほぼ1組ずつ移住し始め、2010～2012年度に37世帯71名(こども17名)が移住。2013年度は25世帯40名(こども10名)が移住し、過去最高となった。(PPT⑩)

移住者は若い人、起業者を優先する。アーティスト達の引越しの手伝いや大家さんとの交渉をNPO法人グリーンバレーで行っていくうちに、移住支援のノウハウを蓄積した。

「ワークインレジデンス」(PPT⑤)

- ・2007年、徳島県内8箇所にてきた移住交流支援センターのひとつとして、NPOグリーンバレーが運営委託を受けた。仕事を持った人に移住してきてもらい、雇用問題を解決させたかった。
- ・運営にあたり、全国の移住希望者から移住先市町村がもらう情報をインターネットで調べると、家族構成と希望物件が中心だった。
- ・神山では移住者の人間の情報—夢、志、どういう仕事をしてきたか、10年後神山でどういう職種から何割の収入を得ているかなど、生活のビジョンを聞く。(PPT⑪)

人間の情報を集めることで、まちの将来に必要なお店や仕事をピンポイントで逆指名する。「ワークインレジデンス」が機能しはじめる。例えば、神山に石窯でおいしいパンを焼くお店がないので空家を使ってパン屋をやる人だけを募集してみるなど。こうすることによって結果的にまちがデザインできるようになった。

- ・1955年上角商店街には38の店舗があったが、2008年には6店舗のみ。(PPT⑫) 商店街を「ワークインレジデンス」を利用して空家に人を入れていくと、次第に住民自達(じだん)が自ら「こういうお店をつくりたい」とほとんどコストをかけずに理想の商店街をつくりはじめた。(PPT⑬)
- ・2010年にクリエイターがオフィス兼住居をひらく「オフィスイン神山」をスタートさせた。施設は古い空家を東京学芸大学の学生(延べ約250名)と大工で改修した。
- ・そこに海外や都市部にたくさんの友達をもつクリエイターのトム・ヴィンセント氏の「ブルー部屋」が完成した。トム氏が使用するのは1年で1～2週間、空いた日は自分の友達に貸出したところ、クリエイターが定期的に変わることで、人が人を呼ぶ循環が行われる場所となった。

サテライトオフィス

- ・トム氏の「ブルー部屋」の改修を手伝った2人の建築家が、友達のSansan 寺田親弘氏を紹介したところ、神山移住を即決した。自然が多く、水も空気もおいしい、かつ各家庭に光ファイバーがありネットの速度がとても早い神山町にシリコンバレーを重ねあわせた。こうして初めて神山にサテライトオフィスが誕生したのもともと意図したのではなく、クリエイターや建築家の想いを応援した結果だ。川の中に足をつけてMacを持って仕事をする若者の姿が話題になり、一躍神山は有名になった。
- ・2007年6月に名刺管理会社Sansanを設立。ミッションは「働き方を革新する」

□波及効果

- ・クリエイターだけでなく、営業職の社員もサテライトオフィスでオンライン営業を行っている。最初は、社員が数ヶ月毎に変わる循環型だったが、この中から移住者がうまれている。
- ・サテライトオフィスでは、町内の若い世代の雇用もうまれ、都市部の人たちが憧れる場所となった。

- ・食べるところが少なかった商店街にはワークインレジデンスによりビストロがオープンし、空家だらけだった商店街も人の流れを取り戻すことができた。(PPT⑭)

人材育成事業「神山塾」

- ・民間が行う6ヶ月間の人材育成プログラム。利用者は首都圏の30代女性が多くこれまでに66人が卒業、うち4割は神山に残りクリエイターの仕事に就業。サテライトオフィスで雇用が生まれたりカップルが誕生している。(PPT⑮)

創造的過疎による地域活性

- ・過疎の問題の未来は見えにくい。日本全体の人口が減少する中、過疎化を止めることは難しい。(PPT⑯)しかし、現状を受け入れた上で、人口構成を変える、色々な職種は働ける環境を作ること、地域が持続可能なかたちに変えていくことが必要。現状を知るには人口過疎の数値を明確にして目標を明らかにする((PPT⑰)と、必然的に解決課題が見つかる。(PPT⑱)

まとめ

- ・1999年にアートの素地がない場所に現代アートがふってきた。
- ・最初は分からないことでも続けることで価値をもち、地域の魅力向上につながり、人が集まるようになり、人が人を呼ぶ現象がうまれる。さらに長く神山町に居る方と、新しく入ってくる方で知恵と経験の融合が発生し、ますます魅力的なまちになる。
- ・大事なことは「そこに何があるかではなく、そこにどんな人が集まるか」ということ。集まった人によって、何かがうまれてくる
- ・やってみなければわからない。まずは一歩踏み出して、考えるより行動することで、色々なことがみえてくる
- ・世界中の色々な場所から神山に人が集まることで、価値創造の場がうまれる。
- ・こういうところで何かを根本的に変えるような出来事が起こる。そうするためには人を集めることがとても大事。やっぱりヒトノミクスにつながる。
- ・好きな場所を、手を加え、行動を起こし素敵な場所に変えていきましょう！
- ・好きな関西を素敵な関西に！(PPT⑳)



①

ヒトノミクスから考える地域の未来

特定非営利活動法人グリーンバレー

理事長 大南 信也

Ominami.shinya@gmail.com

【講演の要旨】

- ① 地域における世代循環の再構築(サテライトオフィス)
- ② 仕事を持った移住者の確保(ワークインレジデンス)
- ③ 創造的過疎による持続可能な未来の開拓

②

過疎の町で起こった“二つの異変”

① 2011年度社会動態人口 ⇒ 町史上初の増加！



③

過疎の町で起こった“二つの異変”

② 2010年10月以降 ITベンチャー企業など10社がサテライトオフィス設置・本社移転！

- ① Sansan
(東京都) ・名刺管理サービス
- ② ダンクソフト
(東京都) ・サイト制作
- ③ ブリッジデザイン
(千葉県) ・サイト制作
- ④ テレコメディア
(東京都) ・高齢者見守りサービス
- ⑤ ソノリテ
(東京都) ・NPOの業務代行
- ⑥ 井上広告事務所
(神奈川県) ・広告デザイン
- ⑦ キネスコープ
(大阪府) ・サイト制作
- ⑧ プラトイズ
(東京都) ・テレビ番組の情報配信
- ⑨ ドローイングアンドマニュアル
(東京都) ・映像制作
- ⑩ えんがわ
(神山町) ・次世代高画質放送



進出予定 ・LW社 (東京都) ・デザイン
 ・M社 (東京都) ・ウェブ制作
 ・TD社 (東京都) ・3Dカーモデリング

④

青い目の人形「アリス」の里帰り

【青い目の人形】 カリフォルニア州での日本人移民排斥運動に心を痛めたギュリック博士が「子供のころから仲良くなることが大事」と呼びかけ、1927年、12,739体の人形を日本の小学校などに贈った。到着当時大歓迎された人形も、太平洋戦争勃発により、敵国人形として、ほとんどが処分された。現存数は全国で約300体。



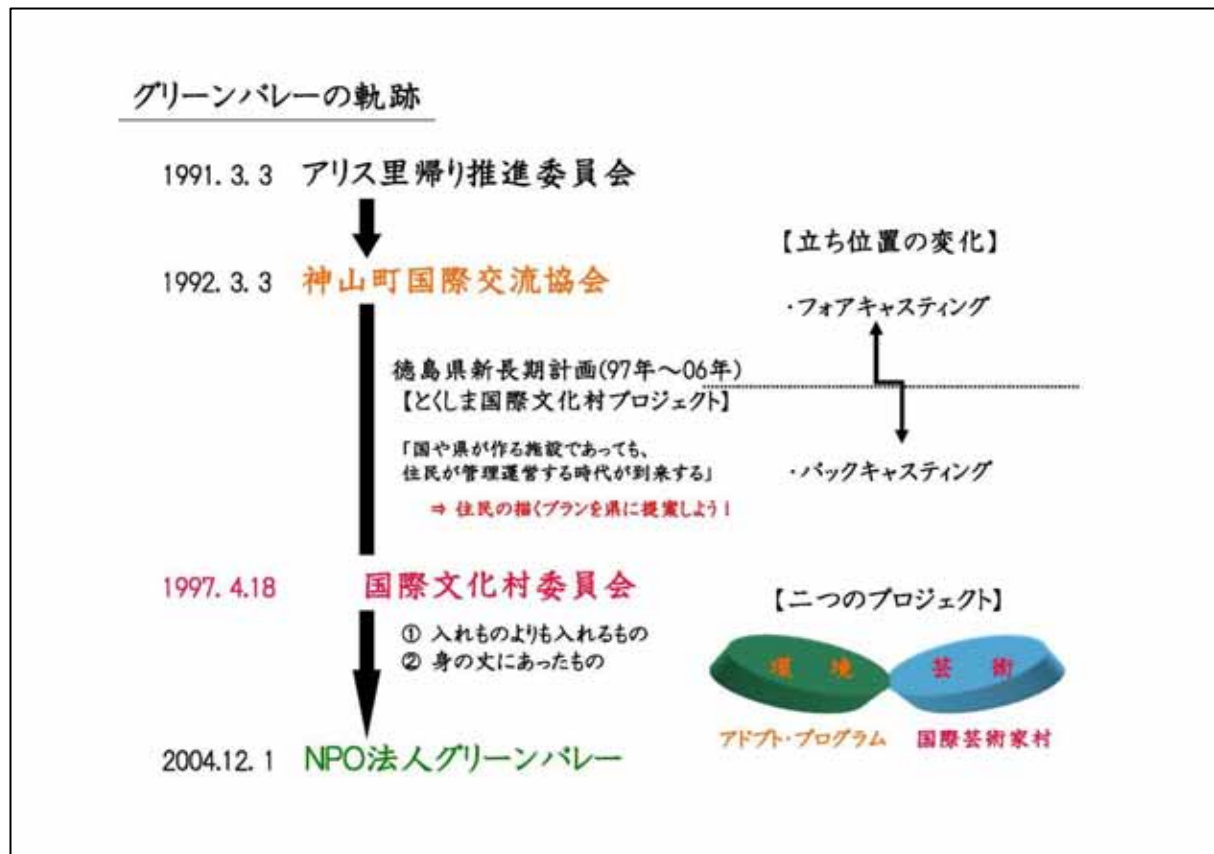
神領小学校蔵(1927年受領)



送り主探し(1990年5月) ⇒ 里帰り(1991年8月)

活動の原点 ⇒ 国際交流(世界に目を向けた地域づくり)

⑤



⑥

アドプト・ア・ハイウェイ

【Adopt Program】 住民団体や企業が里親となり、道路や河川など公共施設の一区間を養子として引き取って、その区間を行政に代わって世話をする仕組み。1985年、米国テキサス州道路局が地域住民に高速道路上の散乱ゴミの清掃を依頼したのが起源。



「道路法の関係もあり、企業名入り標識の設置は難しい」(徳島県)
⇒ 1998年6月、道路区域に看板を立て強行突破。**全国初実施！**

⑦

神山アーティスト・イン・レジデンス(KAIR)

【Artist in Residence】国内外からアーティストを一定期間招聘して、活動を支援する事業。自治体や公立美術館が取り組むケースが多い中、KAIRは住民主導による手厚く、きめ細やかなサポートが特徴。大規模な施設を持たず、学校の空き教室や遊休施設をアトリエとして活用するなど工夫を凝らしている。



1999年開始。芸術家(日本人1名・外国人2名)招聘、制作支援。

⑧

「アートによるまちづくり」における「二つの手法」

1. 見学に訪れる観光客

☛ 「評価の定まった芸術家の作品」を集める

2. 制作滞在する芸術家

☛ 「場の価値」を高める ⇒ 制作滞在をビジネスに！

⇒ ウェブサイトづくり

ウェブサイト「イン神山」制作

総務省地域ICT利活用モデル構築事業

プランニング・ディレクション:

西村佳哲氏(リビングワールド)

⇒ ワークインレジデンス

Co-プランニング:

トム・ヴィンセント氏(トループ社)

⇒ ブルーベアオフィス神山



☛ 「神山で暮らす」による移住需要の顕在化

⑨

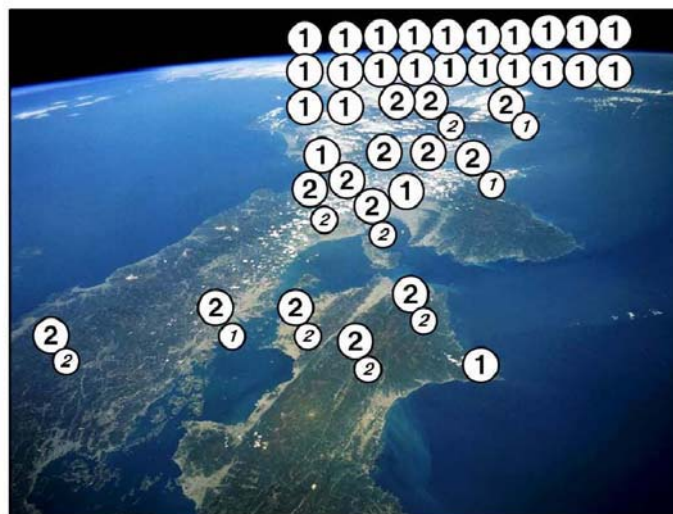
神山町における移住の歩み

1980	陶芸家一家（石川県） & 画家夫妻
1991. 8	青い目の人形アリスの里帰り
1992. 3. 3	神山町国際交流協会
1999.10	神山アーティスト・イン・レジデンス（K A I R）
2002. 2	K A I R 2001作家①（東京都）
2003. 7	K A I R 2001作家②（神奈川県）
2004. 5	K A I R 2001作家②の知人（兵庫県）
2004.12. 1	N P O 法人グリーンバレー
2005. 3	画家（京都府）
2006. 4	K A I R 2005作家（神奈川県）
2007.10. 1	神山町移住交流支援センター
2008. 6. 4	ウェブサイト「イン神山」

⑩

神山町移住交流支援センター運営事業

2010・2011・2012年度： 37世帯 71名（子ども17名）

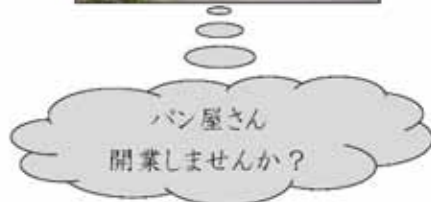


目 的：過疎化・少子高齢化・産業の衰退等の地域課題解決
方 針：子どもを持つ若者夫婦・起業家・若者への紹介を優先

⑪

ワーク・イン・レジデンス

将来、町にとって必要な働き手や起業家を逆指名
(アーティスト・イン・レジデンスの読み替えによる発想)



⑫

商店街再生プロジェクト(空家町屋)

東京藝術大学建築科研究室連携事業



ワークインレジデンスを商店街に適用

⇒ 移住・起業・商店街再生を同時に実現!

空家町屋



ブルーベアオフィス神山

⑬

サテライトオフィスはどのようにして生まれたのか？



⑭

人材育成『神山塾』

厚生労働省所管求職者支援制度を利用した半年間の民間職業訓練

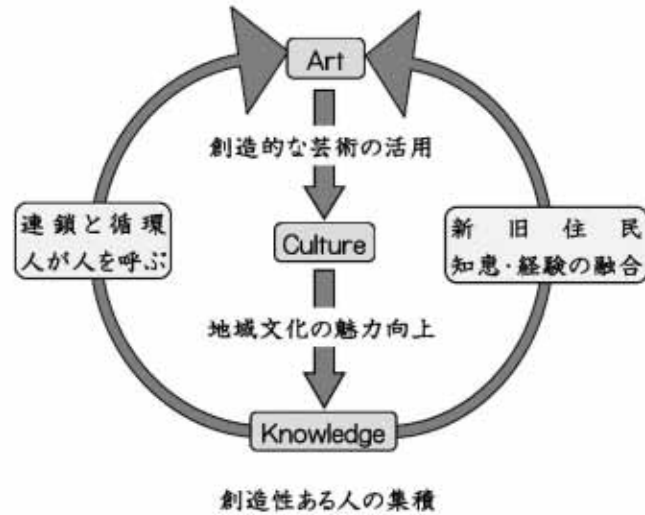


① 移住予備軍 ② SOへの就職 ③ カップル誕生

⑮

芸術・文化による地域再生

[現在を起点としたアプローチ(フォアキャストिंग)]



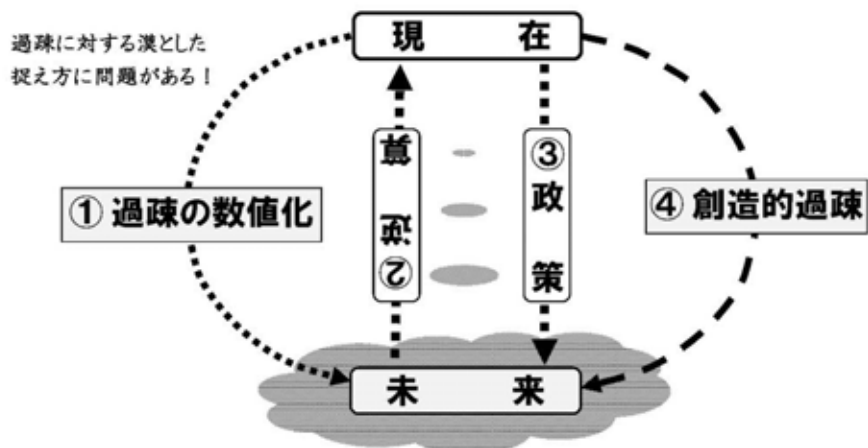
(注) 大阪市立大学大学院 佐々木雅幸教授作成の図に大南加筆

そこに何があるかではなく、どんな人があつまるか！

⑯

創造的過疎による地域再生

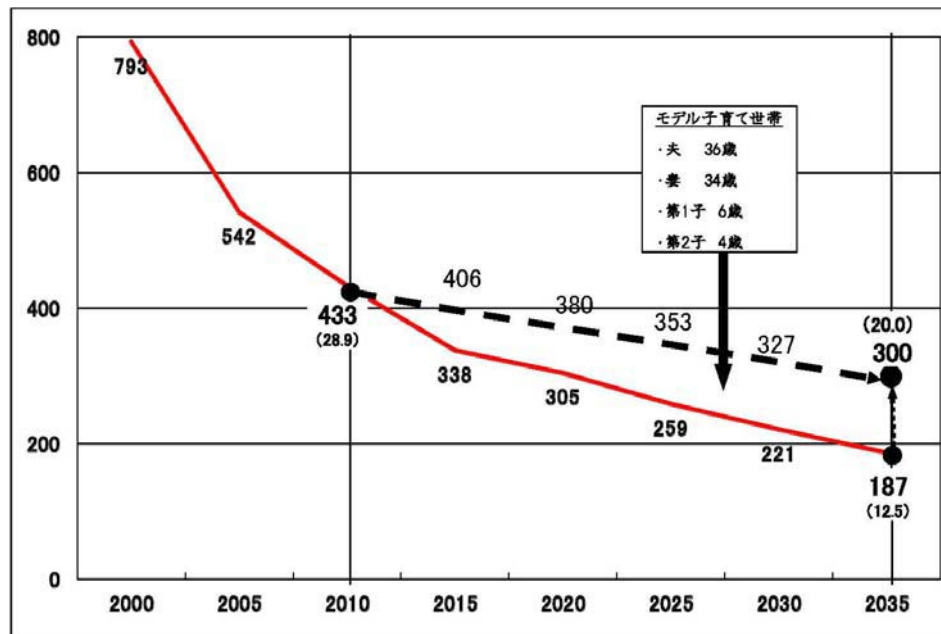
[未来を起点としたアプローチ(バックキャストिंग)]



人口減少を与件として受け入れ、外部からクリエイティブな人材を誘致することで人口構成を変化させ、地域を持続可能に変えていく

⑪

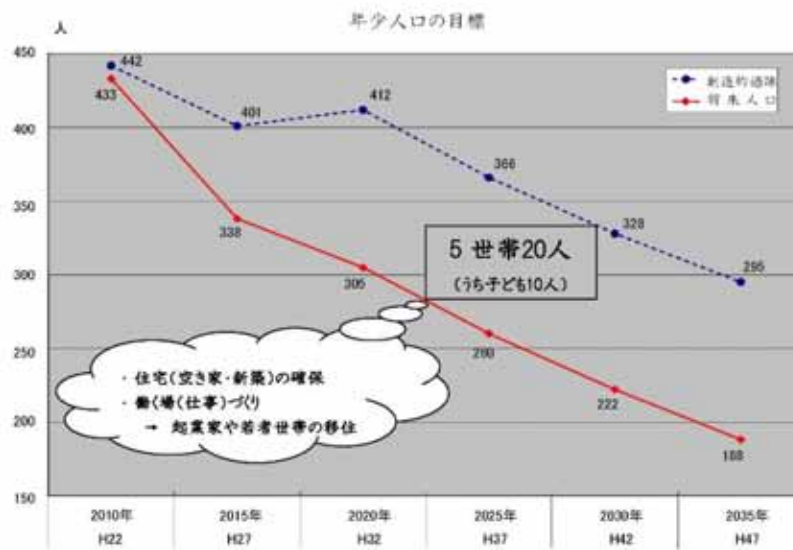
神山町・年少人口(0-14歳)の推計値



※厚生労働省国立社会保障・人口問題研究所発表の「日本の市区町村別の将来推計人口」

⑫

創造的過疎による地域再生



※ 徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部・石田和之准教授による試算

⑪

「せかいのかみやま」の風景

クリエイティブな人が集まる、良質な価値創造の場



イベントのように、モノを中心とした仕組みは飽きが出るが、人は適度に循環させておけば、継続的に新しい何かを生み出せる！

『ヒトノミクス』による地域再生

⑫

グリーンバレーのまちづくりを詳細に記した単行本が発売されます！

神山プロジェクト -- 未来の働き方を実験する

篠原匡（日経ビジネスクロスメディア編集長）

出版社名： 日経BP社

発売予定日： 2014年3月6日

内容：サテライトオフィスなどの取り組みで注目を集める徳島県神山町とグリーンバレーの物語。IT企業や若者が集まる神山を通して、クリエイティブを生む場作りや新しい働き方などを描く。

第2部

分科会

(テーマに分かれ地域づくり活動団体からの発表)

第1分科会:観光交流部門

第2分科会:地域資源活用部門

第3分科会:コミュニティ・防災減災部門

第1分科会：観光交流部門

座長：森重 昌之 氏（阪南大学 準教授）

第1分科会：観光交流部門

発表タイトル	団体名	府県市町
木津川市の 現代アートを活かしたまちづくり	木津川アートプロジェクト	京都府木津川市
産学官連携による 新今宮地区での観光まちづくり	新今宮地区観光まちづくり 推進協議会	大阪府松原市
京丹波町の 産品と人を活かした仕事づくり	(株)京のちから	京都府京都市
つまみ ふれあいショッププロジェクト	大阪市立鶴見商業高等学校	大阪府大阪市
～ソフトをよりソフトに～ 楽しみながら地域社会への参加を	A-yan!! 関西をアートで盛り上げるNPO	大阪府東大阪市

座長

森重 昌之 氏（阪南大学 国際観光学部准教授）

阪南大学国際観光学部准教授。大阪府生まれ。
北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院博士後期課程修了。
民間企業を経て、2011年より阪南大学国際観光学部国際観光学科専任講師、12年より現職。研究テーマは、観光まちづくり、観光を通じた地域社会の再生。
NPO法人観光創造アカデミー第3回前田弘記念観光学賞受賞。朝来市商工会：着地型観光連携事業委員会委員、京都市西京区：大原野「地域ブランド」戦略検討部会アドバイザー等に就任。共編著に『地域資源を守っていかすエコツーリズム』、『観光の地域ブランディング』など。



木津川市の現代アートを活かしたまちづくり

木津川アート総合プロデューサー 佐藤 啓子

京都府 木津川市 観光商工課 ○西村 和将

1.活動方針・目的

3町が合併した市であるため、市民が自分達の住むまちを見つめなおすきっかけづくりとして誕生したのが、現代アートを活用したまちづくり事業「木津川アート」です。

木津川アートは市内の様々な場所を舞台にすることで、地元の方には、まちの魅力の発掘や再発見を、市外には市の魅力を発信しながら、市民同士の交流はもとより市内外の交流人口を増加させることにより旧町の垣根を無くし、自分たちの新しい市の魅力を発信するきっかけづくりとして進めています。

2.活動内容

木津川アートは、古民家や日常的な空間に芸術作品を展示するイベントです。平成22年度に第1回を開催し、以降3年にわたり、毎年秋に開催してきました。

事業の運営は、観光協会に委託し総合プロデューサー・観光協会・市を本部として、ボランティアと実行委員会を構成していますが、実際には総合プロデューサーを中心に集まったボランティアが企画段階から会場探しや瓦版の発行、当日のマップ作成まで、すべてを手作りで行っています。

主なボランティアの活動としては、スタッフが集い事業内容を企画するミーティング、作家のための空間探しツアーなどで空腹を満たしてくれる「ぶたじる隊」、会場となる場所を清掃する「おそうじ隊」、イベント期間中作品の見守りをしてくれる「みまもり隊」、さらに小学校での取り組みでは「給食係」も登場しました。

こうしたボランティアのもてなしの心が、作家をはじめとした関係者だけでなく、イベントに来場される方にも通じ、あらたな交流も生まれています。

3.他の活動団体の参考となる事例

平成24年度は、閉校の小学校を舞台に「1日小学生になろう」をコンセプトに周辺空間を活用して開催しましたが、開催エリアを小学校周辺地域に限定したことで、地域住民との関係性がこれまで以上に密度の高いものとなり、地域主催の行事に参加作家やボランティアなどの関係者が積極的に参加をしたり、地域住民の方が、自ら自宅をもてなしの場として開放するなど、主催者と地域が交流する機会も増えました。

4.今後の課題等

事業の形態や規模、開催地域を含め定型化には至っていません。また持続性を確保するための財源の確保や市民ボランティアを運営主体とした組織の基盤強化が課題となっています。



木津川アート

木津川市の現代アートを活かしたまちづくり

木津川アートプロジェクト
(京都府木津川市)

木津川市について

- 平成19年3月12日 3つの町が合併
- 国家プロジェクト
「関西文化学術研究都市」の中核地
⇒高い人口増加率
※参考:人口 72,283人(平成26年1月1日現在)
66,580人(平成19年3月末)
- 文化財の宝庫



木津川アート

3つの町がひとつになるということ



市の魅力を見つめ・創造し
発信するための大きな機会



- ① 平成22年
平城遷都1300年祭(奈良県)
- ② 平成23年
第26回国民文化祭(京都府)

木津川市らしさの発信

(合併に起因する課題) 市としての一体感の希薄

- 市民が自分達の住むまちを見つめなおすきっかけづくり
 - 市の魅力や文化を市内外に発信すること
- ⇒ 現代アートを活用したまちづくり事業「木津川アート」の誕生



木津川アート

2

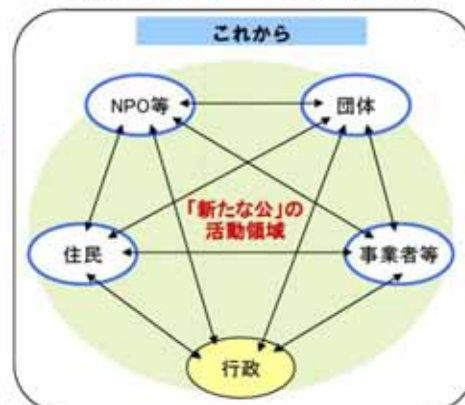
木津川アートはまちづくり

3つのまちづくりの基本原則(基本構想)



木津川アート会場の
清掃を行うボラ
ンティアスタッフ

総合計画において
「新たな公」のイメージを明確化



木津川アート

3

これまでに3回開催

2010 ～流れ その先に～

開催期間:12日間 集客数:20,823人(12か所)
ボランティア数:93人 作家数:49組

2011 ～明日への記憶～

開催期間:11日間 集客数:59,485人(24か所)
ボランティア数:108人 作家数:37組

2012 ～1日小学生になろう～

開催期間:16日間 集客数:5,900人(1か所)
ボランティア数:99人 作家数:42組

2014 ～まち 100年の邂逅(かいこう)～

開催期間:11月2日～11月15日(14日間)
作家数:45組程度

集客数:??? = まちの魅力を知ってくださる方



毎回作成するドキュメントブック



木津川アート

4

こんな感じです ～笑顔が多い～



木津川アート

5

こんな感じです ～新★再発見～



木津川アート

6

支えてくれる「人の力」

▼おそうじ隊



▼ぶたじる隊



▼みまもり隊



▲給食係



▲地元のみなさんも一緒に



▲地元イベントにも参加



木津川アート

7

アートが創り出す魅力・人の力

中心となるボランティアの拡がり

運営主体の基盤づくり



持続性に向けた財源の確保



木津川アート

8

(最後に)

今年は11月2日～11月15日

木津川アート

検索

KIZUGAWA ART
MAGAZINE 木津川アート
マガジン



～アクセス～

案外近いかもしれません
近鉄でどうぞ！！

最寄駅

「近鉄高の原駅」

- 大阪難波から約40分
(大和西大寺乗り換え)
- 三宮から約90分
(大和西大寺乗り換え)
- 京都から約40分
(乗り換えなし)
- 奈良から約10分
(乗り換えなし)



木津川アート

9

産学官連携による新今宮地区での観光まちづくり

新今宮地区観光まちづくり推進協議会

会長・松村 嘉久 学生代表・松川 和矢 事務局・森なおり

1.活動方針・目的

2012年春、橋下徹・大阪市長が西成特区構想を打ち出し、その後の西成特区構想有識者座談会で、あいりん地域を中心とする西成区の観光振興施策が練り上げられていった。我々はその内実を意識しながら、あいりん地域や西成区ではなく、区境にとらわれず広く新今宮地区と捉え、観光交流の拠点機能を強化するような観光まちづくりを、産学官連携のもとで推進していくことを目的として、2012年11月に、新今宮地区観光まちづくり推進協議会を結成した。

結成時の構成メンバーは、大阪府簡易宿所生活衛生同業組合(山田純範理事長)、大阪国際ゲストハウス地域創出委員会(西口宗宏委員長)、JR西日本、南海電鉄、ホテル中央グループ、阪南大学国際観光学部(松村嘉久・協議会会長)、大阪府立大学観光産業戦略研究所(橋爪紳也教授・顧問)で、その後、阪堺電車も加わり、結成当初から西成区役所とも緩やかな連携をとりながら、㈱インプリージョンが事務局を務めて現在に至っている。

2.活動内容

本協議会は、新今宮地区に宿泊して滞在そのものを楽しみながら、そこを拠点として、鉄道など公共交通機関を利用した観光行動を促進し、地区内での滞在の長期化を実現することによって、近隣地域との観光交流を振興しまちづくりへつなげるような活動の展開を志している。具体的には以下の活動を行ってきた。

第一に、新今宮地区に滞在しそこを拠点に観光するというコンセプトを貫いた『大阪・新今宮ガイドブック』(日本語版)、『OSAKA・SHIN-IMAMIYA GUIDE BOOK』(英語版)を、平成24年度「大阪へ行く! 大阪で遊ぶ! アイデアプラン」の認定を受けて作成した。同ガイドブックは、新今宮地区のゲストハウスと観光インフォメーションセンターにて、主として外国人個人旅行者(FIT)に配布されている。同ガイドブックは利用者の利便性を高めるため、PDFファイル化され、ウェブサイトからもダウンロードできる。

第二に、新今宮地区を拠点とした国際観光振興のポテンシャルを探るべく、同地区を発着地とする外国人モニターツアー、南海電鉄利用の高野山ツアーと阪堺電車利用の住吉・堺ツアーを実施した。加えて、2013年度中にもう2回、JR西日本利用の城崎温泉ツアー、南海電車・南海バス利用の金剛山ツアーを実施する予定である。実施済みのモニターツアーからは、ツアーを安易にパッケージ化するのではなく、割安で利便性の高い鉄道お得チケットなどを活用して、FITが着地型で行動できるような環境整備が重要である、との知見が得られている。

第三に、新今宮地区で内外からの旅行者が滞在する利便性を高めるべく、太子交差点北東角の『新今宮地区案内図 Shin-Imamiya Area MAP』(2013年4月設置)の監修を同協議会が行った。同じ趣旨から、JR西日本や南海の新今宮駅構内や新今宮地区内において、多言語対応した案内を増やす働きかけも展開している。

現在、協議会で検討している課題は、①新今宮地区の宿泊・観光拠点性のさらなる強化、②外国人収容能力と外国人対応能力の向上、③西成アート回廊プロジェクトの支援、④JR西日本と南海の新今宮駅での旅行者の利便性の向上などであり、イスラム教徒への接遇や対応も視野に入れている。

3.他の活動団体の参考となる事例

個々の企業の利益追求や組織の立場に囚われることなく、地域全体としての集客・拠点機能が高まることで、結果として個々の企業や組織の繁栄にもつながる、というコンセプトで協議会の結成を呼びかけた。また、FITが集積するという新今宮地区の地域特性は、日本全国でも稀有な存在であり、日本の観光立国の成否を占う社会実験ができる場である、という共通認識を協議会メンバーが有している点も、大きな強みである。

4.今後の課題等

今後は、西成特区構想における観光振興施策の内実をしっかりと見極めながら連携を深め、西成区内の商店街組織や新世界・日本橋にも協働を働きかけて行きたい。さらには、阿倍野・天王寺から難波・ミナミを一体的につなげる重要な地域として、大阪近郊のみならず関西一円・日本各地へFITを回遊させる観光拠点として、新今宮地区が位置づけられるような活動を展開して行きたい。

産学官連携による新今宮地区での 観光まちづくり

新今宮地区観光まちづくり推進協議会
会長・松村嘉久 学生代表・松川和矢 事務局・森なおみ

西成特区構想における観光振興

- 西成**特区構想**の表明(2012年春)
 - 行政に対するあいりん地域の複雑に絡み合う不信感:動揺と警戒
 - 変化への期待感
 - ➡ どうせやるならば、これまで地域で活動してきた**経験や知恵を活かし良い方向へ誘導**しよう!! : 有識者座談会の組織
- 西成特区**有識者座談会**を12回開催(2012年6月から9月)
- 第3回座談会 **観光振興専門部会**(2012年7月9日)での松村提案
 - 国際ゲストハウス地域の指定と育成
 - 大阪市簡易宿所関連条例の緩和:地域としての宿泊収容能力の強化
 - 外国語看板の設置
 - 屋台街(堺筋夜市)構想
 - 西成ライブエンターテインメントの振興

➡ **産学官連携**でできることを実現しよう!!



新今宮地区観光まちづくり推進協議会

・ 設立の目的

- あいりんや西成でなく**新今宮地区**という**地域設定**：浪速区新世界・天王寺・阿倍野も視野に
- ①新今宮地区へ**内外から旅行者を誘致**
- ②新今宮地区で旅行者らが**快適に過ごせる環境整備**：地域の多言語化
- ③新今宮地区を宿泊拠点に**公共交通を利用する観光行動の促進**：観光拠点化と長期滞在化

・ 構成メンバー

- 大阪府簡易宿所生活衛生同業組合
- 大阪国際ゲストハウス地域創出委員会
- ホテル中央グループ
- **JR西日本・南海電鉄・阪堺電車**
- 阪南大学国際観光学部（松村・会長）
- 大阪府立大学観光産業戦略研究所（橋爪紳也教授・顧問）
- (株)インブリージョン（事務局）
- ➡ 西成区役所：**官との緩やかな連携**

2013年9月 高野山モニターツアー



2013年10月 住吉・堺モニターツアー



新今宮地区を拠点とした観光の促進 1

- ・ 『大阪・新今宮ガイドブック』（日本語版）と『OSAKA・SHIN-IMAMIYA GUIDE BOOK』（英語版）の作成
 - 2012年度**大阪集客プラン事業認定**
 - 新今宮で宿泊滞在し新今宮を発着地としての観光行動の紹介に特化
 - 新今宮TICで把握した**FITの特性や観光需要から内容を吟味**
 - 日本語版と英語版で**異なる内容**

- ➡ 新今宮地区に宿泊している内外からの旅行者の利便性向上に**特化**
- ➡ 新今宮地区の**国際ゲストハウスと関連機関でのみ配布**

- ・ 新今宮地区観光まちづくり推進協議会：The Association for Promotion of Tourism Development in Shin-Imamiya



新今宮地区を拠点とした観光の促進 2

- 新今宮地区を発着地として鉄道を利用する**モニターツアー**の実施
 - 2013年9月 南海電鉄利用の高野山ツアー：宿坊と宗教
 - 2013年10月 阪堺電車利用の住吉・堺ツアー：大安祝日と伝統産業
 - 2014年2月 JR西日本利用の城崎温泉ツアー：温泉街景観
- 外国人個人旅行者には、**パッケージ化されていない観光コンテンツを完全着地型で提供**できるかが課題!!
- 鉄道会社提供の「お得チケット」と新今宮地区の**ポテンシャル**
 - 宿泊拠点に向けた相乗効果
- 2020東京オリンピックに向けて
 - 関西で宿泊・観光してオリンピック観戦待ちするはず...
 - 2019ラグビーワールドカップも

南海・阪堺・大阪市交通局のお得チケット

Koyasan World Heritage Ticket

Content: Discount two-way boarding ticket from the boarding station to Koyasan Station. Free boarding tickets for buses in Koyasan (Nankai Rinkai buses).

Price: (Example) @ From Namba station. The regular full adult fare ¥3,350 → ¥2,780. With Koya Limited Express ¥4,110 → ¥3,310.

Kanku Chikatoku Ticket

Content: This ticket is useful for the traveling from Osaka city area to Kansai International Airport. From Kansai International Airport to Nankai Namba station (One way). Subways: from every station of subway to Nankai Namba (One way). Transfer between Nankai Line and Subway is limited at Nankai Namba station.

Price: (Example) @ From Nankai Kansai Airport station to Subway Umeda station. ¥980 for adults. ¥490 for children.

Sakai and Sumiyoshi MANPUKU Ticket

Content: One day free ticket both all Hankai line and limited Nankai train & bus. With showing this ticket, you can enjoy special benefit and discount at some facilities, restaurants and shops.

Price: ¥1,000 for only adults.

Tekuteku Ticket

Content: One day free ticket of Hankai line.

Price: ¥600 for adults. ¥300 for children.

KANSAI THRU PASS Osaka Unlimited Pass (Osaka area version)

Content: One day free for getting on and off of Subway and Bus in Osaka. 28 tourist facilities for free. Special benefits at 11 tourist facilities and 39 shops and restaurants.

Price: ¥2,000 for only adults.

例えば...

- JR西日本の外国人専用のお得チケット（4日間乗り放題7,000円）の場合...
 - 初日は京都：片道890円
 - 二日目は奈良：片道540円
 - 三日目は姫路：片道1,620円
 - 四日目は城崎：片道4,940円
 - ⇒ なんと合計15,980円が7,000円
 - ⇒ このチケットの存在を知らない、と悔しがめる外国人が続出する!!
- 新今宮地区を発着地とする**魅力ある旅の多様な選択肢を提供**できるかが鍵!!
- 新今宮地区の**重要性と可能性の再認識**
 - 観光ゴールデンコース以外の新たな観光地の発見
 - 国際ゲストハウスや鉄道会社と連携しての目的地キャンペーン

Discount tickets of JR Lines

Kansai Area Pass

4-day unlimited ride for ¥2,000 (Adults), ¥1,000 (Children). Valid for 4 consecutive calendar days.

Kansai WIDE Area Pass

4-day Unlimited ride for ¥7,000 (Adults), ¥3,500 (Children). Valid for 4 consecutive calendar days.

Sanyo Area Pass

4-day ¥20,000 (Adults), ¥10,000 (Children). Valid for 4 consecutive calendar days.

San'yō-Shikoku-Nankai-Nogami All Pass

4-day ¥22,000 (Adults), ¥11,000 (Children). Valid for 4 consecutive calendar days.

ICOCA+ HARUKA

¥2,000 per card. Valid for 4 consecutive calendar days.

Kansai WIDE Area Pass

Perfect for those who want more than what the Kansai Area Pass offers! Enjoy gourmet dining, hot springs and art as you venture out in Kansai to Shiga, Tsuruga, Kinokuni, Wakayama and Okayama! Get unlimited rides on Kansai-Airport Express "HARUKA", Sanyo Shinkansen (NOZOMI and MIZUHO) and JR Rapid and Local services!

4-day Unlimited ride for ¥7,000 (Children half-price). Valid for 4 consecutive calendar days.

新今宮地区を拠点とした観光の促進 3

- 地域の看板や標示の多言語化の促進
 - 太子交差点の『**新今宮地区案内図** Shin-Imamiya Area MAP』の設置（2013年4月）
 - 西成**区役所の活躍**で西成ライオンズクラブ・大阪府立**今宮工科高等学校**・新今宮地区観光まちづくり推進協議会の協働が実現
 - 産学官連携の理想形!!
- JR新今宮駅・南海新今宮駅の多言語標示の促進や利便性の向上
 - 駅も含めてエリアの魅力向上が乗降者の増加や満足度の向上につながるはず



将来に向けた課題と展望

- 新今宮地区の宿泊・観光拠点性のさらなる強化
 - お得チケットの**販売目標設定?**
 - お得チケットのパンフレットと具体的な利用例で地区内の**ゲストハウスにて販売促進活動展開**
- 外国人収容能力と外国人対応能力の向上
 - 簡易宿所から国際ゲストハウスへの転換促進
 - 新たな**ホテルの建設促進**
 - 急増しつつある**ASEAN諸国からの旅人の利便性向上**
- 西成**アート回廊プロジェクト**の支援
 - 鉄道の高架や空き店舗のシャッターに落書きでなく本気のアートを地域とアーティストの対話のなかで描く
 - わざわざ他所から見に来る仕掛け
- 西成特区構想の進展を睨みながら、**新世界や天王寺・阿倍野との連携も**

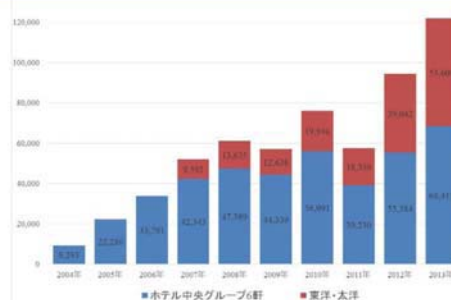


図 OIG加盟8軒の国際ゲストハウスの外国人のべ宿泊者数



京丹波町の産品と人を活かした仕事づくり

株式会社 京のちから 代表取締役 石井 雄一郎

1.活動方針・目的

生まれた地域で働きたいと願う人が生き生きと働ける地域社会の実現を目指しています。

2.活動内容

就労継続支援A型事業所(障害をお持ちの方と雇用契約を結び最低賃金を保障し就業して頂く事業所)を京都市、京丹波町の2か所で運営しています。京丹波町では京都府・京丹波町・大倉区長と弊社との間で「京都モデルファーム活用協定」を締結し、地元の耕作放棄地を利用して農産物(京野菜等)の生産を行い、野菜の直売やカフェ・レストランへの野菜卸、直営のそば店、カフェへの食材提供を行っています。また、京都市内の事業所に於いて自社生産農産物や近隣の特産品を用いて京土産としての「京の地のもんスイーツ」の生産・販売を行い、京都の食材の魅力を地元の方々や観光客に再認識して頂ける様、日々、商品開発と販売・卸販売に努力しています。

3.他の活動団体の参考となる事例

地元障害者の雇用を中心に、耕作放棄地の活用、高齢者の雇用、農業指導員としてのボランティア活動、また農家の主婦の方のそば店、カフェの職業指導員としての雇用を通じて地域の雇用の拡大と地域の活性に微力ながら尽力で来ているのではないかと感じています。

また、農地で活動するだけでなく、農産物の加工販売による6次産業化で付加価値を高め収益性を高める事で、継続可能な農業生産を目指しています。

農業への参入に対しては地域からの部外者排除意識が根強く、弊社と京都府知事、京丹波町長、大倉区長との間で締結した「モデルファーム協定」は地域の皆さんへの弊社の取り組みを理解して頂く上で大変重要なファクターとなりました。

4.今後の課題等

今後福祉事業所として継続して行く上で、一番の課題となるのが事業収益の確保です。

弊社は農業からの6次産業化で付加価値を高め収益性を高めようと努めていますが、世界的なエネルギー供給や、地域紛争に伴う為替相場の変動に一般企業と同じように業績が左右されるのが現状です。私たちに解雇や人員削減、工場の海外への移転と言う選択肢はありません。地域と共に歩む事業体であることが一番に求められるのです。

私たちの今後の取り組みは地域エネルギーを私たちの手で創出し、世界経済や政治局面に左右されない地域社会の確立です。

すなわち、バイオマスによる継続的な地域エネルギーの創出と供給、スモールシティの実現をそれを最も必要とする私たちが手掛け実践する事で私たちに手で社会共通資本を守る事です。

実現に向けて必要となる巨額な資本をどの様に準備し、実践していくのかが私たちの課題であり、実現することが弊社の使命であると考えています。



**生まれた地域で生き活きと働ける
地域社会の実現を目指します!**



就労継続支援A型事業所 和知のちから



京都モデルファーム活用協定を締結 しました。



6次産業化を目指しています。



バイオマスの実践を僕たちから！



つるみふれあいショッププロジェクト

大阪市立鶴見商業高等学校

商業科 2年 玉木風花

山森千春

土橋沙貴

1. 活動方針・目的

学生と企業が連携して他にない商品の企画とショップ運営を行い、これまで様々な点で支援していただいている地域や企業に恩返しをする。この取組の結果として地域の活性化に寄与する。

2. 活動内容

これまでも鶴見商業高校は鶴見区の地域や企業と連携して、商品開発や様々なイベントでの販売実習などを行ってきた。鶴見区名物「つるりっぷパン」などはその象徴的存在である。

今後は、次に示すように地域や企業と連携したWEBショップを立ち上げ、学校に隣接する鶴見緑地や鶴見区全体の活性化に寄与できるような商品開発やショップ運営を行う予定である。

- ①NPO法人 緑ふれあいの家と大阪市立鶴見商業高等学校 地域連携プロジェクト実行委員会、鶴見区地元のIT企業であるビープラスシステムズ株式会社が連携し、「つるみふれあいSHOP」を運営する。
- ②鶴見商業高校のプロジェクト参加メンバーが中心となり、地域のイベントなどでネットショップの広報をする。
- ③鶴見商業高校のプロジェクト参加メンバーが地元企業や商店を中心にタイアップしていただける企業や商店を募集し、「つるみふれあいSHOP」オリジナル商品を開発し販売する。
- ④ネットショップで販売する商品の商品説明など、広報戦略を地域活動協議会や地元企業と相談しながら鶴見商業高校生主体で企画する。主に、本校の部活動などに協力してもらって、動画を用いてわかりやすく楽しい商品説明を企画する。
- ⑤高校生が運営するネットショップというテーマを通じて、マスコミにも露出し、鶴見区、鶴見区の企業、商店の広報にも貢献する。また、ネットショップの活用により、地元の地域活動や朝市などのイベントを高齢者だけでなく若い世帯にも知ってもらい、活用いただけるよう運動した企画を行っていく。

3. 他の活動団体の参考となる事例

全国の商業高校の中には、自校で販売実習やネット販売を行っている学校もありますが、学校の立地する地域や自治会等と連携した取組をしている学校の存在はあまり聞いたことがない。斬新な取組であるだけに、地域や社会の関心はとても大きいと感じており、地域のみなさんが様々な形で学校の活動を応援してくださり、相互に協力支援できる形が整ってきている。

4. 今後の課題等

大阪市鶴見区は、花博記念公園を始めとする大小さまざまな公園を含め、緑豊かな住みやすい街であり、地域活動協議会の活動も活発である。近年、マンション等が数多く建設され、若い世帯の転入により、全国や市内の他の区と比較しても子育て世帯が多いことが特徴であるが、今後は高齢者世帯との結びつきを更に深め、さらに地域の活動を活性化する必要があると感じられる。

その一方で、鶴見区の全国的な知名度は低く、全国に向けてのブランド化や、地域活動の活性化には依然として多くの課題がある。本校の教育方針である「3年間で実社会に通用する人材の育成を目指す」を実現するために、鶴見区の地域活動協議会と連携したビジネスモデルの勉強や販売実習を実施し、キャリア教育の一環としての地域連携プロジェクトを推進している。また、5年後を一つの目安として、ショップ運営だけではなく、鶴見緑地や鶴見区内のイベントや各種情報を収集・発信できるような媒体になりたいと考えている。

しかし、一方で将来に向けて取り組みの継続性を確保する必要があると思うので、下級生に引継ぎ継続してもらうための工夫や努力が必要であると感じている。



大阪市立鶴見商業高等学校 **地域連携プロジェクト**



50周年
 記念誌 芙蓉の里



大阪市立鶴見商業高等学校

鶴見商業高校は
今年、創立50周年！！





鶴見緑地

鶴見商業高校

本校は「国際花と緑の博覧会(花博)」の跡地である鶴見緑地に隣接しています。



school guidance 2013

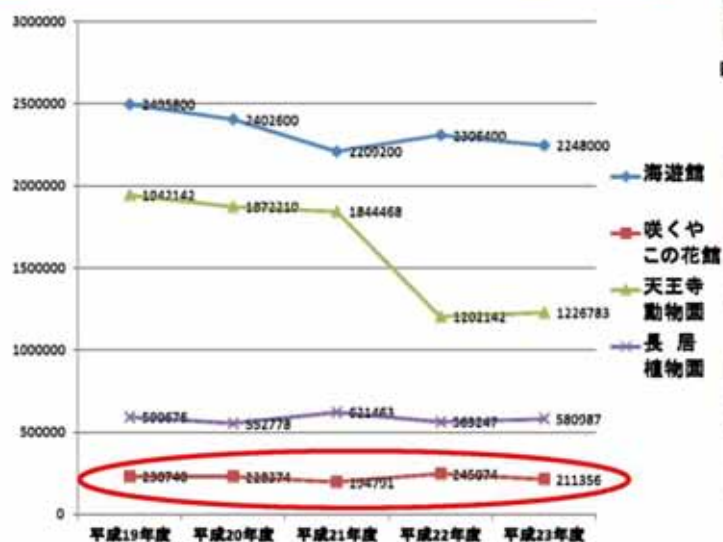
鶴見緑地に
幼い頃



施設維持の予算



咲くやこの花館と他の施設の入場者数推移



咲くやこの花館
 入場者数は
 1日平均 600人程度



いのちの塔は閉鎖中



いきいき地球館は
 今年度末で廃止か？



鶴見商業の活動 1

「つるりっぷパン」の商品企画

- 鶴見区のマスコット「つるりっぷ」をイメージ
- 地元企業との共同開発
- 商業高校生ならではの**アイデア**を商品開発に活かす！

友栄食品興業
株式会社との連携



鶴見商業の活動 2 「地域連携プロジェクト」



鶴見ブランドフェスタ



区民センター こども夏祭り



鶴見区民まつり



中央区民まつり

鶴見商業の活動 3

**つるりっぷ紙芝居
& エフロンシアターなど**



**鶴商生
活躍中♪**



ちびっ子たちに大人気！！

9

世界中に「つるりっぷパン」を販売？

つるりっぷパンの店グランレーブ



school guidance 2013

鶴商のネットショップを立ち上げよう！！



ゆるキャラグランプリ 2013にエントリー！！
今回は、478位／1580キャラ



演劇部 **高校演劇日本一！！**



平成25年度 全国高等学校総合文化祭（演劇の部）
 最優秀賞（文部科学大臣賞）受賞

school guidance 2013

軽音楽・ダンス・バトンが出演した High School Festival in Tsurumi （鶴見区民まつり 2013. 9. 8）



会場となった
咲くやこの花館



14

全国レベルの鶴見商業の部活動



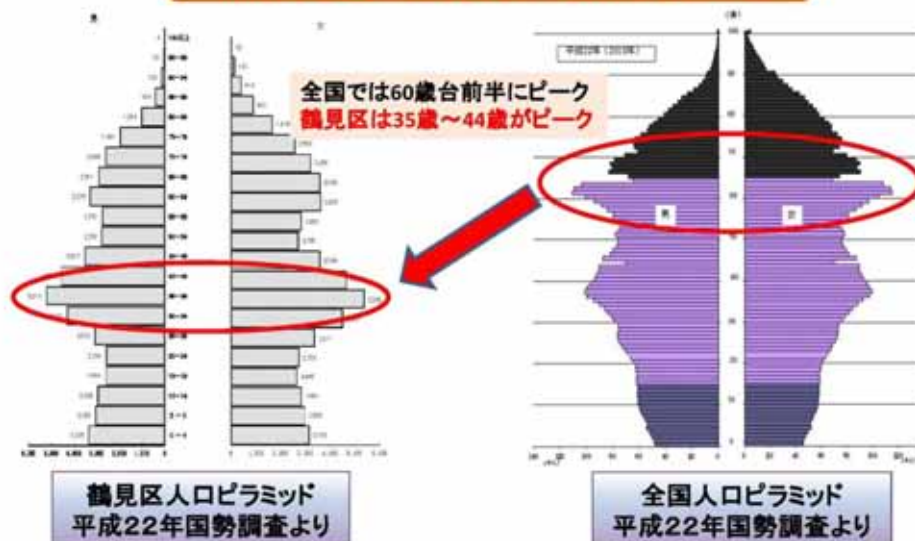
school guidance 2013

全ての部活に協力依頼



地域活動協議会や
地元企業とも連携を！

鶴見区と全国の人口構成を比較



私は、若い人と高齢者のつながりを作る、
 鶴見商業の「つるみふれあいshop」を応援しています！！

夢は大きく、女性起業家！
お手本はこの人・・・

わたしたちの
憧れ♪～



お世話になっている
ビープラスシステムズ
代表取締役 石井桂子さん

**世界一の
すべり台!?**





**世界から
注目を！！**



株式会社 新日本テック



白鷺株式会社 鶴見工場



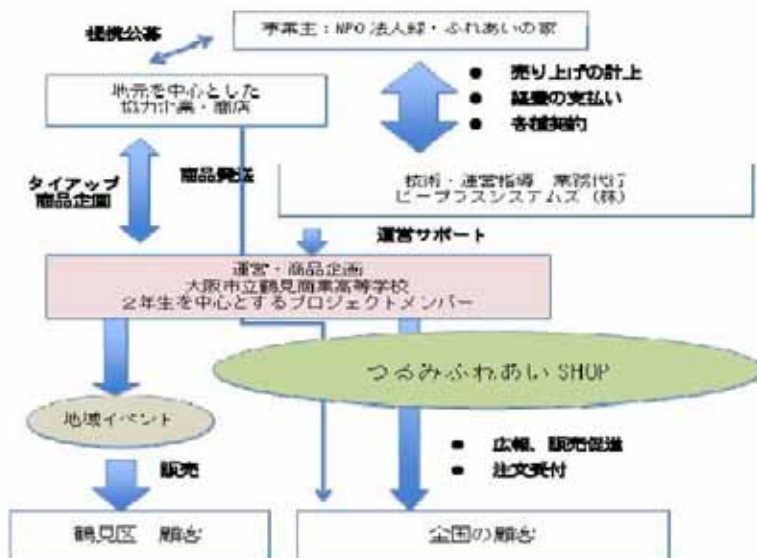
株式会社 鶴見製作所（ツルミポンプ）



ビープラスシステムズ株式会社

地域に倍返し！！

「つるみふれあいショップ」のイメージ



鶴商と地域の絆は強い！①



地域やイオンモールでの販売実習



鶴商と地域の絆は強い！②



新しい商品企画
つるりっぷせんべい

収支計画表

決算期			2013年9月	2014年3月	2014年9月
費 目			金額(千円)	金額(千円)	金額(千円)
収 支 計 画	収 入 内 訳	売 上	0	600	1200
	①収入合計		0	600	1200
	経 費 内 訳	委託費		180	180
		交通費		30	30
		書 籍		10	6
		諸経費		20	60
		仕入れ		420	840
	②経費合計		0	660	1116
①-②差引		0	-60	84	

※ 委託販売で、売上の30%を手数料収入と設定しました

地域に
支えられた

ソーシャル
ビジネス！



本日は、ご静聴
ありがとうございました



～ソフトをよりソフトに～楽しみながら地域社会への参加を

A-yan!! 代表 田中 やんぶ
事務局長 ○泉田 ゆうこ

1.活動方針・目的

地域の子供たちや住民、またその地域を愛する人たちと一緒に企画を立ち上げるところからはじめることで、「違う自分に出会いたい」「非日常的な体験をしてみたい」等自の目的だった人にも、ワークショップや制作活動を通して周りの人や住んでる町の歴史や愛着の再確認、またその気持ちを大阪や関西といったより大きなエリアへも拡げて考えてもらえるようにするのが狙い。みんなで一緒に楽しく盛り上がりながら大阪の地域活性化の一助を担う人材の発掘・及び育成のきっかけを目指すコミュニティアート活動を展開、また他地域からの来訪が見込めるイベントとする

2.活動内容

地域イベントなどでの開催を目標に数回のワークショップを行い、「ご当地ヒーローショー」や「おばけ屋敷」他の催し物を考える。参加者は主に開催地周辺で募集。
郷土史や民話、地域問題などをベースに、地域独自のコンセプトを参加者と共に考え、より共感を得やすい内容にすることを目指す。

3.他の活動団体の参考となる事例

参加者募集にあたり、当初主催者側が参加者をその地域限定にしたところがあった。このような講座は珍しいため、他地域からも問い合わせも多かったが、主催者側が断ったケースも。
広報活動に子供たちが積極的にポスター制作などをしてくれるエリアもあり、子供が動くことで保護者や地域自治会も協力してくださるようにも。

4.今後の課題等

- ・資金の問題。地元企業や商店からの協賛が取れるものにしたい。
- ・有志で立ち上げる実行委員会やA-yan!!で主催する場合、行政や地元自治会・各団体の理解をどう得るか。また連携・協力につながるアプローチの方法。
- ・イベント開催を知らせるための広報活動。地域での口コミも大きいですが、今後はより広く知らせていきたい。マスメディアにどう乗せるか。

ソフトをよりソフトに
～楽しみながら地域社会への参加を～



A-yon!!
関西をアートで盛り上げるNPO

A-yon!! (えーやん) ってこんなチームです

• 2005年活動開始

アートやパフォーマンスを通して
個人・地域・各団体のネットワークを構築
主体的に参画できる参加型イベントを提案する
非営利活動団体

※法人化に向けて現在準備中！



【主な活動】

イベント活動(運営参加/プロデュース)

コミュニティスペース運営

「森ノ宮ヒミツキチ」(2008年3月～2009年3月)

「アベノ★ヒミツキチ」(2009年9月～2010年6月)

「出張ヒミツキチ」(2010年8月～月1回開催)

道徳ヒーロー・アート戦士エーヤンダー5ショー

及びヒーロー劇団ワークショップ企画・運営

最恐おばけ屋敷甲子園企画・運営

ワークショップ・セミナー事業

(図工教室「作って遊ぼう道場」)

アーティスト活動支援



ご当地ヒーロー アート戦士エーヤンダー5

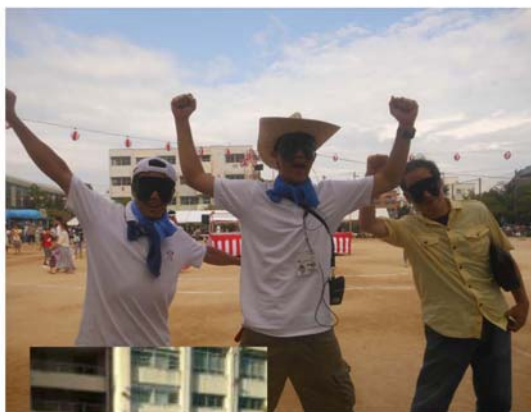
関西の子どもたちを
悪い子でてんこ盛りにする
悪の秘密結社
「怨怒霊団(おんどれだん)」
と日々闘っている！

エーヤンダー「5」といいながら
その時によって人数はまちまち
エーヤンダー「2」や「6」も！



地域イベントに気軽に参加するきっかけに！

ヒーロー&悪役はいつでも募集中！



最恐おばけ屋敷

2009年東成区でスタート

2010年旭区、
2011年港区、平野区、旭区
2012年天王寺区、旭区、都島区、東成区
平野区(常盤会学園大学学園祭)
で開催
2013年天王寺区、東成区(区役所主催ワークショップ)
阿倍野区
(ナマステホラーナイトinあべのペルタ)
旭区、浪速区、生野区、平野区、
東成区、東住吉区で開催
※常盤会学園大学は自主開催に移行



- ・当日運営するスタッフ
おばけ役をやるキャスト（主に子供）は
開催地域で募集
- ・おばけ屋敷当日までに数回
ワークショップ形式で作戦会議を開催
地域の民話や昔話をベースに
独自のテーマ・ストーリーを制作



期待される効果

- ・こどもと大人、地域の各コミュニティ等
多様な関係を築くことができる
- ・開催地域の特色や地域の各スポットなどを舞台に
屋敷内のコンセプトや仕掛けを考えることで
地域に関する関心や愛着をもってもらうきっかけ作り
- ・地域内外の人に見てもらう機会を持つことによって
地域活性化の一助、町おこし、観光資源に



【またこんな声も】

- 子どもたちが自ら考え、ひとつのことを成し遂げることで自己肯定感、自尊心感情を持ち、達成感を育んでいる



ゆくゆくはシルク・ド・ソレイユのように？



シルク・ド・ソレイユ

火喰い芸の大道芸人だった
ギー・ラリベルテが
1984年にカナダ・ケベック州で
設立したエンターテインメント集団
及びそれを管理する会社の名称
世界各地でツアーショー（巡回公演）
レジデントショー（常設公演）を
並行して行っており
芸術性の高いショーやステージングは
世界中で好評を博している

シルク・ド・ソレイユは
廃校の町に学校設立→
世界的興業で発展



ちなみに**2013～14年もがんばりました！**

- 最恐おばけ屋敷はワークショップも含め10か所で開催
- 特に7月のナマステホラーナイトは開催時期が
あべのハルカスや再開発で話題だった頃と重なり
テレビ2社新聞2社等取材を受ける
- ひがしなりっこ刈-クリスマスなど自主企画も開催
- 大阪と東北（福島県平田村）をつなぐ「こいのぼり」



今後の課題

- スポンサー・協賛金 行政・地域との連携
- 広報活動
観光資源として活用するために
今後拡大するには？
- 参加者の募集確保
エリア(校区)外の子どもの参加
(地域の方による引率で解決？)

今後のイベント予定

アート戦士エーヤンダー5ショー

- ・ 3月9日（日） 14時 あべのハルクス近鉄本店8階
- ・ 3月15日（土） 午後 住吉区民センター
（ふらっとたのしむすみよし）

最恐おばけ屋敷

- ・ 4月19or20日 東成区・神路本通商店街内 C R A F（777）
（今里神路クラフトバザール）

その他・・・

- ・ 3月16日（日） たいしょう愛ランド @ 大正コミュニティセンター

木津川市の現代アートを活かした
まちづくり

木津川アートプロジェクト

Q: アートを通じての交流イベントおもしろいと思う。基本的なところで誰が主体か、規模(携わっている人数)は、例年はどれぐらいの時期に開催しているのか。

A: 運営は市が観光協会に委託している市と観光協会、そしてトップに総合プロデューサーがいる。この3社が事務局として稼働し、その下にボランティアがいる。ボランティアの中にコアメンバーがいて、その下にボランティアがいる。20人ぐらいが中心メンバーだ。開催時期は例年11月で過去3回連続開催してきた。去年3月には木津川アートを続けていく検証委員会を開催。結果、準備に20ヶ月いるだろうと、2年に1回開催にした。去年はプレイベントで今年が本イベントだ。

Q: 検証委員会の内容は。

A: 木津川アートは市が主催。公金で開催しているので、本当に予算をかけていい事業なのか等課題を整理した。また事業を発展するためにはどうしたらいいのかを、今まで関わっていただいた方を中心に、数回意見交流会を開いた。HPIには検証委員会のまとめをUPしている。

Q: 年間委託料は。

A: イベント本体は600万円の事業費だ。地域性によって交通事情や作家への謝礼として200万円程度かかっている。作家は今までボランティア参加だったが、ボランティアのままでは事業が先細りするので上限5万円程度として作家に謝礼を支払う仕組みを整えた合計800万円となっている。



産学連携による新今宮地区での
観光まちづくり

新今宮地区観光まちづくり推進協議会

- Q: 外国人中心の観光客が多いようだが何人ぐらいきているのか
- A: 年間122,00泊まっている(和歌山が60,000泊)。個人客が多く、1日300人~400人、ハイシーズンで1000人だ。
- Q: 新今宮はディープなイメージがあるが外国人の反応は。
- A: 日本人に新今宮にアレルギーを持つ人が多いので外国人に来てもらおうと思った。個人での外国観光客は、少しスラム的な雰囲気を好む傾向があるその傾向を逆手に取って、まずは新今宮に外国人観光客を誘致して、その賑わいを国内にPRした。新今宮のイメージを変える戦略を10年ちかく行った。
- Q: オトクなチケットをゲストハウスで販売したら、具体的な進展はあったか。
- A: JRのワイドチケットが一番使いやすい外国人でも留学生は買えない。観光目的で来た人だけが購入できるととても便利なチケット。すでに販売をしている。今後は東京オリンピックを目標に東京往復できるチケットを販売したい
- Q: ホテル側へのマージンは。
- A: ホテルは情報提供だけでよい。金銭管理の問題や、購入時のパスポートチェックが必要で煩雑な業務をすべてのホテルでオペレート化できない。「あそこにいったら買える」と新今宮駅・天王寺駅(みどりの窓口)へ案内するのがよい。
- Q: パッケージ化されていない観光コンテンツを完全着地型で提供と書いているが具体的にはどんなことか。
- A: 外国人個人観光客が嫌うのは、福袋的な何が入っているか分からないもの彼らは自分で選んで買いたいし、現地で自分の気のおもむくままに行動したいので、ばらばらにして売らないと購入しない。

京丹波町の産品と人を活かした仕事づくり

(株)京のちから

- Q: 農場ではどういうものを作っているのか、事業規模は。
- A: 障害手帳を持つ36名、福祉職員8名、補助地元農家4名だ。
作物は京都一番付加価値が高い「京野菜」をメインに作っている。それを製品化してロールケーキやパウンドケーキなども作っている。京都府下のお土産屋やイオンモールなどで販売している。基本的には製品化して出荷している。
- Q: アスカルトは実際にあるのか。
- A: 将来的につくりたい。オーストラリアに実際にあるが、費用が約20億円。
- Q: 西成区にもボーダーが流れ着き、雇用がなく、孤立している。地域以外の雇用はあるか。
- A: 今36名の障害者手帳を持ったひとがいるが、それ以外にも福祉職員がおりいわゆる求職困難者がたくさんいる。会社で孤立して出勤できなくなった人鑑別所から出てきた人たち、養護学校を卒業後仕事に困っている方、シングルマザーなども引き受けている。うちの会社にくるために引越してくる人も多い。基本的には人ありきで行っている。人が足りないから募集をかけるのではなく。人が来てはじめてどういう仕事をしてもらったらいいだろうと考え、一人前になるまで支援を行う。費用については国からいただいているものもある。
- Q: 働いている人はだいたい京丹波町に住んでいるのか。
- A: 30分~1時間以内、JR・市バス・地下鉄で通える範囲の人がほとんどだ。
- Q: スイーツやパウンドケーキのPRは。
- A: OEMが中心。「おのみやす」「まるに」等お土産屋のブランドネームで販売。他はインターネットや京都物産展へ菓子工房ブランブルとして出店などをしている。

つるみふれあいSHOPプロジェクト

大阪市立鶴見商業高等学校

- Q: 部活動を巻き込んで企業と協働している内容は。
- A: 演劇部が昨年日本一になり、知名度があがっている。これを利用し、演劇部にPRしてもらう。
- Q: チューリップせんべいはどこでつくっているのか。
- A: 地元の企業つくってもらっている。せんべいの印のデザインは学生達が考えた。製造のみを企業に依頼し、商品企画や販売は学生たちで行っている。
- Q: 大人と交わる機会が多いか。
- A: 企業との活動が多いので、上層部との対談が多い。
- Q: 企業の人とはセッティングをしてもらっていくのか、自分達で積極的にいくのか。
- A: まだちょっと内向きなもので、これからは積極的に行きたい。
- Q: プロジェクトの進め方や組織図はどのようにしているのか。
- A: 3部(総務 経理 事業)に分けて組織を作っている。それぞれに部長がいる人数は20名弱で2年生が主体だ。
- Q: クラブ活動でこの活動をしているのか
- A: まだプロジェクト段階で部活にもなっていないので、これから部活動化したい
- Q: メンバー集めはどのようにして行っているのか。
- A: 2年生は1年時から販売実習など色々なことを行ってきた。その人たちが声をかけて集めた。
- Q: 鶴見緑地の施設がいろいろある。そういったところとはコラボレーションは？
- A: 年1回のつるみ区民祭りでの販売実習やさくらまつりなどと既にコラボレーションしている。鶴見緑地で行われるイベントには販売実習で参加している。
- 補足
鶴見緑地は豊富な資産である。軽音楽・ダンス、さくやこのはなかんのステージを借り切って学生で自主運営などいくつか新しいイベントも出来上がっている。

- 部活動の発表ということで鶴見の色々な施設で行っている。鶴見を盛り上げると同時に、学校のPRを行っている
- Q: 全国的な取り組みは実施しているか、全国の商業高校に特化した発表会などはあるのか。
- A: 近くの和歌山や倉敷・広島などの商業高校で販売実習を中心に活動しているところが多い。デパートの中で、〇〇市というような形で独自にやっている。研究発表の機会としては全国規模の発表会がある。

～ソフトをよりソフトに～ 楽しみながら地域社会への参加を

A-yan!!関西をアートで盛り上げるNPO

Q:活動拠点は、例えば大阪市内ならどこでも可能なのか。

A:呼ばれたら現れるということをやっている。

Q:実際にやるときは、こどもたちを巻き込んでいるのか。

A:マニアも居る。他地区から来たり、お化け屋敷が好きな方などが来られる

Q:実際にどこかのイベント主催者から依頼はあるのか。

A:お祭りに出たい人だけが出ている。祭り自体を作るのをどうしたらよいのかを話し合うことから初めている。

Q:準備期間は。

A:パターンがいくつかあり、前日準備の時や1週間前から行ったり、自分たちが実験的に行っている。メイクだけやって開催するものから、衣装を作りこんでやったりと地域毎に溶け込んで合わせてやっていこうとしている。

Q:海外でのお化けの認知度はどのようなものか。

A:外国人が手伝いに来たときに聞いてみると、モンスターのくくりに入っている。ゾンビと同列になっている。世界的に見ても、怖いもの＝ゾンビというイメージがある。

Q:A-yan!!の名前の由来は。

A:「えーやん」から来ている。ぬるくいきたかった。仕事とっていないので、年間50回くらい行っていることも、基本ルールは「この指とまれ」でやっている。強制ではない。その時その時で、やりたいかやりたくないかを考えて来たい人だけ来るというシステム。メンバーは23人ぐらいで、仕事をしながら行っている人が多い。

20～30代が多い。一時は高齢化が進んだ時もあった。

観光交流は、観光よりも「交流」が中心になっている。共通しているのは、アートが「交流」を考える素材となること。さらに、笑顔はどうやってつくるのかがキーワードだ。人口がなかなか増えない中で、いかに地域・関西を元気にしていくかを考えると「交流」はキーワードとして外せない。交流を生み出す時に、地域資源や人、高校生のアイデアを使うなどして新しい価値を生み出す。その新しい価値で地域を元気にしていくことは、基調講演から得られる知見にも重なる。



第2分科会：地域資源活用部門

座長：横山 あおい 氏（NPO法人「人と自然とまちづくりと」理事長）

発表タイトル	団体名	府県市町
京都駅周辺地域のまちづくり活動	龍谷大学門前町サークル、植柳まちづくりプロジェクトチーム	京都府京都市
水軒堤防の再生と市民の公園の実現	水軒の浜に松を植える会	和歌山県和歌山市
新今宮観光インフォメーションセンターを核とした新たな社会実験の展開	阪南大学国際観光学部 松村嘉久研究所	大阪府松原市
山添村の耕作放棄地の資源を活かしたむらづくり	里楽	奈良県山添村
小さな自治体・東堅町のまちづくり 伝統文化の継承と発展「猿能楽と町衆」	東堅町自治会文化委員会・ 伝統文化部会	京都府亀岡市

座長

横山 あおい 氏（NPO法人「人と自然とまちづくりと」理事長）

NPO法人「人と自然とまちづくりと」理事長、琵琶湖・淀川流域圏連携交流会事務局、(有)エイライン代表取締役。
大阪府生まれ。技術士（総合技術監理、都市及び地方計画／道路）。人と自然が、人と人が心豊かに共存できるまちづくりを軸に、環境の創造・再生を行う活動と共に、まちづくりや環境団体の活動促進やネットワーク・交流の企画、コーディネート、行政との橋渡しなどを行っている。また、地域が元気になる為に地域の食材をプロデュースし、地域の情報と共に首都圏を中心とした食材の販路拡大の実践も手がけている。



京都駅周辺地域のまちづくり活動

龍谷大学門前町サークル 会員 ○ナレントヤ
植柳まちづくりプロジェクトチーム 代表長 宇佐美直秀

1.活動方針・目的

本活動は、東西両本願寺門前町に「にぎわい」を取り戻すことを目標にして、地域の人たちにまちづくりへの関心をもってもらうとともに、広く世間に門前町の魅力を伝える活動を行っている。東西両本願寺門前町は、京都駅北側に立地しており、京都の玄関口として、今後の京都の発展を支える重要地点である。本サークル・チームは、1000年の都である京都が、大都市間競争に勝ち残り、今後も発展し続ける基礎づくりを目指している。

2.活動内容

① 門前町の住民にまちづくりへの関心を高めてもらう活動

これまで分断されていた東西両本願寺門前町を一体的に捉えることを目標にして、広範囲の活動を目指している。子どもにまちづくりへの関心をもってもらい、子どもから大人へ関心が伝えられることを期待して、下京渉成小学校児童と門前町のまち歩き、それを絵にして絵画展の開催、その絵を組み込んだ伝統産業の製品に仕上げる活動。毎月16日早朝の清掃活動。仏具「リン」を応用した風鈴の制作・住民に寄贈、「おりんde風鈴祭り」の開催。

② 門前町の魅力を世間にアピールする活動

仏具の「リン」をモチーフにしたマスコット「おりんちゃん」の制作・各地域でのイベントへの参加。毎月16日に手づくり市「門前町いちろく市」の開催。

「仏壇仏具のまち」のイメージが強い門前町を「三十六歌仙のまち」としてとらえ直し、新たなまちづくり活動を開始している。

3.他の活動団体の参考となる事例

門前町は、寺院への依存意識が高い地域であり、自発的に門前町の活性化を試みる風土が欠けている地域である。小学生児童との係わりを手掛かりとして、地域住民・事業者にまちづくりへの関心を高める工夫を試みている。新たなまちのイメージづくりを試みている。

4.今後の課題等

活動となる中心的メンバーが、大学生と現役の事業経営者である。学生は実質2年程度しか活動できない。現役の経営者は本業が中心であるため、計画通りには実際の活動が進まない。

第9回「関西元気な地域づくり発表会
地域資源活用分科会



京都駅周辺地域のまちづくり活動

龍谷大学門前町サークル
植柳まちづくりプロジェクトチーム

(報告者:ナレントヤ・福永美緒・田中志穂)

平成26年3月1日(土)
大阪合同庁舎1号館 第1別館

RYUKOKU UNIVERSITY

1

I 目的

- 東西両本願寺門前町に「にぎわい」を取り戻す
↓
現状:地域人口の減少、来街者の減少
小学校の統廃合⇒生活範囲の広がり
- 京都が大都市間競争に勝ち残り、今後も発展し続ける基礎づくり
東西両本願寺門前町は、京都駅北側に立地
京都の玄関口:今後の京都の発展を支える重要地点
- 新しい京都観光の創造:一年中へ、観光地の拡散へ
(現状:春と秋、東山と嵐山に集中)

RYUKOKU UNIVERSITY

2

Ⅱ 対象範囲：京都駅北側一帯へ拡大



3

Ⅲ 門前町の特徴

- ①・東西両本願寺が最大の需要家である地域＝東西両本願寺と関係者を対象とした安定した事業
(訪問販売・通信販売)⇒地元への関心が薄い
- ・仏壇仏具事業者が多い⇒観光客に向かない
- ・国道1号線と烏丸通の拡幅(戦時中)⇒東西両本願寺と門前町が遮断
- ・京都市の調査：東西両本願寺に年間300万人が来訪
- ・門前町の来街者数は不明
- ②・西本願寺は世界遺産＝文化財(但し、非公開)
- ・伝統産業の「匠の技」＝実演・体験
- ・京都駅から徒歩圏内

RYUKOKU UNIVERSITY

4

Ⅳ 組織と沿革

- 植柳まちづくりプロジェクトチーム
構成員：西本願寺門前町の事業者・住民
龍谷大学の学生・教職員
- 龍谷大学門前町サークル
龍谷大学のボランティアサークル
- 平成13年4月、活動開始
- 平成16年10月、西本願寺門前町のまちづくり
- 平成24年4月、活動範囲を拡大：東西両本願寺門前町へ

RYUKOKU UNIVERSITY

5

Ⅴ 活動内容(1)

：門前町の魅力を世間にアピールする活動

◎ 地域の埋もれた人的・物的資源の発掘・情報発信

- ┌ 門前町の魅力を世間に伝える
- └ 地域住民にまちづくりへの関心をもってもらう

- 西本願寺の文化財の紹介
- 非公開文化財見学と伝統産業の体験ツアーの開催
- 旅フェアに出典
- 毎月16日に手づくり市「門前町いちろく市」の開催
- 「リン」をモチーフにしたマスコット「おりんちゃん」の制作・各地域でのイベントへの参加。「おりんちゃん」グッズの制作・販売
- 仏壇仏具制作の技術を活かしながら「三十六歌仙のまち」として、新たなイメージ作り

RYUKOKU UNIVERSITY

6

VI 活動内容(2)

: 地域住民にまちづくりへの関心をもってもらう活動

子どもにまちづくりへの関心をもってもらい、子どもから大人へ関心が伝えられることを期待

- ・ 下京渉成小学校児童と門前町のまち歩き、それを絵にして絵画展の開催、その絵を組み込んだ伝統産業の製品に仕上げる活動
- ・ 毎月16日早朝の清掃活動
- ・ 12月20日、西本願寺「すす払い」(500年続く年末の大掃除): 住民に参加要請
- ・ 仏具の「リン」を応用した風鈴の制作・住民に寄贈、「おりんde風鈴祭り」の開催
- ・ 「おりんちゃん」の制作

RYUKOKU UNIVERSITY

7

- ・ 「しんらんさんグルメ」と称して、門前町をPRするスイーツの新製品の開発販売
- ・ 門前町の歴史と現状を紹介したマップの制作、まち歩きツアーの開催
- ・ 門前町カレンダーの制作(古写真と現在の写真を比較して、門前町の変遷が分かるカレンダー)
- ・ 門前町コンサートの開催
- ・ 新たな門前町のイメージ作り: 「仏具のまち」⇒「三十六歌仙のまち」(西本願寺の国宝) ⇒⇒仏壇仏具製作技術の美術品へ応用: 可能性に気づいてもらう

RYUKOKU UNIVERSITY

8

VI 今後の課題

- 平成21年4月、「植柳まちづくりプロジェクトチーム」(地元住民・事業者からなるまちづくり組織)が結成
⇒連携のあり方、地元コミュニティとどのように係わり、活動を継続させるか
- 校区の拡大⇒東西各本願寺門前町と不一致⇒活動範囲の拡大へ
- 信教の自由との関係
例: 絵画展が西本願寺聞法会館(ホテル)で開催できない
- 寺院経営と文化財の公開
- 仏具と工芸品
- 活動主体: 現役の事業者(多忙)と学生(実質2年間)

RYUKOKU UNIVERSITY

9







RYUKOKU UNIVERSITY

13

平成24年度の活動の詳細は、
<http://www.ryukoku.ac.jp/shaken/huzoku/ryudai.pdf>
 をご覧ください。

連絡先

井口富夫

E-mail: iguchi@econ.ryukoku.ac.jp

電話: 075-645-8416

RYUKOKU UNIVERSITY

14

水軒堤防の再生と市民の公園の実現

和歌山市西浜1352 水軒の浜に松を植える会会長 豊田 善之

和歌山市東小二里町4-33 同会副会長 ○田口 右門

和歌山市松ヶ丘2-2-4 同会事務局長 奥津 尚宏

1.活動方針・目的

悠久の歴史を経て、多くの人々の思いにより、今日まで伝えられた白砂青松の風景と人の営みとの共生の文化を宝物として、これらを保全活用しながら水軒の浜を後世に伝えていくことを目的とする。キャッチフレーズは『水軒の浜を「史跡石積堤防」、「白砂青松」、「健康推進」をテーマにした歴史公園に！』

2.活動内容

水軒堤防は和歌山市の西側に位置する約4kmの砂洲に江戸中期に構築された史跡として貴重な約1kmの石積み堤防があり、昭和39年に海岸が埋め立てられるまでは、美しい砂浜と白砂青松の市民の憩いの場であった。埋め立て後は、道路と電車の軌道が堤防に沿って設置された。その後、この地は和歌山県の史跡「水軒堤防」として、指定されたものの、十分な管理がなされず、堤防上には不法の倉庫や家屋が構築され、ゴミ捨て場と化し、松はほとんど枯れ、雑木林となっていた。水軒の浜に松を植える会では、和歌山県の協力を得て、平成20年から、堤防の海側斜面のごみ処理と整地によりきれいにし、この5年間で、約1.7kmの範囲に2000本以上の松を植え、遊歩道を作り、端から端まで歩けるようにした。植樹した松は2000本を超えている。また、軌道撤去跡などに、スポーツ砂場、ドッグラン、健康ひろば、多目的ひろば、フィールドアスレチックなどを設け、多くの市民が利用するようになった。引き続き、堤防上の構築物撤去跡を整地し、松を植えていく活動を行うとともに、堤防上の高台を防災ひろばとして活用していく計画である。

3.他の活動団体の参考となる事例

本会は地域で活動するボランティア団体の有志で結成したが、会長には当地の自治会長がなり、地域住民との連携を図った。

また、将来のこの地の担い手の子どもたちに理解してもらうために、毎年、地元の中学生1学年生全員(約200名)による松の植樹を5年間続けてきた。松の植樹場所が少なくなった6年目からは清掃作業に変更して引き続き関与してもらっている。

地域の人の理解も深めるために、毎年テーマを決めて、水軒の浜シンポジウムを開催してきた。また、全国的な活動である「白砂青松再生の会(会長小川眞氏)」にも参加し、平成25年3月には水軒堤防で第7回白砂青松再生の会和歌山大会を開催した。さらに、陸前高田市や名取市の東北震災で被害を受けた松林の再生にも協力して、松の苗の植栽にボランティアで数名が参加した。

4.今後の課題等

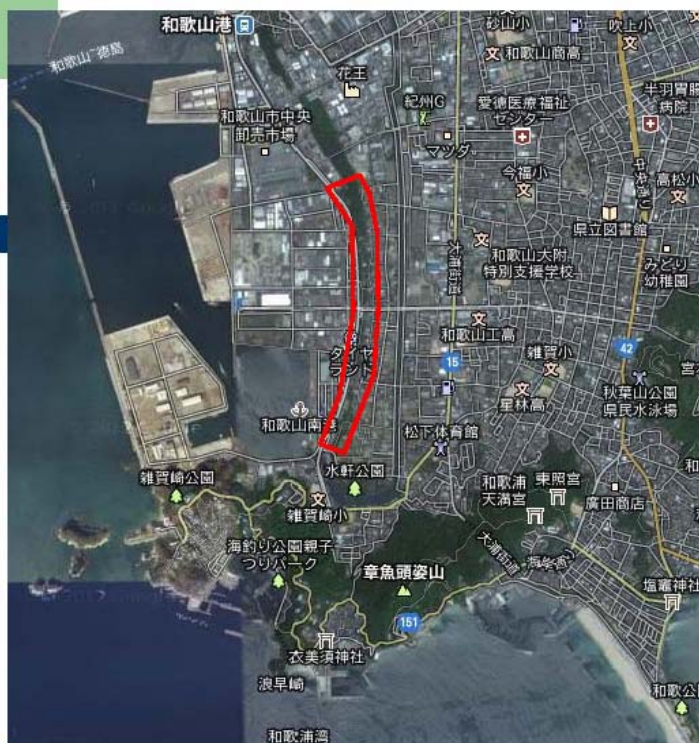
- 活動の中心メンバーの高齢化に対応して、人材を確保し継続的な活動にしていく必要がある。
- 地域住民の地域の環境を守る意識をより高くしていく必要がある。
- 行政との連携をさらに密にし基本的には行政が管理してくれるようにする必要がある。

白砂青松の再生と市民の公園の実現

水軒の浜に松を植える会

副会長 田口 右門

2014.3.1



高津子山から
の遠望今昔

平成23年撮影

昭和29年頃

約60年前

美しい遠浅
の浜辺と松
林があった

水軒堤防の

緑の形は同じであるが松林は荒れ果てている



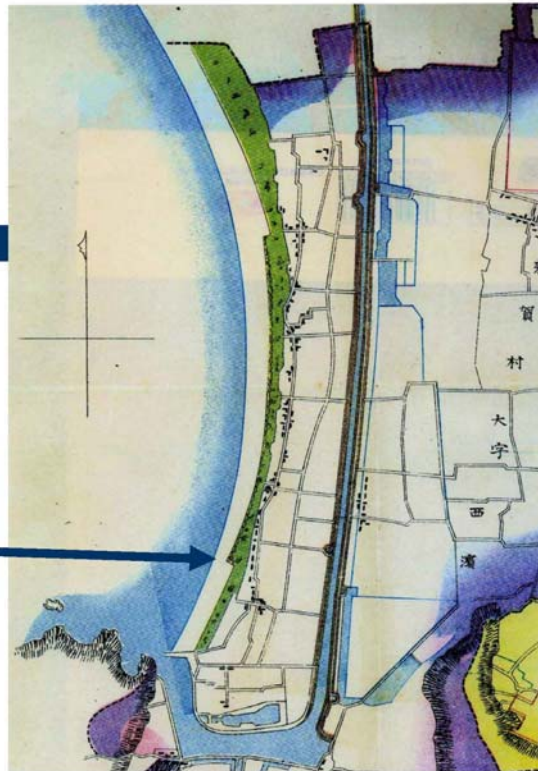
紀ノ川河口から水軒川河口にかけて、水軒浜の白砂と松林がS字状の曲線を描いている。平野部では、田畑の中央を水軒川が直線状に流れているのがわかる。当時、この河口ではアサリがとくさん獲れた。松林の右上の方にはうっすらと見える花王石鹸の工場は、戦時中の昭和17年に操業を開始。当時の社名は大日本油脂であった。(岩西正大氏撮影)

水軒の浜の思い出



古地図1

昭和2年発行
雑賀村誌より



古地図の水軒公園

昭和23年発行

水軒公園

計画があったが、
現在は公園として
管理されていない。

グーグルマップに
は現在も記載され
ている。



水軒の浜に松を植える会発足の経緯

- 平成19年に西浜中学校同窓会が学校創立60周年を記念して「**みんなで地域の宝さがし**」をテーマに西浜博を開催。宝さがしウォークやシンポで、水軒の浜の現状に憂える。
- 同年、道路拡張にともない**石積堤防**が発掘され、その価値の高さが認められ、史跡としての保存が問題となる。
- 同年末、**トンガの鼻自然クラブ・浜友会有志、その他関心のある方々**が集まり水軒堤防や水軒の浜について語り合う。
- **平成20年1月**。2つの団体のメンバーが中心になり、地元自治会の人も加わって水軒の浜に松を植える会が発足

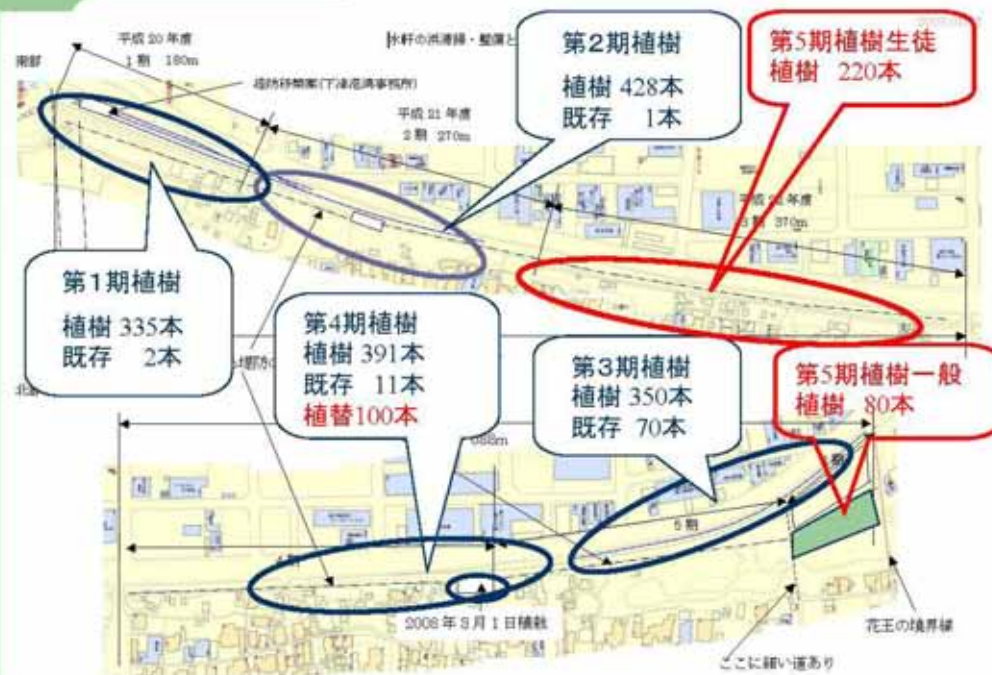
水軒の浜に松を植える会の活動

- **平成20年3月 記念植樹**として30本の抵抗性松を7本松に植樹。七本松とはこの場所に7本だけ松が残っていたので名づけた。抵抗性松とは松くい虫に強い松で、県の林業試験場から入手している。
- **平成21年2月 紀の国森づくり基金活用事業**で1年間かけて、雑木とゴミを撤去して、整地を行い、西浜中学校の**1年生198人**が松を植樹。3月に県知事・市長他市民が植樹。
- 以後、3年間毎年一年生に松を植えてもらい、今年が5年計画の最終回。
- この間、南海電車の軌道撤去跡を中心にいろいろな施設も設置した、水軒公園として和歌山市が管理してくれるように働きかけている。平成28年には実現する見通し。

基本コンセプト

水軒の浜を、
 史跡石積堤防、
 白砂青松、
 健康推進
 をテーマとする
 歴史公園に！

松植栽5年計画と進捗



6.01 クリーン大作戦2



水軒堤防のごみの山の例



これまでの中学生の植樹風景 第2期 2010.2.12



これまでの中学生の植樹風景 第3期 2011.2.10



第1期(4年前)に植えた松と根上り松(右)



北端部の松林の再生 (よみがえる白砂青松)



水軒の浜の現状(遊歩道と設置した設備)



堤防上(松林内を含む)活用

● 遊歩道

南端から北端までの堤防上の遊歩道(2期の一部途切れている)と第1, 2, 3期の堤防下の遊歩道
北部松林内の遊歩道

● 南部の第1期堤防上活用

健康遊具の森、ドッグラン1、
スポーツ砂場、クヌギの森

● 北部の第5期堤防上

フィールドアスレチック 10基



軌道撤去跡の活用1(健康ひろば)



軌道撤去跡の活用2 ドッグラン2とスポーツ砂場



軌道撤去跡の活用3

多目的ひろばと移設石積水軒堤防、堤防横庭



軌道撤去跡の活用4

- 桜の植樹

南部軌道撤去跡 2011年11月22本、2012年11月に30本

北部軌道撤去跡 2013年2月23日 大漁桜35本を植樹



防災活動に 活用を提案

- 水軒堤防は周囲に比べて高台になっている(海拔8m程度の場所有)
- 堤防上の家屋や倉庫・車庫の撤去跡地を活用する



市民のための公園にするために

- 南端部、北端部にトイレを設置。
- 北側に駐車スペースを設置(既存のスロープがある。場所周辺の家屋を撤去した跡地の利用)
- また、できれば北端部に進入路と駐車スペースを設ける(防災活用にも必要)。
- 松林・遊具設置場所・遊歩道等の定期的な除草作業ができる体制作り。とくに、地域住民の協力体制。
- 何よりもしっかりした活用計画を作る責任部署の決定が急がれる。

手づくり郷土賞(国交大臣表彰)受賞



新今宮観光インフォメーションセンターを核とした新たな社会的実践の展開

阪南大学国際観光学部松村嘉久研究室 学生代表 橋田 翔子 栃原 智美 大宅 和佳

1.活動方針・目的

松村研究室が運営する新今宮観光インフォメーションセンター(TIC)は、2009年1月から、大阪市西成区あいりん地域にて、主に外国人個人旅行者(FIT)の誘致と旅の利便性の向上を目的として、観光まちづくりに向けた社会的実践を積み重ねてきた。同地域に宿泊するFITが年々増え続けるなか、新今宮TICも進化と深化を遂げ、あいりん地域の地域資源を活かした観光まちづくり活動を新たに展開している。

2.活動内容

2010年春開催の第5回本発表会にて、TICの活動内容は、(1)主にFITに対する観光情報の提供と旅の相談、(2)FIT向けの着地型まち歩きツアーの企画と実施、(3)国際観光に関する調査研究活動と観光まちづくりに関する社会的実践、の三つであると発表した。その後、(1)と(2)に関しては、経験とノウハウが蓄積され、現在は独立採算事業化も視野に入れることができるほどになっている。

一方、(3)に関しては、新今宮地域のゲストハウスに宿泊する旅行者と、既存の地域資源をつなげようという発想から、いくつかの新たな活動を展開してきた。例えば、2012年3月末に大阪商工会議所との協働で発行した『新今宮・西成 食べ歩きMAP』は、新今宮地域の宿泊者を地元の優良な飲食店につなげようとする試みであった。飲食店の選定、交渉、取材、写真撮影、記事作成などにおいて、松村研究室の学生たちが活躍した。

近年、最も力を注いでいるのが、「西成ライブエンターテイメントフェスティバル」である。西成区から浪速区にかけての新今宮地域には、大衆演劇、上方落語、西成ジャズなど、プロフェッショナルなエンターテイメントが根付いている。大衆演劇ならば、西成区にオーエス劇場・鈴成座・梅南座、浪速区に朝日劇場・浪速クラブという本格的な劇場があり、連日昼夜の2回公演を繰り広げている。山王交差点北東角には、桂ざこば師匠が席亭を務める「動楽亭」があり、伝説の立ち飲み居酒屋「難波屋」での毎週水曜夜のライブをベースとする西成ジャズも、週3回くらいのペースで熱い演奏を聴かせてくれる。

新今宮地域に來れば、いつでもどこかで何か、質の高いプロフェッショナルなエンターテイメントをライブで楽しめる。このような他所にはない地域特性があるにも関わらず、各々のエンターテイメントが個々バラバラに宣伝・活動しているため、新今宮地域は「日常的にライブでエンターテイメントを楽しめるまち」という統一した打ち出し方をできていない、と私たちはフィールドワークで確認した。そこで、松村研究室はTICの社会的実践の一環として、2012年8月から、各々のエンターテイメントのポスターを毎月初めに集めて回り、TIC前の立て看板に全てを貼り出し一括して宣伝し始めた。

そこから「西成ライブエンターテイメントフェスティバル2012」を開催する機運が芽生え、松村研究室が関係各所へ働きかけて実行委員会の立ち上げを促し、自らも学生実行委員会を組織し、平成24年度「大阪へ行こう! 大阪で遊ぼう! アイデアプラン」認定を取得して、2012年11月に実行した。2013年8月には、TICの活動として同フェスティバル2013を行った。同年9月に難波屋で開催された「西成ジャズ・オールスターズ『夢の祭典』」も、研究室の総力をあげて応援し、ミュージシャンたちと成功の喜びを分かち合わせていただいた。

また、テレビや新聞からTICの取材依頼があるたび、新今宮地域のエンターテイメントの素晴らしさを伝え取材協力し、大衆演劇や西成ジャズの魅力発信に貢献した。

3.他の活動団体の参考となる事例

しがらみのない自由な立場から、実働を伴って継続的に地道な活動を展開すると、たとえヨソ者であっても地域からの理解を得やすく、逆にその立場が強みとなって、自らを核とした緩やかな連携の輪を形成できる。TICは日本やグローバルな社会のなかにポツンと浮かぶ、魚釣りの浮きのような存在。TICを拠点に活動していれば、大きな社会変容の兆しをいち早く察知でき、近未来を予見しながら先手を打つような活動を展開できる。

4.今後の課題等

ボランティア活動として行うべき部分と、独立採算事業化して事業の持続性の確保を優先すべき部分を、今後の活動展開のなかで、ゆっくりと慎重に見極めて、大学発ベンチャーの社会的起業も視野に入れたい。



新今宮TICを核とした 新たな社会的実践の展開

阪南大学国際観光学部松村嘉久研究室
学生代表 橋田翔子・栃原智美・大宅和佳

松村研究室と関西元気宣言との関わり

- 第2回 関西元気な地域づくり発表会（07年）
 - 【都市再生分科会】西成区あいりん地区の外国人旅行者を活かした地域づくり（OIG委員会）
 - 【観光ほか分科会】大阪国際ゲストハウス地域を創出する重要性和可能性を探るなかで
- ➡ 対外的に発信することの意義を学習
- 新今宮TIC創設（09年1月から）
- 第6回 関西元気な地域づくり発表会（10年3月）：【観光振興分科会】新今宮TICの運営とまちづくりに向けた社会的実践
- 第3回 ゆめづくりまちづくり奨励賞と東日本大震災（11年2月・3月11日）
- 第8回 JTB交流文化賞優秀賞（13年1月）
- 第16回 なにわ大賞（13年7月）
- ➡ 「深化」と「進化」で「真価」を問いつける新今宮TIC（2009年1月から6年目に入る）



地域資源と旅行者をつなぎたい 1

東日本大震災と新今宮TICの社会的実践

- 背景
 - 春休みに入り、福島原発事故を恐れて、東日本から「被災者」ではなく「避難者」が新今宮へ殺到
 - 幼い子供を連れて将来を見通せず不安を抱えながら長期滞在化
 - 支援の網にもかからず子供も退屈
- 新今宮TICの強み
 - ゲストハウスとの連携：確実に「避難者」を把握できる
- 「何かできないか」
 - せめて気晴らしでも...必ず「避難者」へ届けるから「何かちょうだい」と関係各所へ働きかけ
- 最後の頼みは通天閣観光や!!
 - 無料優待入場券150枚を提供、ゲストハウスと連携して新今宮TICが避難者へ配布
 - 西上社長「通天閣にのぼって、少しでも元気になってくれはったら嬉しいなあ」

2011年4月11日『産経新聞』夕刊

通天閣で元気を

被災者に無料入場券 地元ボランティア配布



地域資源と旅行者をつなぎたい 2

新世界・西成食べ歩きMAPの作成

- 『新世界・西成 食べ歩きMAP』**英語版**が完成（2012年3月末）
 - 大阪商工会議所から「新世界」の食べ歩きMAP作成で協力依頼で協働
 - 条件1「**西成側も**入れて」
 - 条件2「掲載する**店舗は選ばせて**」
 - 条件3「まち歩き**の要素も**入れさせて」
 - 好評のため同MAPの**中国語版**も作成（2012年7月完成）
- 新今宮TICの地道な活動実績から**地域資源をつなぐ核**となれたと実感!!
 - 新今宮TICスタッフが昼食を食べに行き「美味しい」と確信
 - お店のマスターや大将と**顔なじみ**
 - ゲストハウス配布で、**旅人と地域資源が確実につながることを実感**
- ゲストハウスからも掲載店舗からも大きな反響
 - 日本人宿泊客からも好評



『新世界・西成 食べ歩きMAP』の影響

- ・ 新世界や通天閣とのつながり強化
- ・ 関係各所との協働が増えるきっかけ
- ・ 歩きの要素（エンターテインメント）の発見

2012年(平成24年)5月16日 水曜日 14版 大市30

新世界・西成の店 外国人客にPR

簡宿利用者向け食べ歩き地図

大阪市内には、外国人客の利用が盛んな簡宿施設がある。その一つ、西成区にある「新世界・西成の店」が、外国人客の利用を促進するため、簡宿利用者向けに「新世界・西成の店」の食べ歩き地図を作成した。地図には、新世界や通天閣などの観光名所だけでなく、周辺の飲食店や土産物店などの情報が掲載されている。外国人客の利用を促進するため、簡宿利用者向けに「新世界・西成の店」の食べ歩き地図を作成した。地図には、新世界や通天閣などの観光名所だけでなく、周辺の飲食店や土産物店などの情報が掲載されている。

大阪市内には、外国人客の利用が盛んな簡宿施設がある。その一つ、西成区にある「新世界・西成の店」が、外国人客の利用を促進するため、簡宿利用者向けに「新世界・西成の店」の食べ歩き地図を作成した。地図には、新世界や通天閣などの観光名所だけでなく、周辺の飲食店や土産物店などの情報が掲載されている。

新世界・西成 紹介マップ人気

安くてうまい飲食32店厳選

大阪市の地下鉄沿線、動物園前駅周辺の飲食店を紹介した「新世界・西成の店」が評判を呼んでいる。下町に安くてうまい店を中心に取り上げ、表は日本語、裏は英語で、簡宿利用者向けに作成された。中国語版の出版も決まった。

大阪市の地下鉄沿線、動物園前駅周辺の飲食店を紹介した「新世界・西成の店」が評判を呼んでいる。下町に安くてうまい店を中心に取り上げ、表は日本語、裏は英語で、簡宿利用者向けに作成された。中国語版の出版も決まった。

2012年5月16日『朝日新聞』朝刊

2012年5月26日『読売新聞』朝刊

地域資源と旅行者をつなぎたい 3

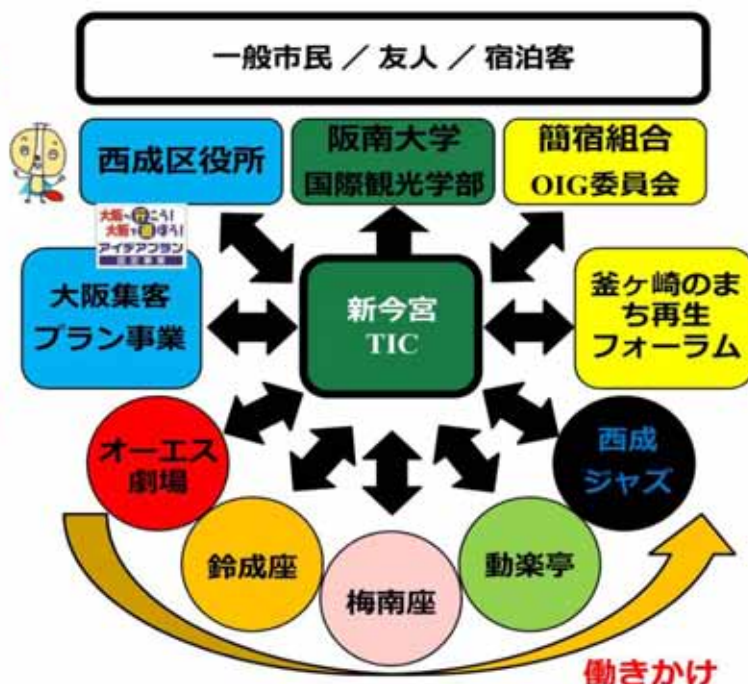
西成ライブエンターテインメント フェスティバルの着想

- ・ **動楽亭**の存在感
 - 阪南大学国際観光学科OBの桂ちようば先輩
 - MAP掲載の「季節料理・坂」
 - ・ 街角から聴こえてきた**西成Jazz**
 - 新今宮TIC運営終わりの山王交差点にて... おでんの「成田屋」から
 - 世界地誌学aでアメリカ黒人音楽史を語る松村先生が「ほんまもんの音や」と感動
 - ・ **大衆演劇**との衝撃的な出会い
 - 「すし寛」にてチケットをいただく
 - いつも前だけ通る怪しげなオーエス劇場のなかでの感動のステージ
- ➡ 日常的に質の高いプロのエンターテインメントがライブで楽しめるまち!!
- ➡ エンタメの実態を把握するため大規模なフィールドワークを実施（2012年5月）



西成ライブエンタメフェス 2012

- FWで発見した地域資源の課題
 - 個別バラバラで互いにライバルで連携なし
 - 大衆演劇は夜の部の客入りが悪い
 - ➔ 新今宮TICが核となり働きかけ横系を通す
 - ➔ ゲストハウスとの協働で宿泊客へ働きかければ...夜の部が...
- 毎月のポスターを新今宮TICの前に全て並べて宣伝
 - ライブエンタメが溢れるまちのイメージ作り
- 大阪集客プラン事業への応募と認定
- OIG委員会の協力



西成ラブフェス 2012 のチラシ

NISHINARI LIVE ENTERTAINMENT FESTIVAL 2012

Student volunteer staffs
Shin-imamiya Tourist Information Center

Japanese popular drama is just like a casual KABUKI. In this area, there are three special theaters for popular drama. Entrance fee is just a special of price ¥1,000 and the quality of their performance is very high.

Let's enjoy Japanese popular drama together! Please come to hotel reception at 16:30, we are going to pick you up and take you to the theater. Don't miss this chance!!

After performance finishes, you can take pictures with actors and actresses.



西成ライブエンターテイメント フェスティバル 2012

西成は日常的にライブエンターテイメントで溢れている街。大衆演劇、上方落語、西成ジャズ...、今日もこの街のどこかで、演者と観客との絶妙の間合いのなかで成り立つアツい生の舞台が繰り広げられています。

日程	オーエス劇場	鈴成座	梅南座	動楽亭	西成ジャズ
11月16日(金)	昼 12時~ 夜 17時~	休演	休演	昼席 14時~	Cafe Grainfield 19時~ 20時~
11月17日(土)	昼 12時~ 夜 17時~	昼 12時~ 夜 17時~	昼 12時~ 夜 17時~	昼席 14時~	Cafe Grainfield 19時~ 20時~
11月18日(日)	昼 12時~ 夜 17時~	昼 12時~ 夜 17時~	昼 12時~ 夜 17時~	昼席 14時~	Cafe Grainfield 17時~ 18時~
11月19日(月)	昼 12時~ 夜 17時~	昼 12時~ 夜 17時~	昼 12時~ 夜 17時~	昼席 14時~	
11月20日(火)	昼 12時~ 夜 17時~	昼 12時~ 夜 17時~	昼 12時~ 夜 17時~	昼席 14時~	
11月21日(水)	昼 12時~ 夜 17時~	昼 12時~ 夜 17時~	昼 12時~ 夜 17時~		立ち飲み 舞楽屋 19時~ 20時~
11月22日(木)	昼 12時~ 夜 17時~	昼 12時~ 夜 17時~	昼 12時~ 夜 17時~		
11月23日(金)	昼 12時~ 夜 17時~	昼 12時~ 夜 17時~	昼 12時~ 夜 17時~		Cafe Grainfield 17時~ 18時~
11月24日(土)	昼 12時~ 夜 17時~	昼 12時~ 夜 17時~	昼 12時~ 夜 17時~	昼席 (半席迄) 14時~	Cafe Grainfield 19時~ 20時~
11月25日(日)	昼 12時~ 夜 17時~	昼 12時~ 夜 17時~	昼 12時~ 夜 17時~		おでん 成田屋 17時~ 18時~ ホテル中庭セレーネ 20時~



新今宮TICの課題と展望

新今宮TICの課題

- 地域で外国人宿泊者が増える一方、**減少するTICの利用者**
 - 「食べ歩きMAP」や新今宮発のガイドブック作成
 - ゲストハウスの対応力UP
 - ➡ 「進化」すべき時!!
- 西成特区構想への貢献
 - 地域の看板ほかの**多言語化**
 - 地域資源の発掘と**観光資源化**

新今宮TICの展望

- Ticket booking機能の創出とまち歩きツアー催行機能の強化で独立採算事業化も視野に...
 - 大学発ベンチャー起業で第三種旅行業登録するか、どこかの大手旅行社と協働するか
- 新規事業への着手：新世界や阿倍野・天王寺
 - 新世界TICの試験的運営（2014年）



山添村の耕作放棄地の資源を活かしたむらづくり

里楽：広報企画 ○中森 晃一
里楽：メンバー 中間 良一
里楽：メンバー 藤田 和子

1.活動方針・目的

奈良県山添村の耕作放棄地の増加を防ぎ、里山の再生を目的とする。その実現のため荒廃した里山に眠る資源の再発見と農を中心とした継続可能な活用法を模索する。
農村・都市の住人を問わず広く賛同者を集め会員とし、耕作放棄地再生の過程やその結果を共有し、それから生まれる農産品やサービスを会員に提供すること。

2.活動内容

里楽(里山再生プロジェクト楽農倶楽部の略称)は、平成22年結成された。山添村で増え続ける耕作放棄地を再生すること、またこうした活動を都市と農村の交流、村や里山の活性化につなげていくことを目指します。
最初に取り組んだのは、長年放置されてジャングルのようになった茶畑の伐採、切り開いた圃場内にドラム缶の炭焼き窯を設置し、茶の木を材料に木炭を作る。
整備した圃場には都市住民も参加し、ジャガイモ・玉葱・さつま芋などを植え、収穫の際は取れたての野菜を使いバーベキュー(使用した炭は茶の木を木炭にしたもの)、など共に取り組んだ。
草刈り作業軽減のため、山添村にある観光施設「めえめえ牧場」の協力を得て、羊3頭を借り受け、春～秋の圃場に放牧しその除草効果を実証した。
また、耕作放棄の茶園に無数に落ちる茶の実に注目、茶の実から搾油する取り組みを始めた。

3.他の活動団体の参考となる事例

耕作放棄地の伐採作業などは重労働を伴うため、重機等の利用が欠かせない。そのために村内の大規模な農業担い手との協力関係を築いた。
山添村観光ボランティアの会の協力を得て、山菜狩りツアー&バーベキューなどを企画し、組み合わせて、都市住民との連携を図ってきた。
めえめえ牧場の羊を利用した除草は里楽メンバーを通じ村おこしの企画として伝えられ、奈良県今井町のJR桜井線の土手の羊による除草作業となった。この事例はTV番組でも取り上げられ、話題となり相当の反響があった。

4.今後の課題等

- ・羊を利用した除草は近年、全国各地で注目されている。里楽ではこれを単に除草作業とはせず、希望があれば都市部の草地にも羊を連れて出かけ、草を食べる羊との触れ合いを通して、人と農業・家畜との係りや自然環境の大切さを学ぶプログラムとして実施していく。
- ・耕作放棄地に落ちる茶の実は、今まで無用とされていた物だが、これを拾い集め茶実油に搾ることで、荒廃した茶園に今までには無かった価値を生み出す。
この茶実油を安定的に効率良く製造する方法、また有効な利用法(食用・石鹸・化粧品、等)を模索すること。

山添村の耕作放棄地の 資源を活かした村づくり

里 楽
さとらく

中森 晃一

山添村ってどんな村



耕作放棄地が増える理由

- 農業者の高齢化・・・65歳以上が約70%
- 後継者の不足・・・職業として農業はリスクが多く、収入も不安定、安定した雇用を求めて都市部で就業
- 零細な畑では、大型農業機械の導入ができないため、効率が悪く産地間の価格競争に勝てない

耕作放棄された茶園



耕作放棄地が増えると、どうなるのか

- 奥山と里山が耕作放棄地でつながり、野生の動物が人家の近くまで降りてくるようになった
- イノシシ・シカ・サル・アライグマ・・・など、野生の動物が農作物を食い荒らし相当の被害が出ている
- 防ぐには田畑を開うしか手立てがなく、費用も手間もかかり高齢者にはむずかしい、被害が広がり、またまた放棄地が増える
- 里山が各地で耕作放棄地に飲み込まれて行く現状、このままでは農を中心とした農山村の生活が成り立たなくなるのでは、という危機

獣害を防ぐため、柵で囲われた畑



里楽の活動方針と目的

- * 山添村の耕作放棄地の増加を防ぎ、里山の再生を目的とする。
- * 荒廃した里山に眠る資源の再発見と農を中心とした継続可能な活用法を作り出すこと。
- * 農村・都市の住人を問わず広く賛同者を集め里楽会員とする。
- * 耕作放棄地再生の過程やその結果を会員が共に体験し、それから生まれる農産品やサービスを共有する。

荒れた茶園の伐採

2010年1月より活動開始

先ずは、もう10年以上も放置されジャングルようになった茶園の伐採から。

笹竹が畑に根を伸ばし、難しい作業を予想したが、専業農家所有の重機によって思った以上にはかどった。

畑の入り口には看板も設置した



大量の茶の木

茶畑再生の過程で、伐採した大量の茶の木が出ました。

これをただ焼却するのも、もったいない。
この茶の木を何か加工できないか？
ということで・・・茶の木で炭をやくことに。

全国でも例を見ない、茶の木が材料の
木炭「茶香留」(チャコール)の誕生

炭は英語でCharcoal:チャコールです



炭やき体験、楽しいぞ

炭をやく(炭を作る作業)は楽しいことです。
ここを誰でもが炭やきの体験ができる場所
にしよう！

ドラム缶で三連炭窯「天地人」を作りました。
この窯で炭やきの三つの過程が1日で体
験できます。

- ・材料の茶の木を窯に詰めて密封
- ・焚口から火入れ、煙の様子を見ながら火止め(約6時間)、焚口を塞ぐ
- ・窯が冷えてから、出来上がった炭を取り出す

お昼はもちろん、バーベキューその燃料は
茶香留、お土産も茶香留です。



春の山菜狩り&BBQ I

里楽で一番人気のあるイベントはやはり「春の山菜狩り」です。

家族連れの参加が多く、春の里山を存分に楽しんでいます。

山菜狩りは山添村の観光ボランティアのガイドさんに案内していただき、山菜の名前、見分け方などの学習もします。



春の山菜狩り&BBQ II

午前中採った山菜は、その日のお昼の食材に、

わらび・こごみ・たらの芽・つくし・よもぎ、など等・・・天ぷらなどにします。

自分たちで摘んだばかりの山菜をいただく・・・これはうまい！

楽しく、おいしいものを食べながら、里山のこと自然のこと知ってもらえたらと思っています。

レンガで作ったストーブも活躍、これは今はやりの「ロケットストーブ」の原理を応用して作りました。



再生した里楽畑

荒れた茶園を伐採し、再生した畑には、サツマイモを植えました。

里楽メンバーそれぞれ仕事があり手間の掛からないものというのでサツマイモにしました
しかし・・・



畑の雑草対策

さつま芋、ジャガイモ、枝豆、玉葱、自然薯、果樹、いろんな作物を植えましたが、収穫はわずか。

畑の管理作業が出来ないのです・・・特に草刈りが大変

このままでは、また元の耕作放棄地に戻ってしまうのでは・・・

そこで、名案が！

山添村の観光施設に「めえめえ牧場」というひつじの公園があります。

こちらから、ひつじを借り受けて草刈りを助けてもらおうと考えました。



ひつじの草刈り隊

ひつじの草刈り隊

ひつじを利用した草刈りは予想以上に広がりをみせました。

次の年には山添村の休耕田の除草をし、雑草をほぼ食べ尽くしました。

田畑にエサになる草があり、柵と簡単な小屋、水飲み場があればひつじは生きて行けます。

耕作放棄地が広がる条件として草刈りが出来ないことがあります、ひつじの放牧でこれを防止出来たらと思っています。

また、里楽メンバーの紹介により、奈良県今井町にあるJR線の除草作業をめぐめ牧場のひつじが手伝いました。

これはTV番組で取り上げられ相当の反響がありました。



お茶の実の利用

10月～11月、茶の花が一斉に咲きます。

特に耕作放棄地の茶にはたくさんの花が付きます。この時期、里楽の茶畑は茶の花の甘い香りで一杯です。

ちゃんと管理され刈り揃えられた茶園より、荒れた茶園に花が多い、自然なんですね。



その花の咲くころ、昨年の花が大きな実を付けています。その実が弾け中の種が地面に無数に落ちます。

今まで無用の物とされていた、この大量の茶の実を資源として活用できないか？



茶の実の油を搾る

茶はつばき科の樹木です。椿の実からは椿油を搾ります、茶の実も同じではないか…

調べると、ありました茶実油、食用・肌用と椿油と同等かそれ以上の有効成分を含んでいるそうです。

しかも、耕作放棄地のお茶はもう何年も無農薬で育っています。

里楽みんなで茶の実を拾いました。殻剥き、乾燥、選別と全部手作業、大変でしたが、何とか5kgの乾燥した茶の実を集めました。

搾油をお願いし、約500mlのきれいな茶色の茶実油「茶香油」が搾れました



里楽、今後の課題Ⅰ

羊を利用した除草は近年、全国各地で注目されています。

里楽ではこれを単に除草作業とはせず、希望があれば都市部の草地にも羊を連れて行きます。

草を食べる羊と地域の住人との触れ合いを通して、人と農業・家畜との関わりや自然環境の大切さを学ぶプログラムとして実施していく予定です。



里楽、今後の課題Ⅱ

耕作放棄地に落ちる茶の実は、今まで無用とされていた物だが、これを拾い集め茶実油に搾ることで、荒廃した茶園に今までには無かった価値を生み出す。
この茶実油を安定的に効率良く製造する方法、そして有効な利用法(食用・石鹸・化粧品、等)を模索すること。



チャロマキャンドル



里楽鍋完成

里楽のイベントにはバーベキューが付き物です。

それを担当してくれるのが中間さんです、私たちは敬意を込めて「中間シェフ」と呼んでいます、無類のお料理好きです。野外でありながらBBQだけではなく、いろんな料理を披露してくれます。

中間シェフ自慢の「里楽鍋」が出来ました。鍋つゆに茶の実の油を使います。

春の里楽山菜狩りで初お目見え！

4月19日(土)里楽：春の山菜狩りBBQ

参加者募集中！

詳しくはWebで

里楽で検索

検索



小さな自治体・東豎町のまちづくり
伝統文化の継承と発展「猿楽能と町衆」

東豎町自治会文化委員会 委員長 渡辺 昭

副委員長 達富弘之 ○

委員 中井隆

1.活動方針・目的

町内の活性化と潤いの基盤は文化活動と生活改善

A 伝統文化と行事の検証と継承は文化部門で企画と実践

B 高齢化社会に対応できる住みよい町づくりは環境部門で企画と実践

2.活動内容

A部門 小さな町に息吹く文化力の継承と発展 歴史の検証と発展を実践する

1.地域に息吹く歴史と伝統・その文化力は大切な地域資源

検証と継承で地域資源の枯渇を防ぐことが大切。

節季・節目を忘れた現代社会への継承

便利さにとらわれ、代償の危険に目をつむる現代社会の見直し・もったいない文化の
実践

2.地域に残る伝統芸能『丹波猿楽能と庶民文化を考える』

3.他の活動団体の参考となる事例

過去3年間の『町誌』の作成でと気付いた地域資源の掘り起こしの大切さ

有史以前からの当地域の生活・その歴史と伝統は遺伝子として残っている

少ない資料の検証は夢を誘う 地域の広がりにも期待も広がる

眠れる地域資源(地域の伝統)が呼びかける

地域の文化力の向上は日常生活に活性と潤いをもたらす。

丹波猿楽能と町衆 町内とのかかわり

他団体との古流とコラボで活動の充実が図れる。

今やらねばならぬこと すたれ・失っていく伝統文化の記録

4.今後の課題等

一つのこと集中すると派生して見えてくる文化の広がりは無数の世界。立ち止ま
らなければ活動は続く。集団の力量と体力を考え無理のない範囲での活動を組
み立てることが大切。

オーバーワークの歯止めも必要。

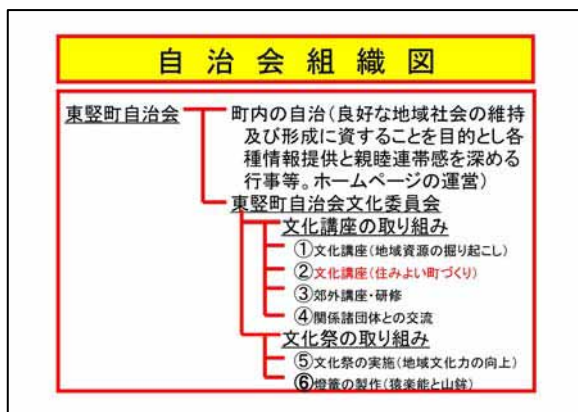
1



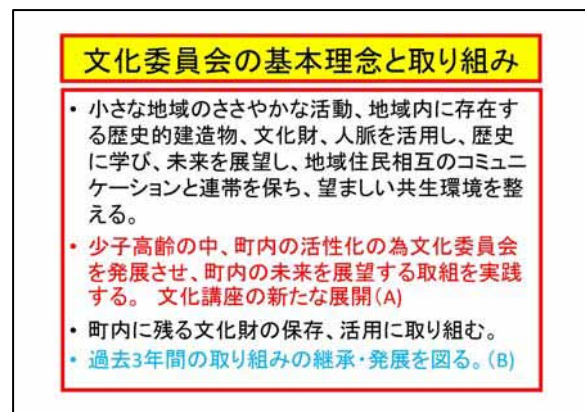
2



3



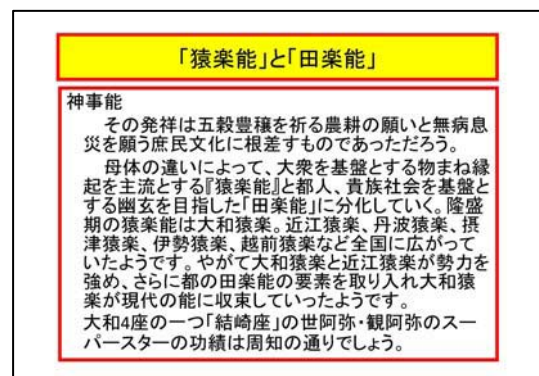
4



5



6



7

神事能致候



8

『丹波猿楽能』発祥地 鍬山神社



鍬山神社のある京都丹波、亀岡市矢田地域は丹波猿楽能、日本の古典芸能『能』の発祥地である。神代から江戸時代まで、当地域の矢田産は鹿産を獲め、京都の伏見の御香宮や上賀茂神社、大原などへ神事能の奉納あるいは指導に出向いている。京丹波地域にはほかにも数つかの産があった様で、丹波能の痕跡は南丹市日吉町に残る。梅若家の首領寺曾孫の前にある横の欄干には能舞が描かれている。梅若の墓所は人足離れた木畑に山間にひっそりと立つ。矢田地区には習業も継承されており、歴史の奥深さを感ずる。京丹波系能の能楽から分岐し種々の古典芸能が丹波地域に継承されている。亀岡域下町に接する山部にも多大の影響を与えたようだ。鍬山神社はもみじの名所である。晩秋の丹波路散策には当地のもみじ鑑賞をお勧めする。

9

鍬山神社に猿楽能のルーツが



10

鍬山神社に猿楽能のルーツが



11

地域に残る神事能の痕跡

古文書は語る

馬路地域の猿楽能

御香宮・大原への出前の記録

点在する丹波梅若のゆかり

12

第1回調査は南丹市日吉町 丹波猿楽能 梅若家の墓所 南丹市日吉町殿田



13

丹波猿楽能 梅若家の菩提寺
曹源寺 と 曹源寺橋欄干



南丹市日吉町殿田



14

丹波猿楽能 梅若家の墓碑
南丹市日吉町生畑ヒヨ



15

綾部市大島にも梅若ゆかりが
綾部市大島の福田神社境内にある
梅の森神社（丹波梅若ゆかりの神社）



16

他団体の能楽講座1＜第3回＞亀岡祭り解体新書

- ・＜第3回＞亀岡祭り解体新書
- ・能楽から山・鉦の趣向を考える
- ・日時：2013年5月19日（日）午後2時～午後4時
- ・場所：亀岡市役所1階市民ホール
- ・講演：京都造形芸術大学歴史遺産学科 客員教授 五島邦治
- ・内容：宝生流舞囃子「高砂」大本宝生会
講演「亀岡と能・謡の文化」
- ・亀岡祭りの山鉦の風流のお話のほかにも、亀岡の矢田に本陣をおいたといわれる丹波猿楽や室町時代今日の町衆は、能、狂言、謡などを教養としてたしなみ、山や鉦の趣向にとりいれたことなどについてお話をいただきました。

17

他団体の能楽講座2
能楽に親しむ会 10月2日亀岡文化交流協会

- ・辰巳満次郎さん（宝生流能楽師）
- ・能の動き・所作を知ると見方が変わる
- ・能楽の楽器とお雛様
- ・能面をつけて実体験
- ・船弁慶のデモンストレーション
- ・お囃子で荒ぶる波間を表現する等
- ・大本本部春陽閣

18



体験
面付け



・実演
・船弁慶

19



20



21



22



23



24



25

文化祭に訪れたアグネッタ・フロックさん、ここでプレゼントされたモンベを今年のNHK番組で紹介するという



26

町内の婦人よりモンベとお手玉のプレゼントを受け取るアグネッタ



27

今年の明りは丹波猿楽能と山鉾



28

今年の明りは丹波猿楽能と山鉾



29

各町の能楽由来の山鉾一覧



30

城下町の山鉾一覧 11基



25

大胆な推理

- ・ニソの森
- ・京都丹波を考える時、
- ・その文化圏は若狭・
- ・丹後まで広がる。
- ・海の信仰・山の信仰
- ・神事能・猿楽から繋
- ・がりが見えるのでは。



26

今後の展開

神事能が大衆にどのように溶け込んだか

神事能と地域の伝統芸能とのかかわりを調べる

丹波は伝統芸能の宝庫

- * 犬甘野の御田、田原の御田、綾部の御田、など
- * 和知や亀岡の人形浄瑠璃
- * 日吉神社の馬掛け
- * 京北町の矢代田楽

など、思わぬ展開が待っているかもしれない

上矢田地区に残る猿楽の伝承 その背景を検証する

丹波猿楽能「矢田座」の存在からスタートしたが、そのルーツの検証はなされていない。猿楽に考察の糸口があると考え。

27

神事能と地域の伝統芸能とのかかわり①



犬甘野の御田
日吉町・綾部の
御田も共通する

28



出雲風流花踊り
類点が多いが出雲風流は丹波猿楽、田山は大和猿楽の影響がある
と考える

29

神事能と地域の伝統芸能とのかかわり③

日吉の馬掛け



30

神事能と地域の伝統芸能とのかかわり②

地域に残る人形浄瑠璃
和知の人形浄瑠璃



佐伯灯籠



31

神事能と地域の伝統芸能とのかかわり④



32

上矢田地区の雅楽 鍬山神社例祭奉納

鍬山神社例祭には雅楽奉納がある
しかし
そのルーツと伝承は謎に包まれている
猿楽能以前に元始があるのでは?



33

ホームページ運営で情報の発信



34

ご静聴ありがとうございました



東堅町自治会文化委員会
伝統文化部会

京都駅周辺地域のまちづくり活動

龍谷大学門前町サークル
植柳まちづくりプロジェクトチーム

Q: 外(海外)からみた京都と内からみた京都の違いは。

A: 日本に来たことがない外国人にとって京都は金閣寺・清水寺のイメージが強い。実際はそれ以外に貴重なものがたくさんある。仏具の「リン」をモチーフにゆるきゃら「おりんちゃん」をつくる発想もその一つ。外国人にとってもびっくりすることだ。

横: 外国人や学生が入ることで、忙しく過ごす地域の人の刺激にもつながっている。

水軒堤防の再生と市民の公園の実現

水軒の浜に松を植える会

Q: もともとあった綺麗な松の景色を再生すると同時に、より多くの人に利用してもらおうとアイデアを出し合っている平成20年から活動されているが順調か。

A: まだまだやらなければいけない課題がある。植える時は炭を根元に植えると炭に菌が付き、松の木は元気に育つそれでも枯れた木をどうしていくかが課題だ。

新今宮観光インフォメーションセンターを核とした新たな社会的実践の展開

阪南大学国際観光学部
松村嘉久研究室

横: 新今宮エリアは簡易宿舎が密集する地区だった。高齢化により段々と成り立たなくなっていった。しかし今では安価で泊まれるとあってバックパッカーが大勢訪れる場所となった。その変化に対応する為、若い学生の力で様々なことを実践している。

スタート時は3,000人程度の外国人を対応していた。今年は130,000人となる予想。価格も安くなっている。すごい形でまちがかわっていつている。学生たちは夏休みにTICに行くのだから外国人もその時期にたくさん訪れるので上手く成り立っている。

Q: 新今宮は関空にも、奈良・京都にもアクセスしやすく非常に便利だが、治安はどうか。

A: 昔は色々あったが、当時の人は高齢化が進み少し元気がなくなった。簡易宿舎はホテル並みになり、まちも綺麗になっている。

横: 新しい要素が入ることで、まちがどんどん変わる。行政も意識が変わり、道路やまちを綺麗にしてくれるようになった。治安の悪かった部分は小さくなっていつている。



山添村の耕作放棄地の資源を活かした むらづくり

里楽

Q: お茶が椿科ならばシャンプーにも良さそう。炭もせっかくだから付加価値を付けて売れたらいいと思うがアイデアはあるですか。

A: 絵を書くときに炭を使っているのだが、硬さなど一度試して確かめてみる。

Q: お茶は抹茶スイーツ開発など進化の過程にある。また宇治茶は日本食の次に世界遺産登録を目指している。その流れにのると面白いかもしれない。

A: 里楽鍋というものには、お茶が入っている。奈良は名物が少ないのでいいかもしれない。アイデアがあればぜひ里楽まで頂きたい。

Q: 羊肉を食べたり、羊毛で服を作ったりすることしか知らなかったの、羊で雑草刈りをしていることにびっくりしたしかし草の根っこまで食べてしまわないか

A: 休耕田の除草対策なので、刈る場所を移動させながら行っている。根っこまで食べることはないし、草は強いのでまた生えてくる。砂漠化を防ぐ為に頭数は調整しながら行っている。日本は高温多湿で草が無限に生えているので、それを資源とするのも面白い。

小さな自治体・東堅町のまちづくり 伝統 文化の継承と発展「猿楽能と町衆」

東堅町自治会文化委員会・
伝統文化部会

横: 切り絵の技術がすごい。何か発注できればと思う

Q: 大阪市の城東区からきており地域の活動をしている。その中で「猿楽祭」を行っている。自分たちの地域には他に何もないので、「猿楽」を売りにしてまちづくりをしている。ぜひ情報を交換しながら一緒にできればと思う

A: ぜひやりましょう。猿楽能は奥が深いので非常に面白い

横: この場でつながりネットワークができたことが面白い。

地域資源を生かして、いろいろな取り組みが各地で行われている

この発表会もどんどん進化をして、毎回勉強させてもらっている

本日はどうもありがとうございました。



第3分科会：コミュニティ防災減災部門

座長：田端 和彦 氏（兵庫大学 教授 / 附属総合科学研究所長）

郊外住宅地のボランティアまちづくり —みんなの笑顔求めて—	星田山手ボランティア・ 街づくり推進会	大阪府交野市
「箱の浦まちづくり協議会」の 活動報告	箱の浦自治会まちづくり協議会	大阪府阪南市
小さな自治体・東堅町のまちづくり 地域社会のゴミ処理 現代社会の避けて 通れぬ課題の1つ	東堅町自治会文化委員会・ まちづくり部会	京都府亀岡市
看護の力を発揮したまちづくり ～「子ども未来フォーラム大阪～広げ ようパパの育児休業～」開催を事例に～	パパの育児休業支援センター	大阪府大阪市
「双葉町応援隊 —KIZUNA—」 被災地と心をつなぐ	京丹波町スポーツ少年団	京都府京丹波町
みんなで作ろう！防災かまどベンチ	防災かまどベンチ実行委員会	奈良県平群町

座長

田端 和彦 氏（兵庫大学 生涯福祉学部教授、附属総合科学研究所長（兼）

兵庫大学生涯福祉学部教授、附属総合科学研究所長。三重県生まれ。
広島大学大学院生物圏科学研究科博士課程後期修了。93年に広島大学助
手、95年、兵庫大学講師、同大学経済情報学部経済情報学科准教授を経て、
08年に生涯福祉学部発足により、現職。専門は地域経済学、地域政策論、地
域福祉学。07年まで兵庫県の外郭団体である（財）ひょうご震災記念21世紀
研究機構地域政策研究所で、主任研究員を務め、地域再生や競争力向上、コ
ミュニティビジネス等に関する研究にあたった。
著書に『参画と協働—理論と実践』他、また論文に「地域の産業創発の国際比
較」、「地域の競争力向上とガバナンスのあり方」など。



郊外住宅地のボランティアまちづくり

—みんなの笑顔を求めて—

星田山手ボランティア・街づくり推進会代表 内野 藤彰

1.活動方針・目的

ボランティア活動は自主的な参加により地域住民に貢献し喜んでいただけることであると考え、奉仕活動や各種イベントを取り組み、活性化させることで地域住民が互いに知り合い、技術を発揮し、話し合えることで、みんなの幸せにつなげることを目標としている。

子や孫がいつの日か喜んでUターンいただけるよう、安心・安全に暮らせる住み良い魅力あるまちづくりを進めていく。

2.活動内容

星田山手ボランティア・街づくり推進会は平成19年に発足、既に活動していた「山ナリエ」(イルミネーション)によるまちおこしを加速してTVや雑誌で取り上げられるなど、又新年の「どんど焼き」「盆踊&夏祭り」秋の「コスモス祭り」などのイベントや、交野市との連携による救急・救命講習会、防災訓練、傍示川清掃活動、学童見守り隊の創設など住民ボランティアによる積極的で多岐に亘る取り組みを行っている。

3.他の活動団体の参考となる事例

草が生い茂る遊休地を住民ボランティアで切り開き、市民農園や多くのイベント来訪者の駐車場に活用するなど各種イベントに利用している。併せて日常の維持管理を行う事で交野市、地権者、星田山手住民の三者がwin-winの関係を築いている。資金等は行政からの資材提供もあるが、鉄屑・アルミ缶収集や、各種ボランティア支援金や寄付金の応募により確保している。

また顔見せ総会、日帰りバスツアーを各々年一回開催するなど、ボランティア相互の親睦を図っている。

4.今後の課題等

住民流出をいかに抑え、若者を流入させるかが課題であり、解決のためにはこの取り組みの継続とさらなる発展が必要であると考え、今後も話せる場作りを行い、次の点に留意しながら、「安心・安全」に暮らせる「住み良い魅力あるまちづくり」を進めていく。

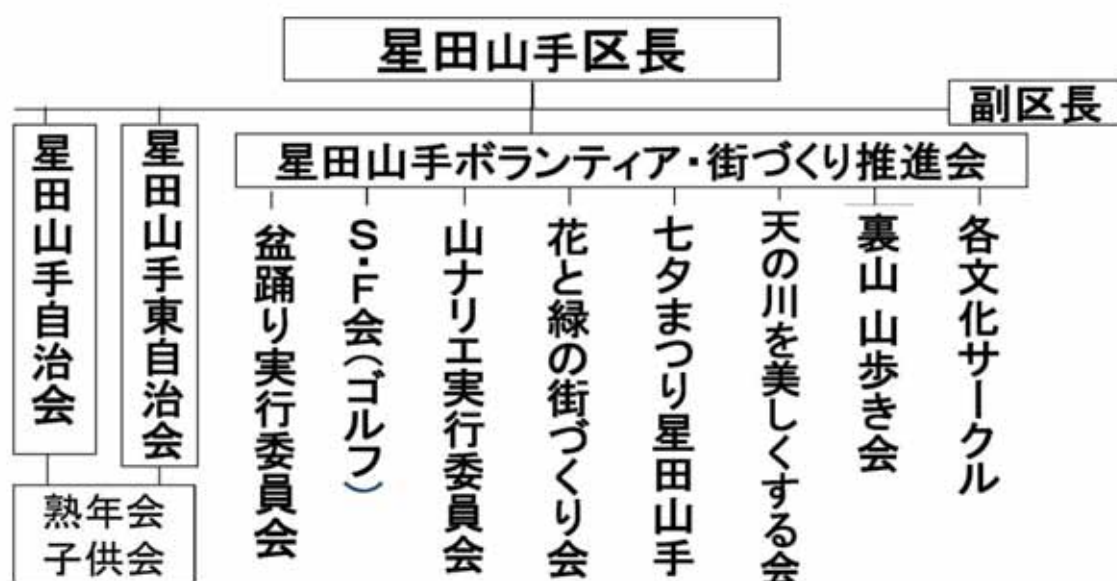
- ・まちづくりにはキーマンが必要であるため、後継者の発掘で各行事担当実行委員長制。
- ・ボランティアの高齢化に伴う、各イベントの機械化等での軽減化と新規参加者の登録。
- ・イベントに子供達を呼び込むことで若い世代との交流を図りより多くの参加者を募る。
- ・新規に居住方に親切に活動を紹介しサークル活動に参加して頂く事で新風を入れる。

交野市星田山手地区
「郊外住宅地のボランティア街づくり」
☆みんなの笑顔を求めて☆

交野市星田山手区 区長
渡邊 省三
平成26年3月1日

組 織 体 制

H19・4・1 発足



他にも多くのボランティアが有ります、奮って参加を！

平成25年度のボランティア主な活動報告

活動行事	実施状況
傍示川花見大会を実施	・山手橋下流の傍示川沿いで実施(4月)
傍示川整備	・草刈りなどで整備 (H25年度は6回) ・桜追加植樹(6本)を実施。植樹合計は101本。桜合計は168本
「ソーメン流し」の実施	・竹伐り出しから、水路設定、運営まで応援 (7月)
織姫の里天の川星まつり	・従来の「交野まつり」と「天の川七夕まつり」が一体となって第2回目の行事に参加。竹燈籠・笹飾り 等を設置(8月)
「盆踊り&夏まつり」を支援	・最大行事である「盆踊り&夏まつり」を全面的に支援(8月) (突然の嵐のためテント等修復し準備をやり直して1日順延)
「コスモス祭り」を実施	・今回は第5回目となる「星田山手コスモスまつり」を実施(10月)
「山ナリエ」の応援	・公共の場の飾りつけ (11月) ・警備本部設置と連日の警備 (12月) 後片付(1月)
「どんど焼き」支援	・今回より実行委員会単独で企画運営を実施(1月) ・どんど焼きの材料確保 ・組み立てから最終後片付けまで実施 (星田神社の協力で神事を実施。昨年からの餅つきも実施)
和み広場の整備	・「花とみどりの会」の全面的な支援で各種の作物を植つけ (コスモス、菜の花、矢車草、綿の木 等々)

3



2013 年 4 月 傍示川花見大会



2013 年 7 月 ソーメン流し大会



2013 年 8 月 盆踊り&夏まつり





2012年12月 救急救命講習会



2014年2月第4回バスツアー(長浜)

地域支援活動へ展開

活動行事	実施状況
自治会支援	・毎年交代の自治会の役員会に出席 ・市への各種要請と実施確認 ・行事のサポート(設営、運営など) ・広場及び法面管理 ・防災訓練の支援
「ごきげんさん活動」	・連絡協議会員の任命と定例会議の実施 ・高齢者訪問(一人暮らし、病気元家庭)で健康状況等確認 ・毎月ニュースを発行(お元気ですか) ・ゴミ屋敷の解消・荒れた空家の周辺整備・行方不明者の捜索
校区福祉活動の支援	・福祉活動(子育てサロン、いきいきサロンなど) ・毎朝のラジオ体操、挨拶運動 ・元気アップ体操の支援
子供会・学校への活動支援	・学童の登校の見回り(通年) ・夏休み子供ラジオ体操支援 ・河内木綿の栽培・収穫加工支援 ・週一の学校でのフリースペース活動支援
傍示川を美しくする会の支援	・傍示川の側道の草刈り等保守活動 ・傍示川の桜並木の整備 ・傍示川の安全対策(板橋の保守等の活動)

11

「ごきげんさん連絡協議会」を発足

■高齢者が増加する為に各種支援活動が必要となる。
(含む:行方不明者捜索)



辞令の交付



会議の状況



声掛け活動の姿



ゴミ屋敷よりゴミの回収

広場及び法面の整備

■不法投棄品の捨て場からイベント広場、市民農園、災害時の一次避難所への変身

〔広場でのイベント他の活用〕

- ①どんど焼き ②素麺流し ③盆踊り&夏祭り
④コスモス祭り⑤ラジオ体操⑥その他スポーツ

■何も生えていなかった法面は森林化し安全面、景観面で問題が発生。不要な松、檜、樅等の大木を伐採、必要な物のみに変化させ調和が取れるようにした。

13

広場整備と地域農園づくり



背丈より高い草刈

荒れに荒れていた広場の整備



整備後の一時

警察もびっくり盗難バイク

傍示川を美しくする会の結成

■傍示川の現状は荒れ放題で会ったのを見て皆で良くしようとの声で大阪府、交野市を巻き込んで活動を開始



川を覆いつくすニセアカシヤ



不法投棄品の山

第一回活動開始

■活動をするにあたりヘルメットやチェーンソー、竹粉碎機などを各所から借用死活度を開始



70名の参加者と記念写真(平成20年2/27)

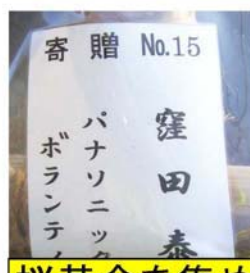
傍示川桜並木構想へ展開



記念植樹後の記念写真



アドプトリバーの認証



桜基金を集め
名札を掲示



記念の植樹

傍示川土嚢1万俵作戦



崩落の要因の大木伐採



作業完了後の記念撮影



土嚢1万袋の積み上げ



土留め柵の完成

自治会の課題

- 自治会の加入が100%ですが脱会希望者や新規居住者の入会拒否が発生しかけている。
- 役員が一年交代ですが負担増及び健康状況等で辞退者が多く毎年調整がいる。
- 自己を守る事が精一杯で新しい転入者を暖かく迎える事が出来ない風潮が増加。
- 葬儀をしない等の社会通念が変わってきた事でご近所の繋がりが欠如(ゴミ集積所等井戸端会議無し)
- 行事を減らしたがる一方で自治会とはの論議。

19

自治会よりボランティアに移管した行事



〔星田神社宮司による神事〕

2014年. 1月どんと焼

ボランティア活動の課題

- 行事が年々増え更に高度化への歯止めが必要。
- 活動メンバーが固定化、新規参加者が増えない。
- 派閥が出来てくる ⇒ 責任者のリーダーシップ。
- 高齢化で今までできた事が出来なくなりつつある。
- 楽しい事を求め情報交換の場への転換がいる。
- 活動資金の捻出(寄付、自治体や企業交付金)

21

◎ 資金調達は各種団体の
ボランティア支援金や寄付金。



※他にアルミ缶プレス品、他に屑鉄等集め販売

校区福祉委員会の活動と課題

◎ 民生児童委員中心の活動を支援。

■活動

- ①いきいきサロン②子育てサロン③映画会
- ④元気アップ体操⑤挨拶運動

■キーマンと応援者が中心で運営しているが後継者問題が課題である。

■校区福祉委員会は3区に跨り責任範囲が不明確で有り混乱している⇒区の編成に課題が有る。

23

子供会・学校への支援が課題

■子供会の運営が困難に成ってきている。

☆共稼ぎや母子家庭が増え役員の成り手がいない。

☆小学校が違って子供会に入っている。

■学童登校の見守り(20名強の人で行っている)

■ラジオ体操も支援しているが子供達！

■河内木綿の栽培・収穫・加工の支援

■学校のフリースペースでの支援！

24



学童見回り隊（登校日毎日 通年）

まとめ

- 街づくり始め何事も「一将の陰」責任者次第！
- お金を集めたり引き出す算段が必要！
- 行事を公にする努力が必要！
- 自分の存在が皆さんが幸せかを念頭に置く活動！
- 話せる場づくりを今後も求め続けていきます！！

26

「箱の浦まちづくり協議会」の活動報告

箱の浦自治会まちづくり協議会 会長 岡 保正

1.方針・目的

行政に頼らず、箱の浦地域のことは箱の浦の自分たちで解決する。

「いつまでも箱の浦に住み続けたい、箱の浦で育ってよかった」といわれる地域に！

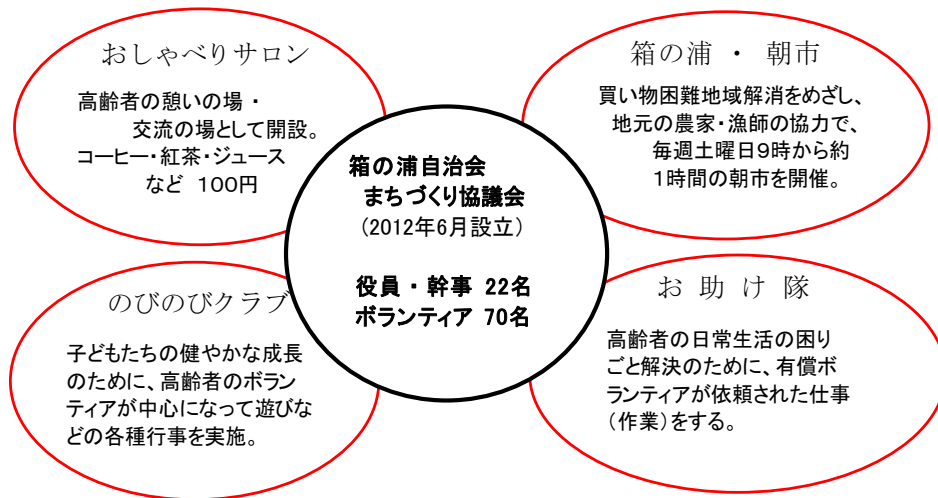
2.活動内容

「まちづくり協議会」の結成

- ・団地の自治会は役員(6名)・班長(30名)は毎年改選交替のため継続した事業が困難。
- ・2012年6月に、自治会役員、民生委員、校区福祉委員と有志で、下記4項目を目的として、「箱の浦自治会まちづくり協議会」を結成し、ただちに活動を開始した。主な事業(活動)は以下の通り。

- ①高齢者支援・相談
- ②子育て家庭支援・相談
- ③地域福祉支援・相談
- ④地域美化・環境整備事業

・ 2012年6月～2014年1月までの事業の概略は以下の通り。



3.他の活動団体の参考となる事例

「おしゃべりサロン」、「箱の浦・朝市」がそれぞれもたらす効果(発表にて説明します)

4.今後の課題等

後継者対策

「まちづくり協議会」として活動を開始して1年半余ですが、ボランティア活動に参加している大半が65歳以上の高齢者のため、次世代の若い人たちの活動参加が課題です。



箱の浦：このまちに住み続けたい

箱の浦自治会まちづくり協議会
会長 岡 保 正

すべてに共通しているわたしたちの想い

箱の浦のことは

箱の浦で解決する！

みんなが、住み、くらし、働き、
活躍し続けられるまちに！

わたしたち箱の浦まちづくり協議会は、こんな
当たり前のみんなの願いをみんなで叶えるた
めに立ち上がった団体です。

まずは居場所・・・ サロンの立ち上げ

<住民センターを使用するも・・・不便>

- ・「こんな場所を求めてた」と賑わうが、
公共の住民センターは崖の上で高齢者には不便



3

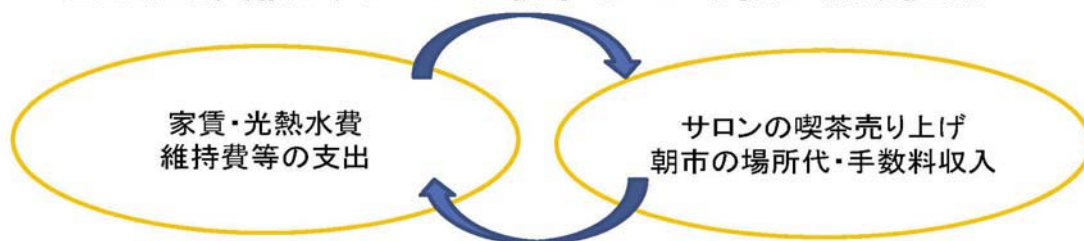
いっぽうで・・・空き家、空き地が地域の課題に

- ・交通困難地で買い物や生活に不便→転出→空き家空き地



逆転の発想！空き家をサロン&活動拠点に

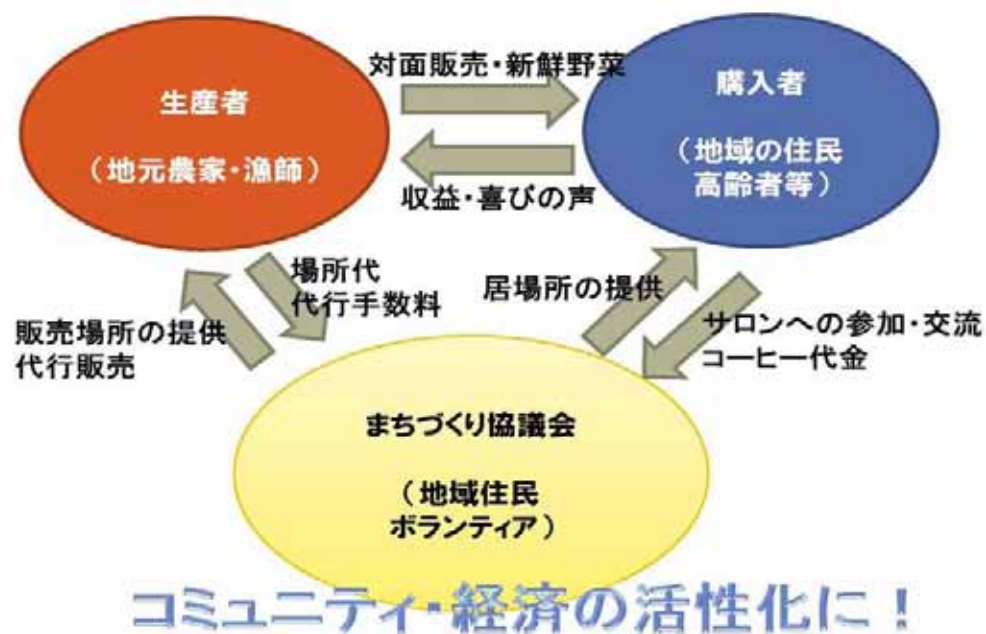
・空き家を賃借し、サロンや朝市などの常設の活動拠点に



「歳をとると買い物に困るわ・・・」
⇒朝市の開催



朝市での人・活動・お金循環サイクル



のびのびクラブ



「ちょっと困った」の解決へ ⇒お助け隊

- ・網戸の張り替え、空き地の草刈り、電球交換、植木選定など

シニア男性

有償活動
参加の場



安価で依頼
地元のつながり派生

高齢者など



もたらす効果

- ・高齢者の楽しみ、居場所
- ・買い物難民の解決
- ・子どもと親のつながりづくり
- ・地域内での助け合いの体制づくり
- ・地域環境美化（地域課題の解決）

今後の計画

- ・隣の空き地を買い上げ、子どもの拠点、災害時避難場所に
- ・土地購入は協議会幹事、協力者有志の募金により取得

これからの活動(事業)予定

1. らくらく送迎…………… 早朝・夕～夜の時間帯に駅までの送迎。
2. 資源ごみ回収…………… 新聞・アルミ缶を月1回収し、事業資金に。
3. シニア・ランチハウス… 一人住まいの高齢者の食事会。
4. 安心ダイヤル…………… 一人住まいの高齢者の見守り活動。
5. 子どもの居場所と学童保育… 子どもの遊び場と勉強場所づくり、
と地域での「学童保育」
6. 箱の浦アダプト…………… 公園や街路樹の清掃・管理、街並みの
保全・環境整備。



ご視聴ありがとう
ございました

箱の浦自治会まちづくり協議会

小さな自治体・東堅町のまちづくり
地域社会のゴミ処理 現在社会の避けて通れぬ課題の1つ

東堅町自治会文化委員会 事務局長 宇古守

文化委員 太田広 ○

文化委員 津山宏 ○

1 活動方針・目的

町内の活性化と潤いの基盤は文化活動と生活改善

- A 伝統文化と行事の検証と継続は文化部門で企画と実践
- B 高齢化社会に対応できる住みよい町づくりは環境部門で企画と実践

2.活動内容

B部門 小さな町の自治会の抱える諸問題解決の道筋を考え実践する

3.他の活動団体の参考となる事例 民間連携の取り組み 一つの事例

日常生活に欠かせないのは食と排泄、ごみ処理の問題

その背景と生活実態の変遷

自然界の循環再生の限界を破壊した現代社会

企業論理に振り回される行政と民衆はどちらも被害者

誤った個人主義の歯止めにはやむを得ぬ悪法で対応せざるを得ない

被害者同士がせめぎ合っても解決にはつながらない

弱者へのしわ寄せを組織で守る

めまぐるしく変わる条例とごみ処理(住民に目を向けた姿勢が必要)

ゴミ処理の方法とシステムの理解(現実へのスムーズな対応)

出前講座の活用(東堅町文化講座第3講座、第4講座は亀岡市環境クリーン推進課連携)

矛盾含みでも順法精神でもって現在生活に対応しなければならない。

民間と行政の望ましい連携、共通理解で無駄を減らし、安全・安心を確保する。

4.今後の課題等

隣町・地域間の連携と協力、越境不法投棄の撲滅、ゴミ処理システム理解の徹底

1

小さな自治体・東堅町のまちづくり
地域社会のゴミ処理
現在社会の避けて通れぬ課題の1つ
東堅町自治会文化委員会

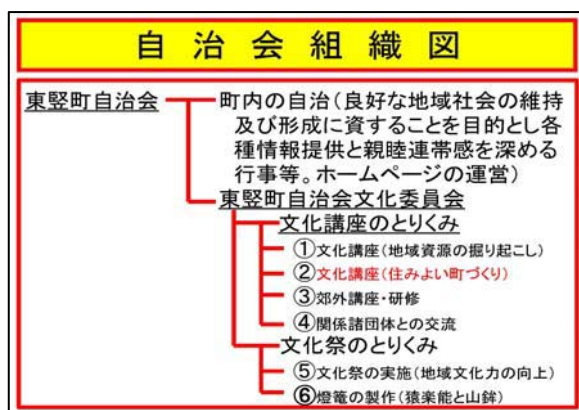


発表者
太田 広 津山 宏

2



3



4

文化委員会の基本理念と取り組み

- 小さな地域のささやかな活動、地域内に存在する歴史的建造物、文化財、人脈を活用し、歴史に学び、未来を展望し、地域住民相互のコミュニケーションと連帯を保ち、望ましい共生環境を整える。
- 少子高齢の中、町内の活性化の為文化委員会を発展させ、町内の未来を展望する取組を実践する。文化講座の新たな展開(A)
- 町内に残る文化財の保存、活用に取り組む。
- 過去3年間の取り組みの継承・発展を図る。(B)

5

町誌づくりの取り組みは伝統文化掘り起こしの宝庫



6

ゴミ処理講座 1

7

身近に潜む切実な課題が見えてきた

高齢化社会と生活の課題

医療費の増大、年金の原資行き詰まりによる消費税UP、介護費用の増大、

ぼけ老人、認知症の世話のため家族の負担増大。

日常生活のゴミ、粗大ゴミ等の撤去に対応困難な独居老人の増加.....人ごとではない。

8

自然界リサイクルの限界を超えた現在社会

- 自然の力による分解のできない物質の氾濫
プラスチック製品、ゴム、ポリ塩化ビフェニル(PCB)、アスベスト等



- 原子力廃棄物処理は世界の課題

超ウラン元素(TRU)には半減期が数万年に及ぶものがある。

宇宙に廃棄する案がある。

地震の多い日本で数万年も安全に保管できるものか？

9

悪法と言えども規制が必要

1. 家庭ゴミの焼却による処理の禁止
2. 野焼きの禁止
3. コストの関係で資源を資源と見なさない企業と行政.....これによって悪法・条例が

10

行政の処理能力

現在のゴミ処理の行き詰まりは目に見えている。

無限に続かない。亀岡市は15年(すでに半減している)で限界にくる。

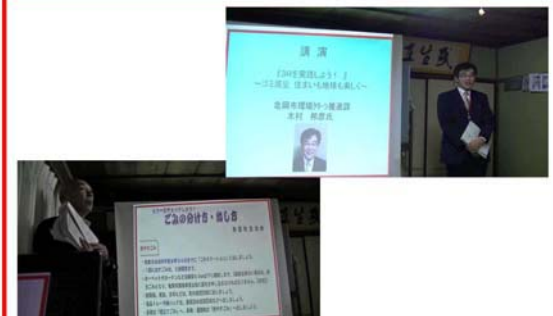
11

亀岡市・近隣地域

- ・ 南丹市や京丹波町では？

12

亀岡市のゴミ処理



13



14



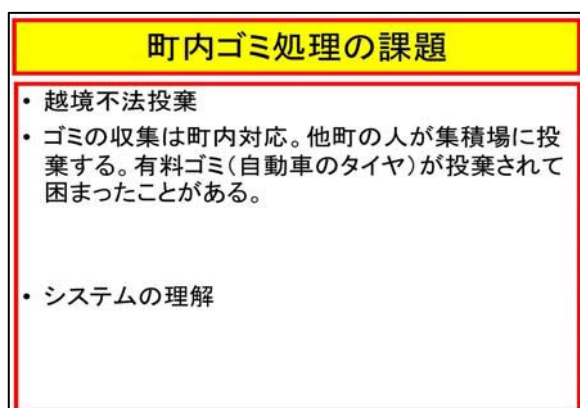
15



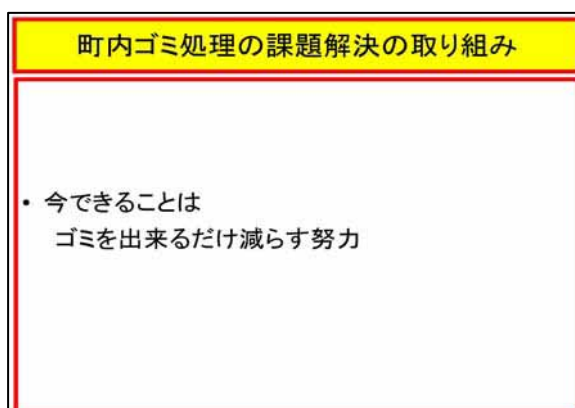
16



17



18



19

ゴミ処理講座 2

20

視察と伝達報告 地道な歩み

平成25年度 第4回東室町自治会文化講座

『亀岡市のゴミ処理場の現状視察報告』

平成26年 2月 15日(土) 13:30~16:00

東室町自治会会議所



～ 視察先の企業から、活動のサポートや相談を受ける機会も増え、その結果は～
～ 聞き取り調査も進んだ。その結果が報告書にまとめられ、その中では～

21

報告は目から鱗！



22

社会問題は記者も関心



23



車座討論 白熱の論議を展開

24



天ぷら油を石鹸に！！

～廃油を資源に～
環境保全の
ささやか取り組み

25



26



27

将来ビジョン1
町内におけるCO₂の定点観測

1. 年々増加しているCO₂の濃度
2. 町内でCO₂濃度の動態観測
3. データーの集積と分析
4. 環境を守る取り組みを考える
5. 他の環境団体との交流
6. CO₂削減の取り組み

28

将来ビジョン2
CO₂の出さない努力と削減の努力

環境をとるか
便利さをとるか ?

29



30

将来ビジョン3
CO₂濃度の低下させる努力

1. CO₂の固定
最も簡単な方法は木に閉じこめる
2. 自然のリサイクルの活用
科学性に基づく根拠を持たない誤った認識と悪法
3. CO₂を閉じこめる生態系の保護
珊瑚、海草等の保護

25

憩いの場の坂部公園



26

ホームページ運営で情報の発信



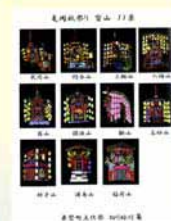
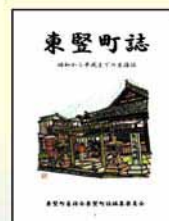
27

努 力 目 標

1. 枯渇資源の消費を減らす
2. 町内のCO2排出量の削減と固定に努力する
3. 環境保全に取り組む

28

ご静聴ありがとうございました



東堅町自治会文化委員会
町づくり部会

看護の力を発揮したまちづくり

～「子ども未来フォーラム大阪～広げようパパの育児休業～」開催を事例に～

パパの育児休業支援センター代表 〇古山陽一

1. 活動方針・目的

当センターは、大阪市阿倍野区を拠点に、男性が同性の専門職から育児について学ぶ機会を保障するという活動方針のもと、地域の看護職の立場から、男性の育児参加を支援することを目的としたNPO団体である。

2. 活動内容

平成25年度より阿倍野区子育て支援連絡会に加盟し、地域の子育て支援団体や社会福祉協議会、区役所の子育て支援課等とも協力して、男性が子育てに参加するまちづくりに取り組んでいる。

3. 他の活動団体の参考となる事例

当センターは、平成25年8月に、阿倍野区社会福祉協議会の協力と教育委員会や行政機関、マスコミ、地元助産師会・看護協会の後援のもと、「子ども未来フォーラム大阪～広げようパパの育児休業～」を開催した。

当該フォーラムの開催にあたっては、地域の子育て支援団体や町会長らからも広報等、様々な面での協力を得、来賓として阿倍野区長にお越しいただく等、まちをあげての取り組みとなった。加えて、翌月に区役所で開催された「阿倍野区まちづくりフォーラム」では、当センター代表がパネリストとして招かれ、上記取り組みについての報告を行うこととなり、子育て世代に限らない地域のより幅広い層に対してもアピールすることができたと考える。また、こうした活動は、新聞・雑誌等のメディアによっても度々取り上げられ、その波及効果により、地域を越えて広く社会に対して発信することができている。

前回は、大阪市男女共同参画センターと共催で行った「パパの子育て講座」を事例として発表したが、地域における子育てネットワークの構築を課題としていた。そこで、今回の発表では、その後の展開について、本事例をもとに、課題を解決するにあたり、工夫した点や失敗した点、そこで得られた教訓等について報告したい。

4. 今後の課題等

看護の力を発揮し、男性が子育てに参加するまちづくりに向けた取り組みを継続・発展させていくための課題としては、次のようなことが挙げられる。すなわち、さらなるネットワークの拡大と企業の協力、学校現場における若い層への教育の機会、大学等研究機関の「知」の活用、ボランティア活動に対する職場の理解と協力等である。

第9回 関西元気な地域づくり発表会

看護の力を発揮したまちづくり
～「子ども未来フォーラム大阪～広げよう
パパの育児休業～」開催を事例に～

平成26年3月1日(土)

パパの育児休業支援センター代表 古山陽一

パパの育児休業支援センターとは

◇当センターは、大阪市阿倍野区を拠点に、地域の看護職の立場から、男性の育児参加を支援することを目的としたNPO団体です。

◇平成25年度より阿倍野区子育て支援連絡会に加盟し、地域の子育て支援団体や社会福祉協議会、区役所の子育て支援課等とも協力して、男性が子育てに参加するまちづくりに取り組んでいます。

設立一周年記念事業

子ども未来フォーラム大阪

広げよう!! パパの 育児休業

パパの育児休業を促進するため、当センターが主催する「パパの育児休業」を開催します。パパの育児休業を促進するため、当センターが主催する「パパの育児休業」を開催します。

2013年8月24日(土) 14:00~16:30 (13:30受付開始)

会場：阿倍野区 若菜 福祉センター(12号館10号)

参加費：無料 (100名 申し込み限(当日受付可))

阿倍野市民学習センター

◇当センター設立一周年記念事業として開催

◇平成25年8月24日(土)

主催：当センター

協力：阿倍野区社会福祉協議会

後援：大阪府看護協会、大阪府助産師会、大阪市教育委員会、大阪市、大阪労働局、大阪府、NHK大阪放送局、ラジオ関西、大阪日日新聞、共同通信社

子ども未来フォーラム大阪



阿倍野区役所や町会の掲示板



産経新聞



近畿地方整備局のメルマガ

●○○ 関西元気な地域づくり通信 ●○○

(1) 広げよう！！イクメンの輪☆☆(8/24(土)14:00～)

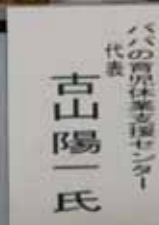
☆チェック☆↓↓

<http://ikujishien.jimdo.com/>

平成24年度第8回関西元気な地域づくり発表会で発表されましたパパの育児休業支援センターが『子ども未来フォーラム大阪』を開催されることとなりましたので、ご案内申し上げます。

大阪日日新聞



[illegible]

(五) 禁止賭博



心(1)集、7卷(1)の附録(2)に、技術職
制(3)の編纂に当たって資料集(4)
(5)が用い

- E

『双葉町応援隊 -KIZUNA-』被災地と心をつなぐ

京丹波町スポーツ少年団本部長 ○奥田 健次
京丹波町教育委員会社会教育課主事 奥田 康平

1.活動方針・目的

- ◆ 友好町双葉町に対して息の長い応援活動に結び付けて行く。
- ・ 仮設住宅の被災者と色々な角度から応援活動、交流を実施する。
- ◆ 双葉町を応援するという目標を掲げ地域一体となって人材育成、青少年健全育成に取り組む。心豊かな子供に育てる。
- ◆ 被災地の現状に合わせた応援活動を現地を訪れ継続的な活動について行政・仮設住宅自治会長と話し合い実行する。

2.活動内容

京丹波町スポーツ少年団が、東日本大震災復興支援ボランティア活動に立ち上がりました。子ども達ができる活動を・・・ということで、須知高校の協力を得、「食の宝庫という地元の良さを活かして、自分達でつくった野菜を被災地へ送り、学校給食等で使ってもらおう。」と平成22年3月にスタートしました。今回で3回目の取り組みとなり子供達も何をすべきか？を理解しリーダーを中心に被災地へ送るメッセージも考えました。関係支援団体と話し合いを持ちながら『双葉町応援隊 -KIZUNA-』プロジェクトを結成し三ノ宮地域のジャガイモ、野路の会の梅干しも一緒に仮設住宅の皆さんに届ける事が出来ました。子供達と地域が一体となった取り組みです。

3.他の活動団体の参考となる事例

食材の宝庫「京丹波町」の良さを生かし子供達と地域住民が一体となった取り組み出来ていると思います。京丹波町と友好町の双葉町を応援する。目標に向かって取り組む。須知高校、教育委員会、社会教育委員、女性の会、野路の会、三ノ宮地域農場作り協議会、京丹波町情報センター（ケーブルテレビ）等の諸団体がー丸となって双葉町を応援活動を実施。活動を通して地域の方々と自然な形で交流することにより人を思いやる心、感謝する心が育まれたと思います。まさに、「地域に包みこまれている感覚」ではないかと思います。このような活動は、子供の活動の場づくりであると共に、大人が結びつき、つながっていく機会としても大切だと感じます。活動の様子を町ケーブルテレビを通して京丹波町の皆さんに伝わり応援の輪が広がればと思っています。

4.今後の課題等

被災地双葉町を応援、被災地の目線に立った取り組みが必要。

自己満足（押し売り）の取り組みではなく相手の立場に立った取り組みをどうするか？

被災地の声を如何にして地域に反映させ実行していくか？その為には、定期的な会合を開催して情報交換が必要だと考えています。支援をしてあげるのでは、共に協力して取り組む（協働）事を考えて行く。例えば、お互いの地域の食文化（農作物）の交流を図る等。

継続した応援活動を続けて行くには、次世代のリーダー育成が必要で有ると考えます。

計画性を持った人材育成の取り組みや活動資金の確保について意見交換が出来ればと思っています。

『双葉町応援隊-KIZUNA-』 被災地と心を一つに

京丹波町スポーツ少年団
奥田 健次



京丹波町スポーツ少年団の活動

- 単位団での活動(ホッケー、野球、バレーボールetc...)
- 京丹波町スポーツ少年団全体での活動

合計 7競技 13団体 約200名

2011年3月11日
東日本大震災



友好町双葉町支援活動～応援活動

友好町「双葉町」との関係

東日本大震災発生以前から交流

- 双葉町⇔京丹波町(旧瑞穂町)
- 1994(平成6)年...旧瑞穂町と双葉町が姉妹町提携締結
- 2006(平成18)年...京丹波町として改めて姉妹町提携締結
- 中学生の子どもたちが交流事業を実施

東日本大震災の影響

- 福島第1原子力発電所の30キロ圏内
→町民全員に避難勧告、避難所生活

友好町双葉町のために

- 自分たちも力になりたい!!
- 何が出来んだろうか？
- 自分たちで出来ることを取り組もう!!

食材の宝庫「京丹波町」

- 自分たちでも栽培できるじゃがいも作り
- 社会教育委員、地域の方々の協力
- 地元須知高校の農場をお借りして栽培開始



『双葉町応援活動』じゃがいも栽培

- 1年目...200キロ収穫
- 2年目...300キロ収穫
- **3年目となった今年
600キロの収穫**
- 収穫したジャガイモで
女性の会、保護者の協
力で「肉じゃが」を作っ
てもらいいただきました。



地域と協力しての応援活動

応援活動三年目の今年度は、地域と協力しての活動

- 「京丹波町スポーツ少年団」のジャガイモ
- 「三ノ宮地域農場作り協議会」のジャガイモ
- 「野蔭の会」の梅干し



双葉町仮設住宅へ届ける。
『双葉町応援隊-KIZUNA-』福島訪問



『双葉町応援隊 - KIZUNA - 』

2013年8月11日～14日「福島県いわき市、郡山市訪問

1. いわき市南台仮設住宅訪問

- ・みんなで袋詰めしたジャガイモをメッセージと共に手渡し
- ・交流事業(折り紙の傘作り)を案内



『双葉町応援隊 - KIZUNA - 』

2. いわき市南台仮設住宅の皆さんと交流

- ・『折り紙の傘』を被災者の方と一緒に作りました。
- ・『お茶会』いろんな話をしました。
- ・『味夢くん(京丹波町食のキャラクター)』も大人気



取り組みの成果とこれからの活動

- ・震災発生直後後、支援物資、義援金を被災地へ届ける。
- ・京丹波町社会教育委員を中心として『秋の恵みを届け隊』結成、京丹波町の町民から提供頂いた食材を届ける。
- ・2013年10月、いわき市南台仮設住宅を京丹波町社会教育委員が訪問、交流事業を実施。
- ・京丹波町と双葉町との絆が強くなる。

《今年の取り組み》

- ・継続事業としてジャガイモ栽培、仮設住宅訪問
- ・被災地での交流(仮設住宅での交流)
- ・双葉町立小中学校の再開⇒交流を模索。
- ・安心、安全な食材を提供
- ・双葉町社会教育委員さんと連携、活動を協働。

みんなで作ろう！防災かまどベンチ

防災かまどベンチ実行委員会 委員長 窪井紀子

1.活動方針・目的

地震や台風などの災害に備え、万が一被害にあった時も、住民の手で「防災かまどベンチ」を使って食事を供給できることにより落ち着きを取り戻し、すぐに生活再建が出来るための減災力を養う。

2.活動内容

地域住民・行政・学校・企業・ボランティアなどが協働して、平群町災害時指定避難所に指定されている公共施設など15箇所に、5カ年計画で製作する。

3.他の活動団体の参考となる事例

◆「防災かまどベンチ」の意義を広く知ってもらうために、広報活動に努めた。

(例) 平群町自主防災連絡協議会総会、平群町総代・自治連合会会議

市民生活協同組合ならコープ総代会など。

- ・全自治会長に通知したことから、自治会単独で製作する事例(2箇所)が生まれた。
- ・平群町にある「ならコープ」の店舗に製作したことにより、県内のその他の店舗にも設置の広がりが見られる。

「防災かまどベンチ」の費用は各種助成金を申請する他、「住民が作る住民のための防災かまどベンチ」として、住民からの募金を期待したが、小額に留まった。額の多少ではなく、自分もレンガ1個分を負担して防災・減災活動に参加したと共感してもらうための仕掛けが必要である。

「防災かまどベンチ」を作る過程で、異なる主体が集まって一つのものを作りあげることにより地域の連帯感が生まれた。その連帯感は安心で安全なまちづくりを自分たちの手で進めようという意欲につながっている。

行政から、町長や職員が製作に参加したことにより、住民や実行委員が災害に強いまちづくりに貢献できる喜びを感じることが出来た。

完成後は炊き出し訓練などに利用することによって地域全体で交流が深まり、自然に防災についての意識が高まることが期待できる。

4.今後の課題等

◆26年度も3箇所の指定避難所に製作していく予定。製作は、その避難所に避難する対象の自治会住民と防災かまどベンチ実行委員が協働して行うが、その仕組みを理解してもらうことが難しい。より効果的な方法を模索していきたい。

◆自治会長の防災意識の程度によって、自治会内への周知が左右されると思われるので、粘り強く自治会長に理解と協力をお願いしていく。(1年交代が多いため)

◆長期に渡る活動なので、モチベーションを維持し、後継者を育て、防災・減災の意識を次世代につなげていく工夫が必要である。

ブログ「みんなでつくろう！防災かまどベンチ」

<http://aoniyoshi2009.blog63.fc2.com/>



防災かまどベンチとは

- ・ レンガ囲いの土台の上に
木製の座板を乗せたもの
- ・ 通常はベンチとして利用
- ・ 災害時には「かまど」として
炊き出しなどに利用する

(1基で100人前の炊き出し可能)



設置の目的

地震や台風などの災害に備え、大切な命を守り
できるだけ被害を減らし、万が一被害にあった
時にすぐに立ち直る力を養うことを目的とする。

(内閣府発行の情報誌「ぼうさい」より)

自助・共助を目に見える形にして、防災意識の
向上を図る。

取り組むきっかけ

①「協働と参画のプラットフォーム通信」56号(H24年4月 神戸市発行の情報誌)の「防災かまどベンチ」の記事に共感

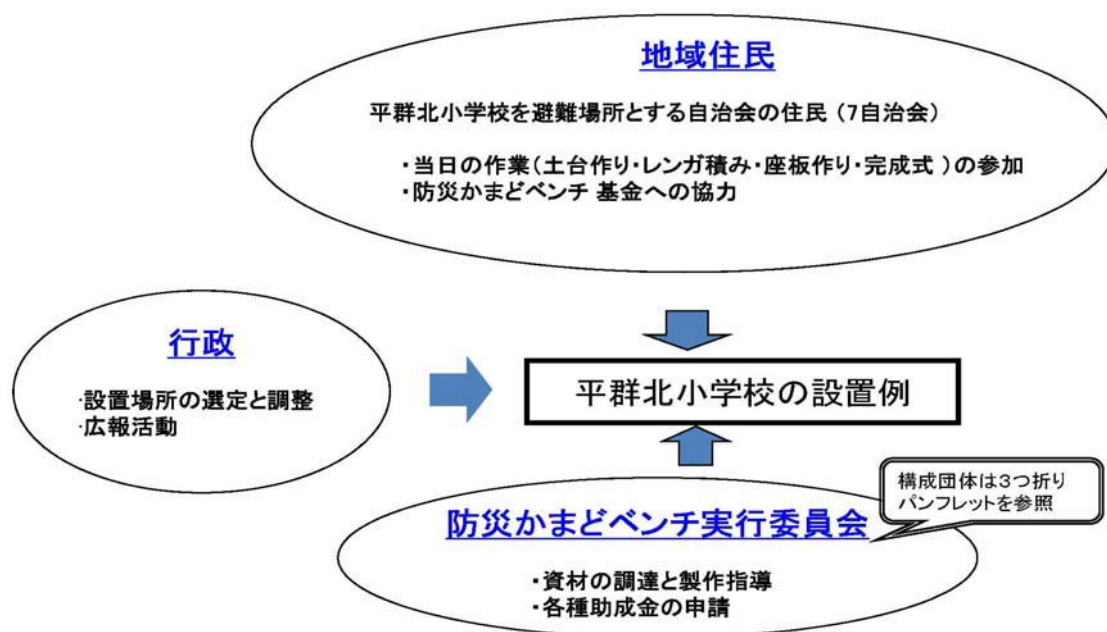
② (実行委員長の体験より)福島県南相馬市の被災者の方から、被災後、電気やガスが無い状況の中で、庭に穴を掘りブロックを立てて火をおこし、ご飯やおかずを作った話を聞いた



- ・ 災害時の炊出しには「かまど」が役に立つと確信！
- ・ 平成25年 防災かまどベンチ実行委員会を立ち上げ

実行委員会の協働のしくみ

・地域住民・行政・学校・ボランティアなどの協働で取り組む

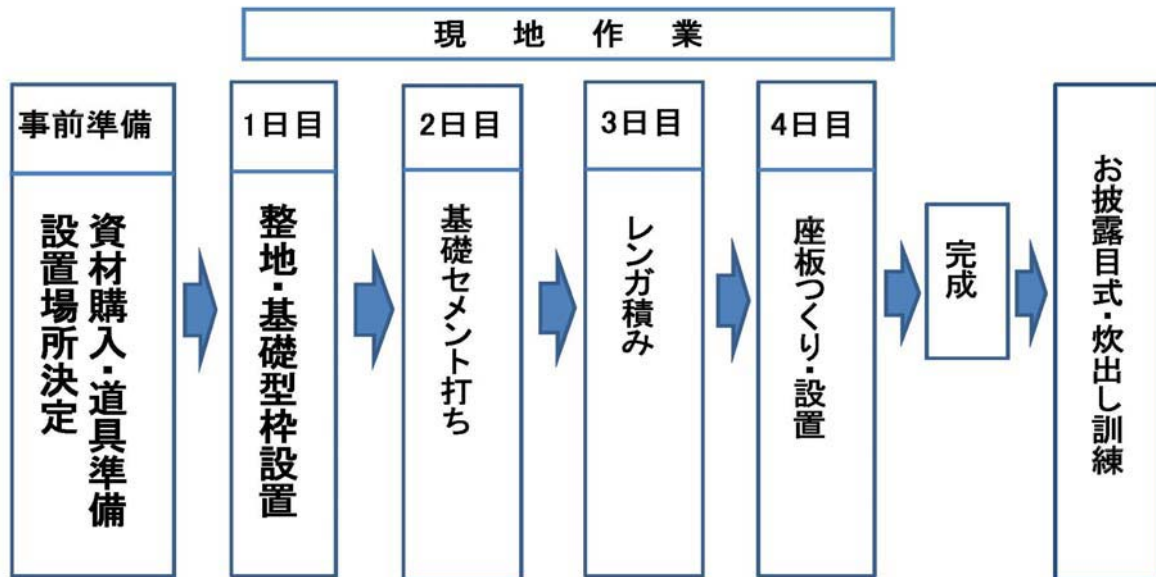


実施計画について

- ・ 設置場所は平群町が指定する「災害時指定避難所」15箇所など。（3つ折りパンフレットを参照）
- ・ 製作は地域住民・行政・各種団体・学校・企業などが協働で取り組む。
- ・ 資材費は1基約35,000円（平群北小学校製作実績費）
- ・ 制作費用の調達（資材・作業用の道具など）
 - ・ 民間の助成金を申請 ・「防災かまどベンチ 基金」の設置

防災かまどベンチ製作工程

半日・4日作業



期待できる効果

- 被災者自身の手で大量の食事を供給できることにより精神的な安定が得られ、復旧への意欲につながる。
- 平常時の防災訓練に活用することにより、地域全体で交流が深まり、防災についての意識向上に役立つ。
- 協働することにより、行政だけでは解決できない課題を住民も共有して、一緒に安全安心なまちづくりが出来る。

新聞報道



他の町から見学や問い合わせ。平群町内の2自治会が単独で製作する例につながった

- ・製作希望の団体には製作一式の情報提供と指導者の派遣を行って、各地に広めたい。
- ・平成26年度も、3ヶ所の「平群町災害時指定避難所」に製作予定。



ならコープの店舗「ディアーズコープたつたがわ」の完成お披露目式にて、みんないい笑顔！

看護の力を発揮したまちづくり～
「子ども未来フォーラム大阪～広げようパ
パの育児休業～」開催を事例に～

パパの育児休業支援センター

Q: なぜ、若い子育て世代がこういう地域での活動をしているのか。

A: 我々看護職は、パパの育児休業は特別なことじゃないと考えている。たとえば産後の女性は想像以上に心身ともに疲労しているので、パートナーの強力なサポートが必要である。このようなことを社会に訴えたい。看護の立場の者の声は情報発信不足もあり、社会に浸透していない。病院の中だけではなく、地域に出て行ってこの看護の声を届けたいというのが理由だ。

A: 給料は出るのか。

Q: マスコミでは精度が不十分などと、すごく誤解がある。例えば自分は大体給料が30万ぐらいだが、額面の半分、手取りの大体6割に相当する金額の8万の給付金がある。それに加えて、児童手当が1万5,000円もらえるので19万5,000円ぐらいになる。ここから税金や社会保険料を引かると確かに苦しいけれど、これらも一切免除されるので、手取りで20万弱ぐらいの給付金が担保されている。これを額面換算すればおよそ25万から27万円ぐらいの月収に相当する。海外旅行やぜいたくはできないかもしれないが、暮らすにはまずまずいけるんじゃないかと思う。

Q: 休んでいるときに仕事をしない不安はなかったか。

A: 自分が看護職だからかもしれないが、部署異動だというふうに思っている。そんなに大きなことではないという気がする。

Q: 活動は横に広がっていますか。

A: やはり地域とのつながりがポイントだ。いろんな機関が後援・応援してくださるが、そもそも最初は社協が応援してくれた。社協のホームページで、地域でボランティアをしている人を応援するという情報があり、そこにたまたまたどり着いて訪ねていったことからはじまった。しかし、一般の僕らぐらいの世代の会社員が地域で活動したいと思ってもどこに相談に行けばよいのかわりにくいという現実があると思う。

A: 育児休業をとるパパさんは増えたというのは、具体的な成果だ。しかし、育児休業を主体的にとる男性がふえたといっても、勤務先は大学病院で、いわば親方日の丸だ。しかし、中小企業や個人商店では育児休業なんてもってのほかという雰囲気がある。中小企業や個人商店などではどう広がってきているのか。

A: 実は自分自身も簡単に育休はとりなかった。推進してるはずの看護職、看護の世界でさえもこれが現状だとすれば、一般企業のサラリーマンが周囲の理解を得て育休をとるのはもっと大変だろうと思った。そこを変えていかなければいけないと思い、こういう活動を始めるようになった。

例えば給料はどうなるのかという具体的な資料を提示して説明する必要もある。誤解によって手控えてる人は「それならそうと思います」という反応が返ってくる。

育児休業は法令上保障されているが現在の管理職世代にはなじみが少ないし、そのような保障制度も知らない人がいる。さらに、それを拒んだり期限制限すれば企業名が公表されるなどの罰則があることを知っている人はもっと少ない。そのあたりの認識をまず持っていただく必要がある。要は、子育て支援というテーマでありながら企業雇用問題でもあると我々は認識している。

「双葉町応援隊－KIZUNA－」被災地と心を一つに

京丹波町スポーツ少年団

- Q: スポーツ少年団は人員的にどれぐらいの規模か。
- A: 13団体だ。各団体の人数は10名から20名前後で、おもにホッケー、野球、競技スポーツを通しての活動だ。
- Q: 教育の面でどうなのか。また、地域の支援を受ける双葉町の方々がみずから立ち上がろうとするのはまさに教育とかかわるがどう感じているのか。
- A: 正直言うと、当初大人が方向性をつくり、その後子どもたちにやろうかとスタートしたが、2年、3年経ち、物資を送ったり被災地を訪問するなどすることに対して、子どもたち自身が喜びを感じている。人に対してやさしさを持つことが如実にあらわれているし、各団の中で高学年が低学年にしっかり教え、低学年の面倒を高学年が見る——ということがこの交流支援活動を通してつくり上げられたと思っている。
- このような支援や応援活動は、言葉は悪いが、押しつけという意味合いが発生してしまう。受けた方はやはり重荷に感じられる。そこで、双葉町の社会教育委員と連携して、彼らのやりたいこと望むことに対して、我々がどう応援できるのかという点から、今後かつ集うメニューを考えたいと思っている。



みんなで作ろう！防災かまどベンチ

防災かまどベンチ実行委員会

- Q: 我々でもつくられるか。
- A: 大丈夫、子どもでもつくられる。設計書もある。誰でもれんが積みができる道具を2つそろえている。左官屋さんなら糸を張ってやるが、そうしなくてもモルタルを一定の高さにきれいに積んでいくものもそろえている。
- Q: 防災かまどベンチだけか。5年経てば5年で終わるのであれば、今のかまどベンチ実行委員会がそれで終わりということだが、もったいない気がする。
- A: 管理は平群町で、協働でやっている。平群町の15の避難所を利用する自治会の方々に集ってもらう。自主防災組織の訓練に利用してもらったり、コミュニティの会合の場にさせていただく、井戸端会議の場にもしていただくということで、どんどん使ってくださいとしている。また、昨年度は避難所だけでなく、他の自治会で自主的につくった。自治会の要望があれば実行委員会からノウハウや人も資料も全部お届けするという形で、まちづくりの一つとしてやっている。
- Q: 防災かまどベンチ以外の事業をどう発展させていくのか。
- A: 1つは、主力部隊でもある、平群町のボランティア連絡協議会が毎年1月に竹あかりの集いをし、「防災」をキーワードにイベントをやっている。子どもたちを主人公にして災害のときにいかに避難すればよいか、非常袋に何を入れるのか、などの活動もあるし、災害非常訓練を実施することもある。
- とくに効果があったのは、日ごろ話することが減多にない行政と町民が、その機会にお互いに交流し、危ない箇所がわかるようになることだ。一つ一つの場で絆や輪を広げていく活動を進めている。

小さな自治体・東堅町のまちづくり
～地域社会のゴミ処理・現在社会の避けて通れぬ課題の1つ～

東堅町自治会文化委員会・
まちづくり部会

Q: 油でつくる石けんは今後はどういう形で広げるのか。

A: 自分が勝手にやっているだけ。つくるには劇薬の苛性ソーダが必要だが、とても危険なので薬局も売ってないところが多い。だから、業者に販売するか、我々のような理工系の人間がやろうということで進めている。後で配る手を洗うには大丈夫だが、顔は洗わないように。余り泡は出ない。

Q: NPOとの連携はどういうきっかけでやるようになったのか。

A: 我々はホームページを使っている。植林はボルネオなど海外でもやっている。これに限らず青年海外協力隊、植林青年隊などに参加したりする。町内に関係者がいるのでつき合いが広がり、CO2SOSとも連携している。要するに人のつながりだ。



郊外住宅地のボランティアまちづくり－
みんなの笑顔求めて－

星田山手ボランティア・街づくり推進会

Q: 課題は人集めだが、その前に人を選択するということだが、どういうふうにするのか。また、なかなか人がいないときにどうやって見つけるのか、あるいは育成するのか。

A: 1つは、とにかくイベントを連続して行うこと。そうすると人が集まってくる。例えば盆踊りをやるにあたって電気工事が必要になる。業者に頼まずやろうということになると、電気を配線する人を探してくる。この前、台風の時テントが飛び、支柱が折れたときも「わし、溶接やったことがあるから、溶接できれいに直そう」とか。

いろんなところで、行事、イベントをどんどんやればやるだけ、やれそうな人が集まってくる。次も何かやってくれないかと頼めば喜んでやってくれる。そうして今、私どもは102名の人ボランティアが集まってくれている。

Q: 星山は全部で何世帯あるんですか。

A: 2自治会があって、700世帯ほどあります。

とにかく明るくやることと、私を支えてくれている副部長や次長、メンバーとの連携が大切だ。ですね。自治会などでは異論を唱える人もいるが、この中ではそういった人も受け入れながら前へとにかくいける人間を集める。何かしようと思ったら、すぐにみんな一緒にやっていく、そういう人の集団にしていくことが大切だ。

また、公の行事をしていくことによって市長に来てもらえば、我々が偏見を持った集団でないことをよく理解してもらえる。子どもも大切で、子ども対象のことを行うと親が来る。そしておじいちゃん、おばあちゃんも来ると、新しい交流が広がる。

箱の浦まちづくり協議会の活動報告

箱の浦自治会まちづくり協議会

Q: 星田山手も空き家が40軒強あり、その活用方法に悩んでいる。そのようなサロンに活用するという話はあったが、リフォームするなどお金がかかる。どういうやり方をされたか。

A: 家賃は固定資産税プラス若干の費用としている。泣きの涙で届けをし、最後は私どもの活動も理解いただき、固定資産税プラス月5,000円と水道光熱費とした。我々は全部自前で賃貸をして運営している。

売り上げはサロンが年間五十数万円
お助け隊も三十数万円ある。

A: 草刈りは幾らか。

Q: シルバーボランティアよりも割安に実施している。

A: 活動に対しての行政の補助などを教えてほしい。

Q: 我々のような活動は本来、行政や社会福祉協議会が取り組むのが通常だと思っているのでも、自分が今兼務している自治会長として行政や社協にもぶつけたが、全然反応がない。

年末に朝市活動に対して大阪商工会議所から大賞をいただいた。これが市の広報に載り、他地域でもやりたいという申し出が来ている。前へ一歩進めていくのが大切なのに、私どもの市は遅れていて、行政が我々の活動の後追いをしている状態だ。共済のしおりも、我々の自治会と協議会で合作でやった。これを見た市長が非常にびっくりし、担当幹部に何らかの形で支援するよう指示した。我々は阪南市の一つの起爆剤になればよいという意識で取り組んでいる。



第3部

全体交流会

田端：最初に分科会毎あった発表を、座長から簡単に説明いただく。その後テーマ絞って議論をしていきたい。

森重：観光交流分科会だったが「交流」のイメージが強かった。地域資源やコミュニティの内容も多々あった。演劇も交えながら非常に興味深い分科会となった。

1つ目の木津川アートプロジェクトでは市町村合併を機に、アートを使って地域の一体感をどう高めていくか、市や観光協会、プロデューサーが一体となり、アートで地域おこしをしようという発表だった。

2つ目の新今宮地区での観光まちづくりでは、従来のアイリーン地区だけではなく、道頓堀や通天閣・阿倍野を含む新今宮地区で感動まちづくりを進める。新今宮を外国人観光客の拠点にしていくと同時に、色々な地区を結びつけていくためにどういう風な取り組みをすればいいかという発表だった。

森重：3つ目の京丹波町の取り組みは、就労支援をしながら地域の産品、仕事をどう作っていくかを発表。実際に畑を借りて生産、作ったものを販売していく中で、独自産業化をどのように進めていくか報告があった。

4つ目の鶴見商業高校の発表は、非常に面白いものだった。地域の中でプロジェクトチームをつくり、パンやせんべいを販売。地域の人と連携しながら、商品企画や販売実習をすることで、地域活性化に取り組んでいるという発表。

5つ目のA-yan!!は昨年度も発表頂いたが、ゆくゆくはシルクドソレイユを目指し、最強お化け屋敷の展開についての発表だった。

地域の資源や人を使って、価値をどのように作っていくか、高めていかかが共通事項として上がった。その時に「交流」がキーワードとなっている

スマイル賞は「大阪市立鶴見商業高校」が受賞。



横山：地域資源活用部門では色々な方面からの発表があったが、それぞれがつながりそうな予感がする発表会だった。今後の行く末が面白く思えた。

1つ目は京都駅周辺地域のまちづくり活動では、モンゴルからの留学生が流暢な日本語で発表してくれた京都駅北側の東本願寺と西本願寺がある地区で、まちづくりをしっかりと、新しい京都の魅力を発信する取り組みについて発表した。発表者が外国人だったこともあり、日本独自のゆるきやら文化に驚いていた。学生・留学生の視点が入り、本当のグローバルな京都観光がつくりだせる匂いがした。

2つ目は水軒堤防の再生と市民の公園の実現ということで、水軒浜は和歌山県の

南西にある。昔は海水浴場で、松が植えられとても綺麗な景色がある場所だった。

しかし、海水浴場が埋め立てられると景色が一変した。その時松並木の利用がほったらかしになった。松並木の再生だけでなく、みんなが利用できる公園にしようと

活動が始まった。清掃活動だけでなく、健康遊具やドックランの設置も行った。県

や市へも協力依頼し、積極的な取り組みを行っている。

3つ目は、阪南大学の学生による発表。外国人の簡易宿舎が増えたことと、東日本大震災で福島から避難してきた方との取り組みを行っている。避難者の把握や子どもたちを喜ばせることなど、地域を駆け巡って情報を集めた。これからどんどん、進化・深化・真価を常に問い続けて、新今宮を中心とした観光開発をしていきたいという力強い言葉で締めくくられた。

横山：4つ目は、山添村での耕作放棄地の資源を活用したむらづくりという発表。山添村は大和茶の生産地。茶の木が放置されている土地もあり、それを使って何かできないかという取り組みをしている。代表的なものとして、お茶の木を炭にするということ。炭づくり体験プログラムの企画をしたり、山菜とりをしてみんなでその炭を使ってバーベキューするなどしている。また、村の名産づくりの一貫として、さつまいもを育てるなどしてみたが、草が生い茂っていたこともあり、あまり収穫数が上がらなかった。そこで、羊の除草隊を結成した。他の地域にも出張するなどエコな除草活動を行っている。その他、茶の実から油を抽出するなどお茶の木の活用に取り組む。

5つ目は、東堅町のまちづくり、伝統文化の継承と発展 猿楽能と町衆という発表

以前にも発表して頂いた際、非常に美しかった切り絵の細工も見せていただけた。猿楽についての研究をまちぐるみで行っている。また制作している町会誌が色々な人々をつなぎ、しっかりと文化を掘り起こすネットワークの役割を果たしていることが印象的だった。猿楽の質疑応答時、城東区で猿楽について掘り下げている方がいた。この場所で、つながりができ連携していけると面白い。次の道筋が見えるような発表だった。スマイル賞は「里楽」が受賞。



田端：内容としては、コミュニティを守っていくことはまちづくりそのものなんだなあと非常に小さい単位で取り組んでいる活動が多い。

1つ目は、星田山手ボランティア・街づくり推進会の発表。自治会の機能が低下する中で、ボランティアがその役割を担って、活動を支えているという内容。お祭り等イベントや川の整備（掃除や桜の植樹）を進め、行政頼みではなく自分たちで活動資金を集めていこうと取り組んでいる。

2つ目は、箱の浦自治会まちづくり協議会の発表。この場所はオールドニッポンと言われている地域で、高齢化率33%。そこで高齢者の方に居場所を作ろうと、公的な施設の中にサロンを作った。しかし集まりが悪かったため、民間の住宅を何とか借り、集まりやすい環境で行った。週3回開かれる会に毎回40名ほどの方が参加されるようになった。お金の心配もあったが、趣旨に賛同していただく方のご協力で集まるようになった。特徴は、コミュニティソーシャルワーカーが活動を支えている点。

3つ目は東堅町自治会による発表。小さな自治体ではあるが、活動内容はしっかりしている。ゴミやCO2などの環境問題に注目した取り組みについて報告した。ゴミの分別など簡単にできるが自主的にやるためには意識を変えることが必要。啓発活動を積極的に行ったり、廃油を使った石鹸づくりなどを行っている。環境専門のNPOと連携し、CO2排出量の計測などを行っている。

4つ目はパパの育児休業支援センターによる発表。昨年度も発表した団体。今年は「こども未来フォーラム」の内容について報告した。1つの団体だけで社会・地域を変えていく（ソーシャルチェンジ）のは難しいことを強調。

田端：地域看護や在宅介護など地域単位で行うものに、地域と介護を必要とする人をつなぐコミュニティソーシャルワーカーは重要。看護・介護も地域の力を活用しながら、社会を変えていきたいという想いで活動している。

5つ目は京丹波町スポーツ少年団の発表。この少年団は友好町の双葉町支援を行っている。活動内容はじゃがいもづくりなどを地域の人と一緒に実施。力づけられる側の地域のためだけでなく、力づける側の地域にも、人材育成や地域や防災への興味関心を高めるなど貢献している。

6つ目は防災かまどベンチ実行委員会の発表。防災かまどベンチとは日常はベンチとして使い、有事の際はかまどとして使用できるもの。神戸や東北でも実際に使われており、地域で何かあっても大丈夫ないように設置を計画。7つの自治体が協力し、1機35,000円ほどする防災かまどを設置。今後も定期的に増やしていく予定。小さな地域の小さな取り組みが積み重なって、いずれ大きなムーブメントになる。将来を見据えながら進められればと思う。スマイル賞は「箱の浦自治会まちづくり協議会」が受賞。



田端:この報告会も数回開催してきたが、何度か顔を合わせた方が再度きてくれている。それぞれに発展・進化しており、継続は力なりと思い聞いていた。

3つの分科会に分けたが、その中間にあたるテーマ、キーワードがある。これまで以上に地域づくり・まちづくりが多様化している。

地域をキーワードにして、経済・防災福祉が分けられないくらい絡み合っている存在している。そこに共通するのは「人」。住んでいる人達の想いが重要。

大南:星田山手の活動の中で、アドプtribーの報告があり感慨深い。1998年に神山で初めてアドプトをやりはじめた時に、大阪府はとても熱心で、2年後にはきちんとしたプログラムになっていた。そうした中で、星田山手の活動の核としてアドプトがあることが嬉しい。

東京R不動産は、物件案内時に暮らし方を案内している先進的な不動産屋。そのプレス担当者が、「人は物事を判断する時に、直感的に判断している。人が楽しそうにしていたり、人が集まっているだけで、その地域の価値はあがる」と言っていた。今日の発表でも発表者が楽しそうにしているのが印象的だった。そのことが、地域づくりのスタートとなる。

新今宮の発表の中で、人(大阪のおばちゃん)が一番面白いという発表があった。各所に道の駅があるが、人の情報が得られる「人の駅」が地域には必要。そういう地域は濃い情報が提供でき、思い出にのこる場所となる。いきなり社会を変えるのは難しい。小さなことを繰り返すことで少しずつ変化する。軽いフットワークでやってみることが重要。

田端:広報や連携、活動の継続、資金、人材育成など共通の悩みがある。人の育成について何か議論はありましたか。

森重:具体的にはなかったが、フットワーク軽くとにかく動くということは、それぞれの活動に共通してあった。地域が動くことで、活動に参加することが楽しい、何か起こることが面白いなど、笑顔がうまれる。また継続には資金が必要だが、まず楽しもう、まず何かを起こそう、とにかく笑顔を作ろうということには、大きな活動資金がなくても継続していけると思う。そのために最初の一步が踏み出せる地域の素地、寛容性をつくることが重要と思う。



横山:この場に人を育てている人と、育てられている人がいる。せっくなので、育てられている人に話を聞いてみる。

会場:高校3年生の時にはじめて新今宮に降り立った時、思っていた場所と違った。そして今、新今宮で外国人の方を案内していると、町や人の流れが変わってきたことをすごく感じる。松村先生のもとでまちづくりや観光のことを学び、これから自分がどのように地域や大阪を変えていけるかをよく考える。今日は限界集落の地域が活性化していく事例を教えてもらえたので、これからも自身の関わり方を考えていきたい。

会場:学生も地域が変わることが楽しい。こういう場に参加して発表することで評価をいただける。そのことが次への励みになる。また学生が循環する仕組みがあるので、地域がどんどん変わっていきける。就職後も自分が置かれた状況の中で、どういう風にしたらいいい方向に変わるかを考え行動してってもらえれば、嬉しい。教育者として幸せ。

横山:地域づくりにおいて人に触れることは必須。人に触れることを積極的に行っていることが、これからの社会にとっていい影響が出る。

会場:教室での授業は思い出に残りにくい、TICに立って外国人の対応をした記憶は全部のこる。記憶と経験が積み重なるのがとても良い。

会場:2006年に日本に来て、色々な活動に参加していく中で、外国人から見ると、京都は観光地。PRには清水寺など決まってもものが使われている。しかし、伝えきれていない魅力がたくさんあることを知った。今回発表する機会をいただいて、人生においてとても勉強になった。

田端:社会を変えていくにあたって、若い人たちをどうコミットするのか、増やしていくことの重要性は問われる。少年団の事例では、少年達が被災地に行くことで、社会と関わる重要性を知る。こういった人材育成の要素を作っていくことが必要。

会場:若い人を呼ぼうと思うと、こどもをターゲットにすること。同時に新しい人を発見する場をつくること。この2つが人材育成には必要と思う。

田端:1歩踏み出す機会をふやすこと、若い人をどう巻き込むかを考えること、それが社会・地域を変えていく原動力につながる。



添付資料
発表団体応募チラシ
聴講者募集チラシ

自治体等からの施策紹介パネル
発表者募集ポスター
聴講者募集ポスター

京都地域力ビジネス ＝京都式ソーシャル・ビジネス

「京都地域力ビジネス＝京都式ソーシャル・ビジネス」とは、自分たちで仕事や雇用を生み出しながら、地域の課題を解決し、自分たちの手で継続的なまちづくりをする取り組みです。

まちづくり

+

ビジネス的手法

=

京都地域力
ビジネス



京都ちーびず

京都地域力ビジネス活動をしている方々をよりサポートできるように考えられた、「京都地域力ビジネス」の愛称です。

京都府



京都ちーびず マルシェ



京都ちーびず製品やサービスの共同販売
みんなでわいわい楽しく応援！



ちいきのちいさなわくわくをみつける「コミュニティーズム」
ちょーっと楽しいちいきのちいさなたび。

ちーたび



地元の魅力や生活文化を
地元ガイドと交流しながら体感！



京都ちーびず 女子の イチオシカフェ



女性つながる
元気つながる
地域ひろがる

「京都ちーびずマルシェ」「京都ちーたび(まちあるき)」「京都ちーびず女子のイチオシカフェ」とは、民間と京都府により「京都ちーびず」を行う団体・事業者を応援する協働事業です。

ピコ水力発
電でエネル
ギーの地産
地消



地元ガイドで
まちあるき



うれしい、たのしい、あたらしい

京都ちーびず ロコミニ応援隊

京都ちーびず製品やサービスの購入・イベントへ参加して
ロコミニを広げて応援しましょう！



だっこひも
教室で子育
て支援



長屋再生
&
長屋カフェで
起業家応援



箱入りおや
き販売で放
置竹林減少



京都府ソーシャル・ビジネスセンター

ビジネス的手法により、持続的に地域課題を解決する「京都地域力ビジネス＝京都式ソーシャル・ビジネス」を応援します

① 人材の育成

- ・地域力ビジネスの担い手やリーダーを育成



② 運営面の支援

- ・多様な応援ネットワークを構築し、専門家派遣によるサポート、
応援カフェ・現地交流会などを開催して普及啓発やコラボを推進

③ 資金面の支援

- ・地域力再生プロジェクト支援事業交付金
- ・きょうと元気な地域づくり応援ファンド支援事業助成金等

④ 応援プラットフォームにより民間と府が協働して 市場・ファン・ネットワークづくりを応援



京都府ソーシャル・ビジネスセンター

京都府京都市上京区下立売通新町西入 府庁旧本館

NPOパートナーシップセンター内

TEL:075-414-4865 FAX:075-414-4230 keieishien@pref.kyoto.lg.jp

京都府

京都地域カピビジネス 取組紹介



肌で感じる「私と赤ちゃんにいい製品」
＜特定非営利活動法人 子育てを楽しむ会＞

宇治地域の赤ちゃんとお母さんが幸せになる子育て支援を目指す。子育て中のお母さんや妊婦スタッフと一緒に、だっこひも等の開発・販売を通じて子育て相談のきっかけづくりも



京都地域カピビジネス 取組紹介



チャレンジ！"日本一小さな百貨店"
＜チャレンジつねよし百貨店実行委員会＞



京都府北部、京丹後市で、暮らしを支える地域百貨店を目指して地域の人と共にチャレンジ。地域の農・食・伝統・暮らしの維持につながる活動を実施中

京都府

京都地域力ビジネス 取組紹介

3

美山から発信する温故知新の
資源循環型里山暮らし
＜特定非営利活動法人 美山里山舎＞

自然豊かな美山で、
「伝統建築」「木質バイオマス」
「ピコ水力発電」の
3本柱を軸に
カフェやワークショップで
地域資源を活用した
これからの社会を提案



京都地域力ビジネス 取組紹介

4

「加茂女(かもめ)の筍お焼き」で環境保全
＜特定非営利活動法人 加茂女＞

木津川市加茂で
不法投棄につながる
荒廃竹林整備に取り組む
女性たちが、
「竹を食べて減らそう」
と開発・販売。
環境保全と特産品
づくりで活動を継続できる
働き方を提案中



京都府

京都地域カビジネス 取組紹介



丹後の女子力発信基地「nagaya cafe 桜山」
＜宮津町家再生ネットワーク＞



宮津市で築100年を超える長屋を改修した女子たちの丹後のアンテナショップ・カフェ。丹後素材のメニューで、ランチ、スイーツ、ほろ酔いミーティング等で、地域内外のコラボを生み出す、楽しく熱いつながりの場となっている

京都地域カビジネス 取組紹介



京都府域で食物アレルギーへの周知と支援
＜特定非営利活動法人 アレルギーネットワーク京都
びいちゃんねっと＞



京都市内の町家で、企業とのコラボでアレルギー対応食品の試食や相談ができる「サポートデスク」をオープン。食物アレルギーの子どもとその家族が「ほっ」とできる場所でメンタルサポート

京都府

京都府地域力再生プロジェクト支援事業交付金

平成25年度の制度概要

地域に暮らす皆さんが協働して自主的に、暮らしやすく魅力的な地域にしようと取り組まれる「地域力再生活動」を京都府と市町村が連携して応援しています。



募集期間

第1回 4月1日（月）～5月31日（金）

第2回 9月2日（月）～9月30日（月）

※ 来年度も募集を行う予定です。

対象団体

地域住民が主体的に参画し、地域力再生に取り組む団体
（法人格の有無は問いません。）

※ 営利を主とする団体や特定の政治・思想・暴力団等に関わる団体は対象外

申請方法

所定の申請書により、事業を実施する地域の市町村に郵送又は持参により提出。（京都市域の場合は、府民力推進課に直接、提出）

問合せ先

京都府 府民生活部 府民力推進課（地域力再生担当）
（電話）075-414-4452（FAX）075-414-4230
京都府山城広域振興局企画総務部企画振興室
（電話）0774-21-2049（FAX）0774-22-8865
京都府南丹広域振興局企画総務部企画振興室
（電話）0771-24-8430（FAX）0771-24-4683
京都府中丹広域振興局企画総務部企画振興室
（電話）0773-62-2031（FAX）0773-63-8495
京都府丹後広域振興局企画総務部企画振興室
（電話）0772-62-4300（FAX）0772-62-5894
京都府ソーシャル・ビジネスセンター（ソーシャル・ビジネスプログラム）
（電話）075-414-4865（FAX）075-414-4230

ふるさと京都に
わく夢わく知恵わく元気



京都府地域力再生活動

京都府

● 一般プログラム

地域に暮らす皆さんが協力して自主的に、暮らしやすく魅力的な地域にしようと取り組まれる多様な地域再生活動の立ち上げ等を支援します。
(1年目を支援、1事業1回限り)

● 公共プログラム

一般プログラムで支援した事業のうち、地域や地域住民に直接寄与する公共性の高い活動で収益を得にくい事業については、継続して支援します。
(2年目以降を支援)

区 分	内 容	交付率(上限額)	
		京都府	市町村 (町村振興協会)
Ⅰ 単 独 型	地域住民が協力し合い、地域づくりを進める活動	1/3 (100万円)	1/3 (100万円)
	共助型福祉などの分野で対象事業費が30万円以下の活動の場合、 京都府の交付率を加算【一般プログラムの特例(1回限り)】	2/3 (20万円)	1/3 (10万円)
Ⅱ 協働型	多様な主体の協働・連携により取り組まれる地域力再生活動	1/3 ※①・② (200万円) ※③ (330万円)	1/3 ※①・② (200万円) ※③ (330万円)
	① 広域課題解決型 京都府と地域力再生プラットフォームで立案した事業に取り組む活動 ② 複合課題解決型 地域課題と目的活動が協働で複合課題解決に取り組む活動 ③ 公共空間活用型 行政が管理する施設、河川等の公共空間を活用・管理して取り組む活動 ※ 協働型事業の形成費(20万円以内)は京都府が全額交付(1回限り)		

※ ①、活動の充実につながる取組を支援(事業費:30万円以内) 交付率:京都府 1/3、市町村振興協会 1/3

● ソーシャル・ビジネスプログラム

地域の課題解決に向けてビジネス的な手法を用いて取り組まれる地域力再生事業活動(京都地域力ビジネス)

※ 地域の中小企業者と連携する活動については上限額が変わります。

交付率(上限額)	
京都府	市町村 (町村振興協会)
1/3 (100万円) ※ 中小企業連携 (150万円)	1/3 (100万円) ※ 中小企業連携 (150万円)

(※) (公)京都府市町村振興協会は、府内の市町村(京都市を除く。)の健全な発展のため、様々な事業を行っている団体です。

注意 平成26年度の募集内容は、京都府や市町村のHP、窓口などでお知らせする予定です。

大阪大学豊中キャンパス内での 竹林を拠点とした共生活動 （竹の会コラボ）

奨励賞

「竹の会」は、大阪大学豊中キャンパス内にあり、学生と地域住民が共同で活動する団体です。竹林を拠点として、様々な共生活動を行っています。この活動は、地域の活性化と環境保全に貢献しています。

奨励賞

箕面森町 みどりの里山づくり

奨励賞

「みどりの里山づくり」は、箕面森町で行われている活動です。地域の活性化と環境保全に貢献しています。この活動は、地域の活性化と環境保全に貢献しています。

ボランティアによる公園内の花だんの手入れ （豊川公園はなかずき）

みどりのまちづくり賞

— 大阪ランドスケープ賞 —

【主催】大阪府

財団法人 花と緑の博覧会記念協会

一般社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部

賞の主旨

大阪府では、「美しく季節感のあるみどりの中で人と人、人と自然のつながりが生まれ、さわやかな風を感じる快適なまち」「みどりの風を感じる大都市・大阪」の実現を目指しています。

この賞は、「まちが美しくなるみどりづくり」「まちが笑顔になるみどりづくり」に取り組まれた方々を表彰し、大阪のみどりのまちづくりがいつそう広がっていくよう推進するものです。

対象

大阪府内における、みどりの景観づくり及び活動を募集します。府民、団体、企業、公共、あらゆる方面からの募集を対象としています。

応募部門

■ランドスケープマネジメント部門

— まちが笑顔になるみどりづくり —

■ランドスケープデザイン部門

— まちが美しくなるみどりづくり —

審査方法

主催者がみどりのまちづくり賞審査委員会を設置し、学識者を中心とした審査委員による書類審査、現地審査ならびに審査会を実施し、選考を行っています。

審査委員長：	増田 昇	(大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 教授)
審査委員：	轟名 光市	(大阪市立大学大学院工学研究科都市系専攻 准教授)
	富内 匡	(株)庭樹園 代表取締役)
	弘本 由香里	(大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所 特任研究員)
	福原 成雄	(大阪芸術大学環境デザイン学科 教授)
	二見 恵美子	(京都光華女子大学 客員教授、ランドスケープアーキテクト)

募集から表彰までの流れ

①パンフレットによる募集



②審査委員による書類選考と現地審査及び審査会



受賞作品決定と表彰式



ランドスケープマネジメント部門
大坂府知事賞

ランドスケープデザイン部門
大阪府知事賞

奈良県

奈良県施策のご紹介

奈良県では、協働型社会の実現を目指し、次の3本柱で各種施策を展開しています。

- ①地域貢献活動への参加促進
- ②地域課題の解決に取り組む団体の支援
- ③協働を推進するための体制整備及び、個別協働プロジェクトの推進

参画の推進

団体の支援

協働の推進



県民・企業の寄付を原資として、地域社会の課題解決に取り組む団体を助成します。みなさんの想いを団体の活動につなげる新しい社会のしくみです。

寄付者が希望する活動テーマや地域で事業を募集

テーマ希望寄付

- ・寄付実績 20,211,551円（平成26年2月末現在）
下記のテーマにつき、延べ33団体にに対し助成
- ・寄付者
 - ・アサヒビール株式会社
【奈良県吉野山のヤマザクラ保護・育成事業】
【奈良県が誇る文化財の保全事業】
【奈良県の里地・里山保全事業】
 - ・株式会社タカトリ
【地球温暖化防止事業】
【緑化活動推進事業】
 - ・「小さな親切」運動奈良県本部
【犯罪・交通事故被害者及びその家族等の支援事業】
 - ・大和信用金庫
【大和川の水質改善事業】
【大和川水系の水環境改善事業】
 - ・イオンリテール株式会社
【奈良の文化遺産やまちなみの保全事業】

登録団体の中から支援したい団体を選ぶ！ 登録団体数65団体

団体支援寄付

- ・寄付実績 登録団体のうち25団体にに対し、53件の寄付
- ・寄付額計5,204,000円（平成26年2月末現在）

広く地域課題の解決を進めるために活用します！

一般寄付

- ・寄付実績 8件
- ・寄付額計125,526円（平成26年2月末現在）

協力企業のバナーをクリック！バナー掲載者を募集中です。

ワンクリック寄付

- ・寄付額 計15,380円
- ・バナー掲載者 奈良中央信用金庫、大和信用金庫、株式会社明成
（平成26年2月末現在）



NPO等が地域の課題やニーズに主体的に対応し地域貢献ができるよう、その自主・自発的な活動と協働への取り組みを支援しています。

＜対象となる団体＞

- 奈良県内に事務所を有し、県内で1年以上活動する次の団体が対象となります。
1. NPO法人、市民活動・ボランティア団体等
 2. 一般社団・財団法人、公益社団・財団法人、特例民法法人等（※国・地方公共団体から出資金または運営補助金が出ている法人は除く）
 3. 自治会・町内会、婦人会、老人会、PTA等
 4. 複数のNPOで構成する実行委員会等

＜対象となる事業＞

1. 地域における課題及びニーズに対して、NPO等と市町村が適切な役割分担のもと、共通の目的をもって協働して実施することで相乗効果が見込める事業であること
2. 申請者の既存事業と同一の事業にあっては、それを拡充するものであること
3. 特定の個人や団体のみが利益を受ける事業でないこと
4. 営利を目的としない事業であること

事業年度	採択数／応募数	成果報告会 場（ ）内は実施会場
平成23年度	17事業／19事業	平成24年7月21日（奈良商工会議所）
平成24年度	25事業／46事業	平成25年9月6日（奈良商工会議所）
平成25年度	18事業／25事業	平成26年9月頃予定



平成32年度を目途に県内全域に小学校区程度の単位で地域プラットフォームを設置することを目指して取り組んでいます。（「奈良県協働推進指針」より）

地域の安全、環境美化、少子高齢化問題など、地域の課題はさまざまです。様々な主体（自治会、企業、NPO、学校、行政等）がそれぞれ単独で課題を解決するには限界が見られる場合があります。地域プラットフォームとは、地域の課題やニーズに関心を持ち自らが積極的ににかかわる住民や団体が集い、様々な立場を超えてそれぞれが得意とするネットワークや知恵を活かしながら、地域の将来像を考えるために話し合いを重ね、それぞれが単独で解決することが難しい地域の課題解決に連携・協働して取り組む場です。県では、平成26年度から地域プラットフォームの設置に向けた支援を強化し、よりくらしやすい地域づくりを目指します。



発表者募集中



第9回 関西元気な地域づくり発表会

「第9回関西元気な地域づくり発表会」では、地域の魅力や個性を活かした「地域づくり」や「まちづくり」に取り組んでいる元気な皆さまを募集しています。皆さまの活動内容を紹介していただき、お集まり頂いた皆さまとの情報交換・交流や、今後の活動の発展に役立つヒントやノウハウの他、このような地域づくりの輪がさらに広がることを目指しています。関西の元気をお待ちしております！ <詳細はホームページを参照>

 発表者の募集対象	近畿2府5県（福井県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県）や周辺地域で、地域づくり・まちづくりに積極的に取り組む活動団体【応募締切は1月31日（金）】
 発表者の募集部門	1. 観光交流 観光交流に関連のある地域活性化に向けた取組み 2. 地域資源活用 地域のシンボルとなる個性や魅力のある地域資源を活かした地域活性化への取組み 3. コミュニティ・防災減災 絆を深めた地域コミュニティの活性化や、自主防災組織による安心安全な取組み
 問合せ先	「関西元気宣言」発信運動本部事務局 （国土交通省近畿地方整備局企画部企図課） 〒540-8588 大阪市中央区大手前1-5-44 TEL: 06-6942-4090 E-mail: genki_happy@kkr.mli.go.jp

<<開催概要>>

日 時：平成26年3月1日（土） 14:00～17:30

会 場：大阪合同庁舎1号館 第1別館（大阪市中央区＜天満橋駅スグ>）

【第1部】基調講演（ヒトノミクスから考える地域の未来（仮））
 講師：NPO法人 グリーンバレー理事長 大南 信也 氏
2010年福井県市長に就任。米国スタンフォード大学修了。90年代の初めに地元福井県で起業家として「信也生保のまちづくり」を提議。99年福井県生まれの産地産地プログラム「アット・アット・アット」を立ち上げ、地元産品を積極的に活用。11年福井県市長に就任。上知となる社会活動人口増を達成。産地産地の活性化を受け入れ、人口増の機会を捉え「産地産地」を推進。12年産地産地を推進し「アット・アット」の活用により、ふるさとづくりを推進。産地産地（産地産地）。

【第2部】応募団体による発表会（部門ごとに実施）
 【第1分科会】観光交流部門 座長 森重 昌之 阪南大学准教授
 【第2分科会】地域資源活用部門 座長 堀山 俊 「人と自然とまちづくり」理事長
 【第3分科会】コミュニティ・防災減災部門 座長 田嶋 和彦 兵庫大学教授

【第3部】全体交流会
各発表者、観覧者、事務局、第2部（各分科会）の発表者や観覧者の皆さんも、地域づくりにおける好事例や成功事例、今後の地域づくりのあり方について意見交換し、交流を図ります。

【その他】パネル展示
関西各自治体の発表資料の他、応募団体（各分科会）の発表資料の展示を行います。

主催：「関西元気宣言」発信運動本部 後援：一般社団法人近畿建設協会

「関西元気宣言」発信運動本部
 ホームページでご確認下さい  「関西元気宣言」

発表者募集



第9回 関西元気な地域づくり発表会

「第9回関西元気な地域づくり発表会」では、地域の魅力や個性を活かした「地域づくり」や「まちづくり」に取り組んでいる元気な皆さまを募集しています。皆さまの活動内容を紹介していただき、お集まり頂いた皆さまとの情報交換・交流や、今後の活動の発展に役立つヒントやノウハウの他、このような地域づくりの輪がさらに広がることを目指しています。関西の元気をお待ちしております！

募集(応募締切は1月31日)

1. 観光交流 部門
2. 地域資源活用 部門
3. コミュニティ・防災減災 部門

開催概要(詳細は裏面を参照してください)

- ・開催：平成26年3月1日(土)14:00～17:30
- ・会場：大阪合同庁舎1号館 第1別館(大阪市中央区大手前1-5-44)
- ・内容：基調講演、応募団体による活動発表、全体交流会 など

文化力「関西元気宣言」

主催：「関西元気宣言」発信運動本部

第9回 関西元気な地域づくり発表会

◆募集部門 以下の部門で発表者を募集します。

<観光交流部門>

観光交流に関連のある地域活性化に向けた取組み

【応募例】

- ・おもてなしの心で地域の魅力を向上させる取組
- ・他地域と交流することで地域の活性化に寄与する取組
- ・地域の食料や文化などを活かした観光の活性化に発展した地域独自の取組
- ・賑わい空間の創出等の工夫による交流促進の取組 等

<地域資源活用部門>

地域のシンボルとなる個性や魅力のある地域資源を活かした地域活性化への取組み

【応募例】

- ・地域の歴史・文化(伝統的な技術、建造物、祭等の継承)を活かした取組
- ・地域資源を発掘・活用し、自立した地域づくりに向けた取組
- ・歴史的な町並みの景観や自然環境等を活かした地域づくりの取組
- ・地域の特性を活かしたコミュニティビジネスの取組 等

<コミュニティ・防災減災部門>

絆を意識した地域コミュニティの活性化や、自主防災組織による安心安全な取組み

【応募例】

- ・地域を自ら住みよくなるための活動とおとしたコミュニティ活性化の取組
- ・地域に愛着を持ち、次世代の人材育成を目指す地域づくりの取組
- ・公園や道路等の社会資本(公共空間)の美化活動等から発展した取組
- ・自助・共助に寄与する地域住民が主体となった防災減災に関する取組 等

◆発表対象団体

近畿2府5県(福井県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県)や周辺地域で、地域づくり・まちづくりに積極的に取り組む活動団体(例:自治会、NPO法人、地方公共団体、学校、民間企業等)を対象とします。

※行政機関単独による活動は対象外(行政機関の協働による活動は対象)

※行政機関による施策紹介はパネル展示の予定(詳細は事務局へ)

※応募内容等により、発表部門は事務局で変更することがあります

※応募多数の場合は、書類選考を行う場合があります

◆応募方法

応募要領(HP掲載)に従い応募用紙等を作成の上、

下記の提出先へ郵送及びEメールで提出して下さい。

「関西元気宣言」発信運動HPは、右のQRコード、

若しくはインターネットで「第9回関西元気」を検索。

http://www.kkr.mlit.go.jp/plan/kansai-genki/symposium/140301_report/index.html



◆お問合せ先・応募先

「関西元気宣言」発信運動本部事務局

〒540-8586 大阪市中央区大手前1-5-44

(国土交通省近畿地方整備局企画部企画課)

TEL:06-6942-4090 FAX:06-6942-7463

E-mail: genki_happy@kkr.mlit.go.jp

◆発表者募集の応募締切日

平成26年1月31日(金)17:00まで

◆発表会の開催概要

開催日: 平成26年3月1日(土)14:00~17:30

会場: 大阪合同庁舎1号館 第1別館(大阪市中央区大手前1-5-44 <地下鉄天満橋駅スグ>)

<第1部>基調講演(演題:ヒトノミクスから考える地域の未来(仮))

講師:NPO法人グリーンパレー理事長 大南 信也 氏

53年徳島県神山町生まれ。米国スタンフォード大学院修了。90年代の初頭より神山町国際交流協会を通じて「住民主導のまちづくり」を展開。98年米国生まれの道路清掃プログラム「アドプト・ハイウェイ」を全国に先駆けて実施するとともに、「神山アーティスト・イン・レジデンス」などのアート事業を相次いで始動。11年度神山町史上初となる社会動員人口増を達成。過疎化の現状を受け入れ人口構成の健全化を目指す「創造的過疎」を持論に各種まちづくり事業を展開中(TV「ガイアの夜明け」でも特集)。ふるさとづくり有識者会議委員(内閣官房)他、ご活躍中。

<第2部>応募団体による活動内容の発表

【第1分科会】観光交流部門 座長:森重 昌之 阪南大学准教授

【第2分科会】地域資源活用部門 座長:横山 葵 「人と自然とまちづくり」と理事長

【第3分科会】コミュニティ・防災減災部門 座長:田端 和彦 兵庫大学教授

分科会では、応募団体から取組事例を発表していただき、地域づくりに係る課題等について座長、他の発表団体及び聴講者の皆さんも交えて意見交換します。

<第3部>全体交流会

森重先生、田端先生、横山先生、第2部(各分科会)の発表者や聴講者の皆さんも交え、地域づくりの好事例等を中心に今後の地域づくり・まちづくりについて意見交換し交流を深めます。

<その他>パネル展示

国や自治体の施策紹介、ゆめづくりまちづくり賞等の受賞団体活動紹介



大南 信也
NPO法人グリーン
パレー 理事長



森重 昌之
阪南大学准教授



田端 和彦
兵庫大学教授 附属
総合科学研究所長



横山 葵
NPO法人「人と自然と
まちづくり」と理事長

主催:「関西元気宣言」発信運動本部

後援:一般社団法人近畿建設協会

「関西元気宣言」発信運動は、関西が元気あふれる魅力的な注目すべき地域であるとの認識を広げるため、日本全国さらには世界に向けて、関西の元気を発信するものです。

第9回 関西元気な地域づくり発表会

◆開催概要

- ・開催日:平成26年3月1日(土)
・場所:大阪合同庁舎1号館 第1別館
(大阪市中央区大手前1-5-44)
・定員:100名 (一般観覧の申込は先着順)
・開演:14:00 (開場は13:30)



ホームページ

◆アドバイザー・コメンテーター



大南 信也
NPO法人グリーンバレー
理事長



森重 昌之
阪南大学
准教授



横山 あおい
「人と自然とまちづくりと」
理事長



田嶋 和彦
兵庫大学
所長/教授

◆プログラム

<第1部>基調講演 (14:00~14:50)

講師 大南 信也 氏 (NPO法人 グリーンバレー理事長)

演題「ヒトノミクスから考える地域の未来」

93年徳島県神山町生まれ。米国スタンフォード大学院修了。90年代の若様より神山町町民交際協会会長として「住民生活のまちづくり」を展開。98年米国生まれの芸術家育成プログラム「アドバンス・ハイウェイ」を全国に先駆けて実施するとともに、「神山・アーティスト・イン・レジデンス」などのアート事業を相次いで実施。11年度神山町上と結ぶ社会施設整人口増を達成、過疎化の現状を受け入れ人口規模の健全化を目指す「創造的過疎」を神鎮にもち替へる事業を推進中(TV「A・U」の放映)とて特集し、ふもとづくり有識者会議(市議、内閣官房)

主催：「関西元気宣言」発信運動本部
後援：一般社団法人近畿建設協会

＜第2部＞分科会（地域づくり活動団体から発表）（15:00～16:30）

関西で活躍中の地域づくり・まちづくりに取り組んでいる16の団体が集合し、地域の個性や魅力を活かした活動内容を発表します！

■ 制作目的の近代アートを通じて心とまじりつづ
■ 武蔵川にアートプロジェクトに
■ 東京湾奥地にある江戸時代地区でのアートを通じ、大団
■ 結や土地の歴史を学ぶ機会を創出
■ 地元住民の意見と人をつなげた活動づくり
■ 活動の成果を、アートプロジェクト
■ 活動を通じた教育活動に
■ アートとコミュニティに、アートがもたらす効果への調査を
■ 行う。調査結果をアートで取りよせる予定

[illegible][illegible]

<第3部>全体交流会・ディスカッション (16:40~17:30)

第2部の各分科会での発表など地域づくりにおける好事例を中心に、今後の地域づくり・まちづくりのあり方について、聴講者の皆さんも交えて意見交換を行います。

第9回関西元気な地域づくり発表会

関西元気な地域づくり発表会は、関西の元気を支える地域づくり・まちづくり活動の交流広場です。今回は近畿地方の各地から16の地域づくり団体が集まり、地域の個性を活かし、地域を元気にしている魅力的な活動を発表して頂きます！ 様々な地域づくり活動を見て、聴いて、交流することで、地域づくりの輪をさらに広げてみませんか？ご参加お待ちしております！

◆ 一般聴講の参加申し込み方法 ◆

- ◆ お申し込みは、FAXもしくはEメールにてお願いします。
- ◆ FAXの場合、下記の参加申し込み欄に必要事項を記入の上、事前にお申し込みください。
- ◆ Eメールの場合、メール本文に、参加者氏名、フリガナ、連絡先、聴講希望の分科会を記入の上送信していただき、事務局(TEL:06-6942-4090)に着信確認の電話連絡をお願いします。

※WEBメール(Gメール・yahooメール等)・レンタルサーバーを使用されている場合は、貴方のセキュリティ上、メールを受信できない場合があります。大変お手数ですが、念のため着信確認をお願いします。
※なお、メール送信時にエラーが発生した際は、FAXにてお申し込みいただくか事務局(TEL:06-6942-4090)までお問い合わせください。

- ◆ お申し込みは先着順とし、定員になり次第締め切らせていただきます。

- FAX申込先 : 06-6942-7463
- Eメール申込先 : genki_happy@kkr.mlit.go.jp



関西元気な地域づくり発表会
ホームページ

◆ 会場へのご案内 ◆

大阪合同庁舎1号館 第1別館
(大阪市中央区大手前1-5-44)

【会場アクセス】

- 地下鉄谷町線「天満橋」駅から徒歩約3分
- 京阪電鉄「天満橋」駅東口から徒歩約5分

※会場の「第1別館」へお越しの際には、大阪合同庁舎1号館(本館)の入館手続きは不要です。



◆ お問い合わせ・お申込み先 ◆

「関西元気宣言」発信運動本部 事務局

〒540-8586 大阪市中央区大手前1-5-44 (近畿地方整備局企画部企画課)

TEL:06-6942-4090 FAX:06-6942-7463 Eメール: genki_happy@kkr.mlit.go.jp

※会場設営等の準備のため、予め聴講希望の分科会の番号を記入して下さい。当日、変更等は可能です。

聴講希望の分科会番号→ ①:観光交流 ②:地域資源活用 ③:コミュニティ・防災減災

申込日	年 月 日			
フリガナ		聴講希望の 分科会番号	所 属	
代表者氏名				
フリガナ		聴講希望の 分科会番号	フリガナ	聴講希望の 分科会番号
氏 名			氏 名	
フリガナ		聴講希望の 分科会番号	フリガナ	聴講希望の 分科会番号
氏 名			氏 名	

※ご応募いただいた個人情報については個人情報保護法令等を遵守し、本発表会に関する会場運営、次年度企画への参考資料以外の目的では使用いたしません。

「関西元気宣言」発信運動本部事務局

(近畿地方整備局企画部企画課内)

〒540-8586

大阪市中央区大手前1-5-44 大阪合同庁舎第1号館

TEL:06-6942-4090 FAX:06-6942-7463

この事業は(社)近畿建設協会の後援を受けて実施しています。